

14.4  
994

14.4-994



倉敷市案内  
同市編  
昭和九年版

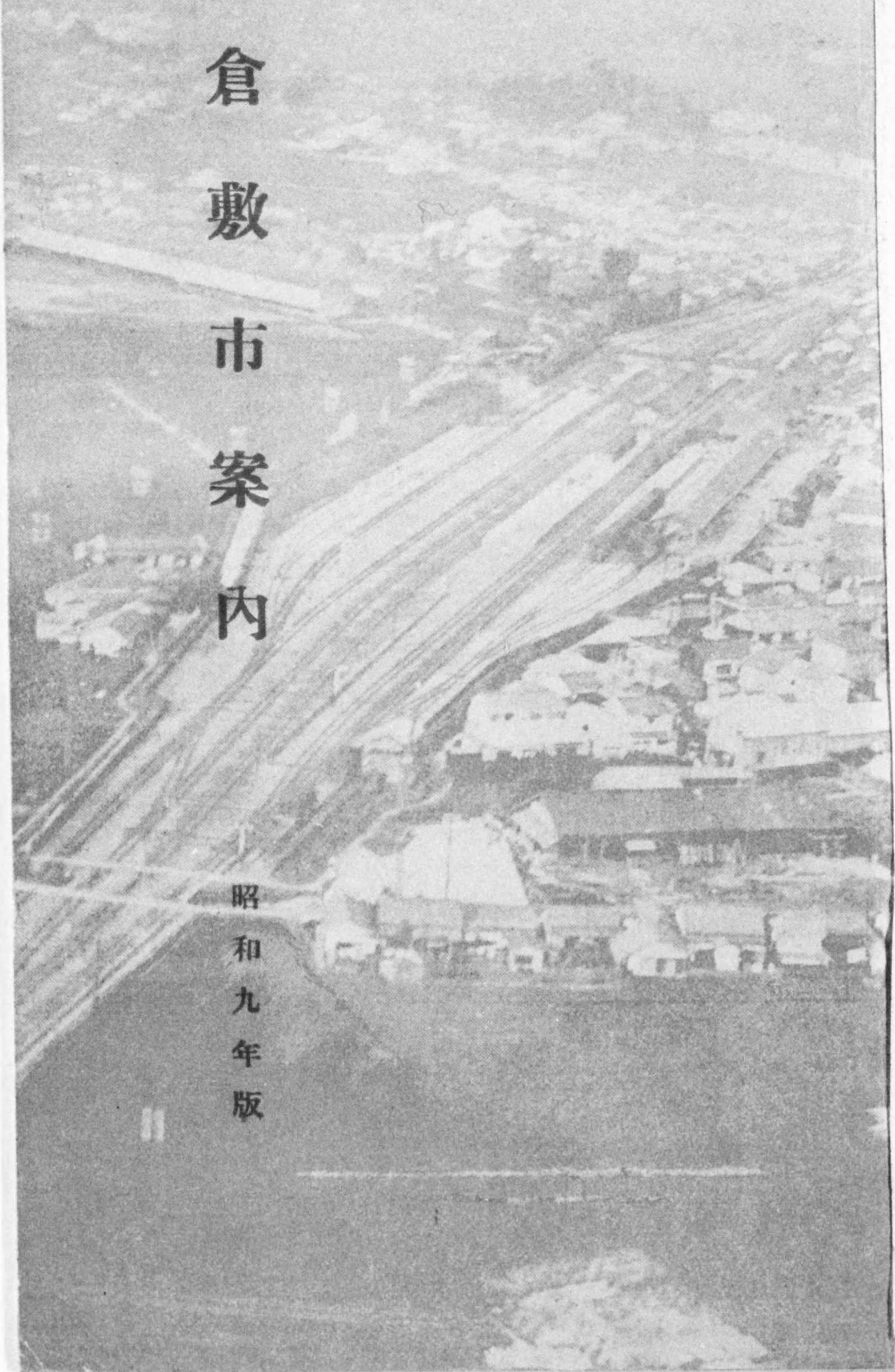


始

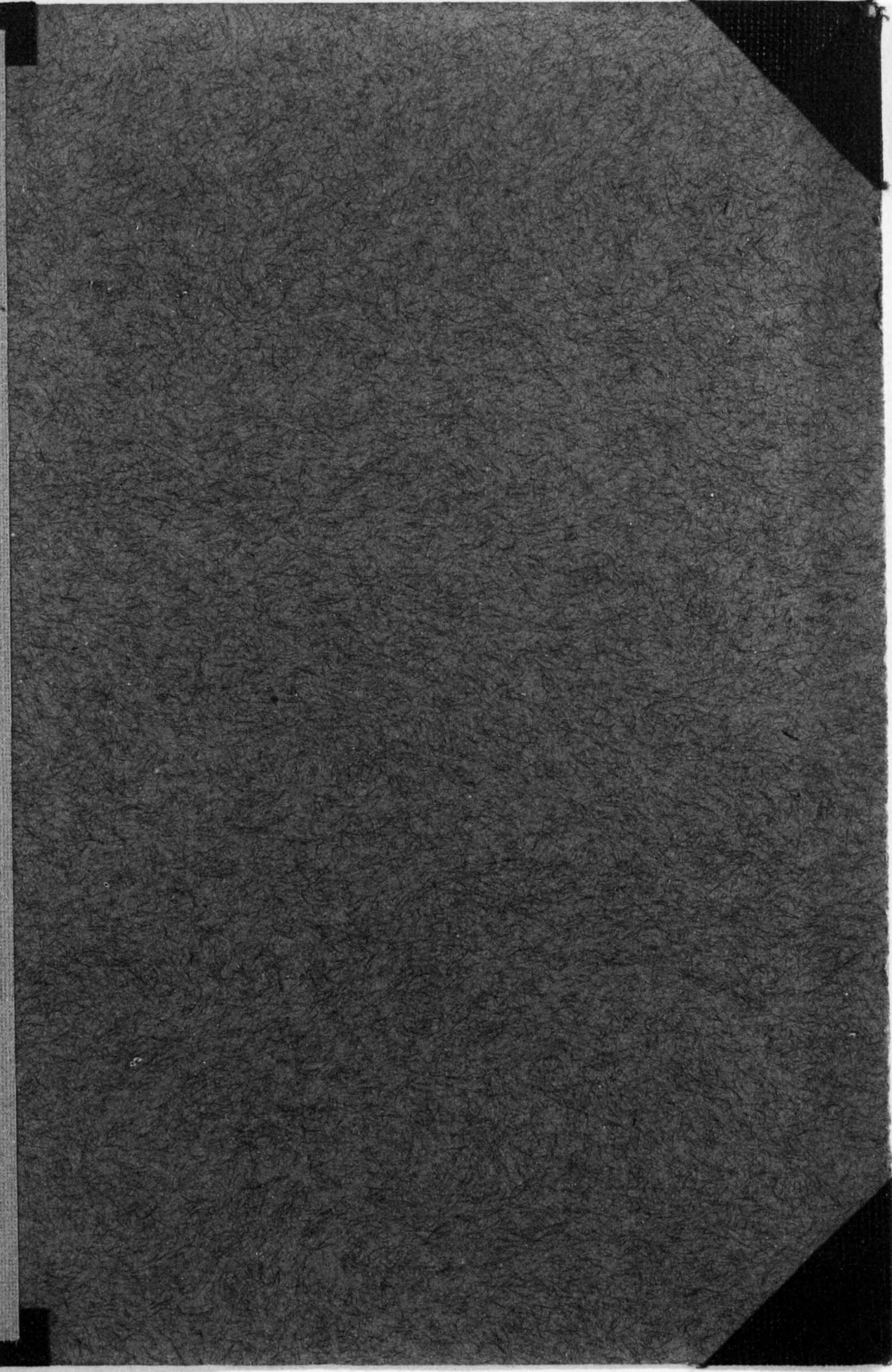


144

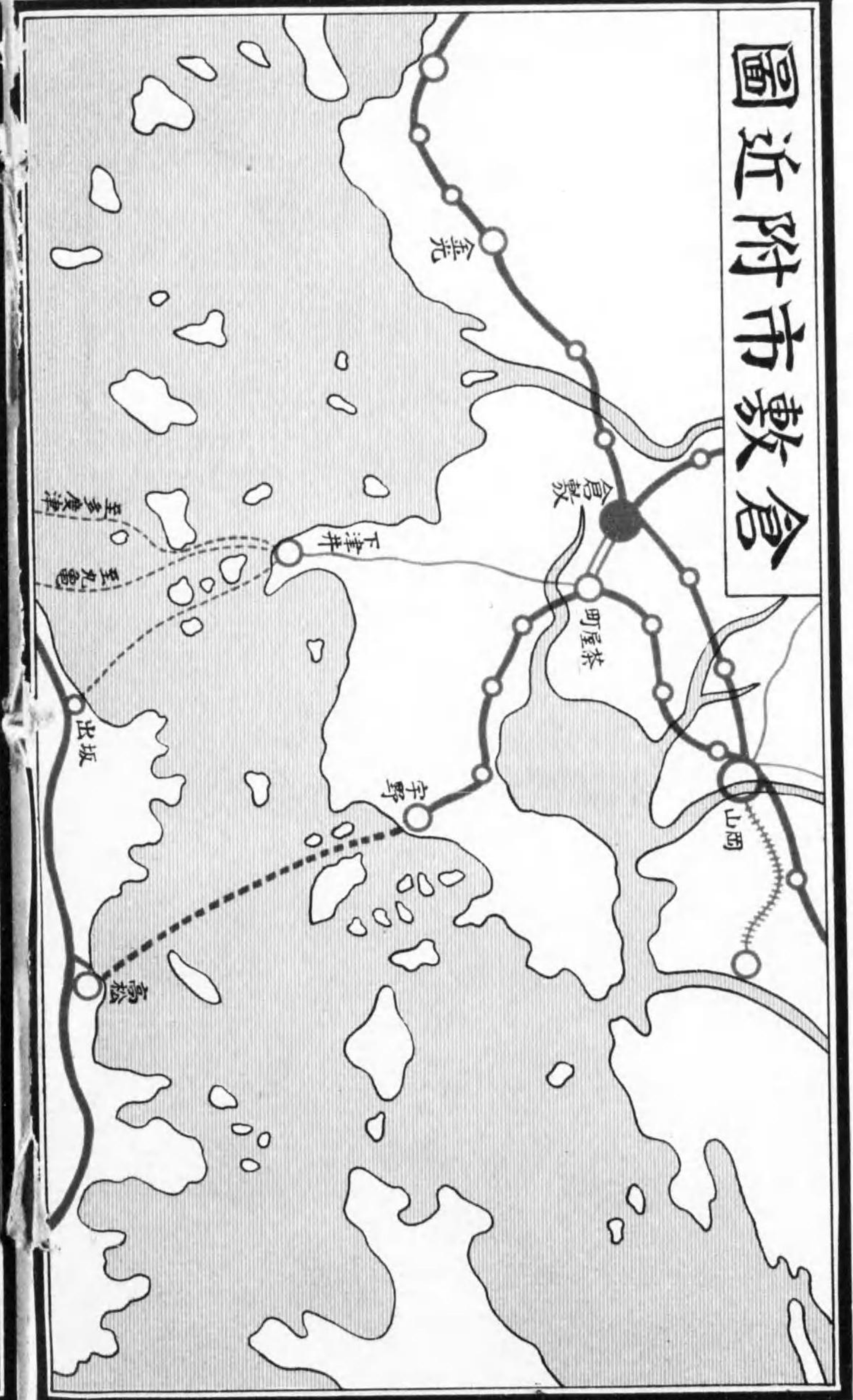
倉敷市案内



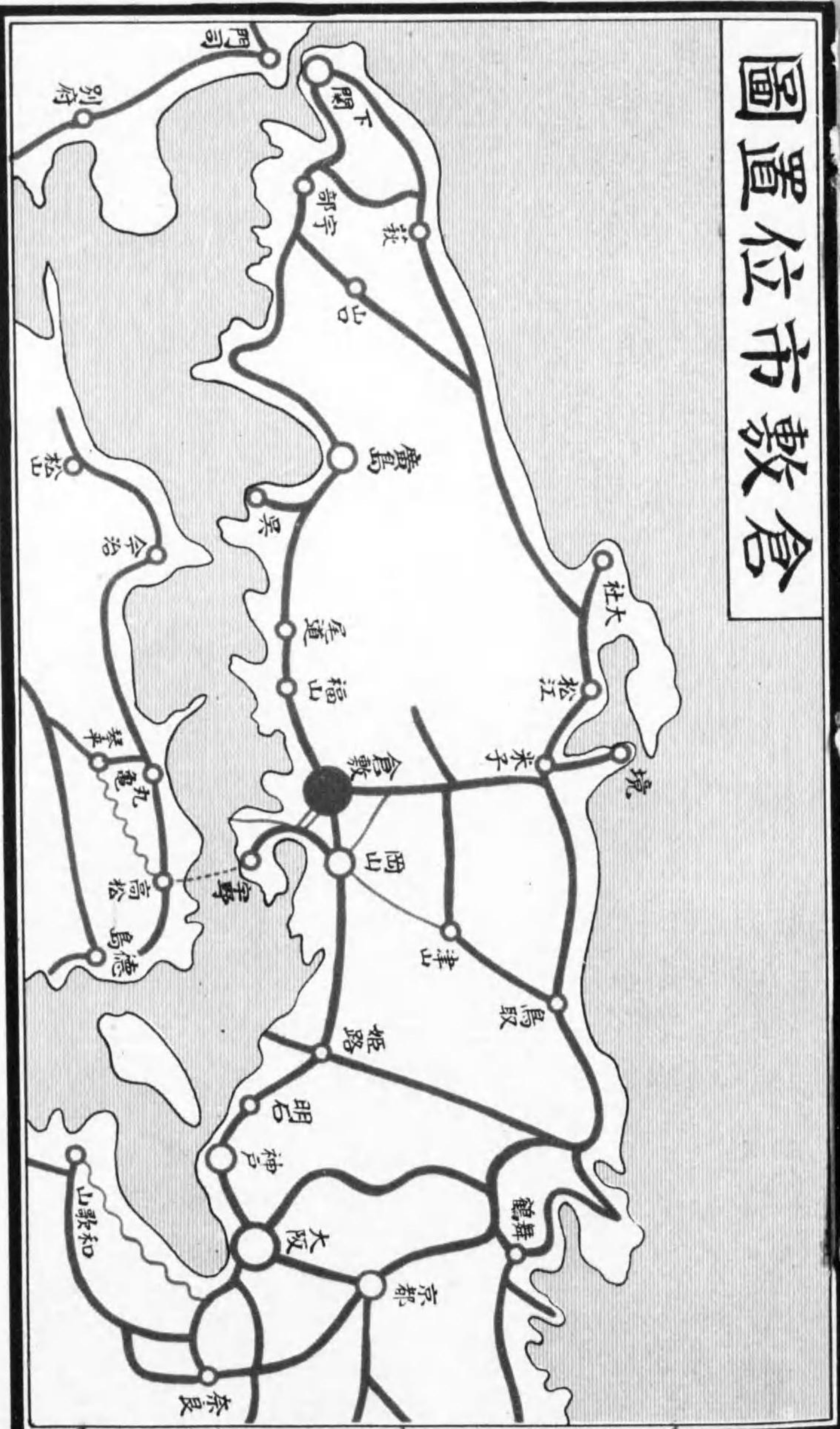
昭和九年版



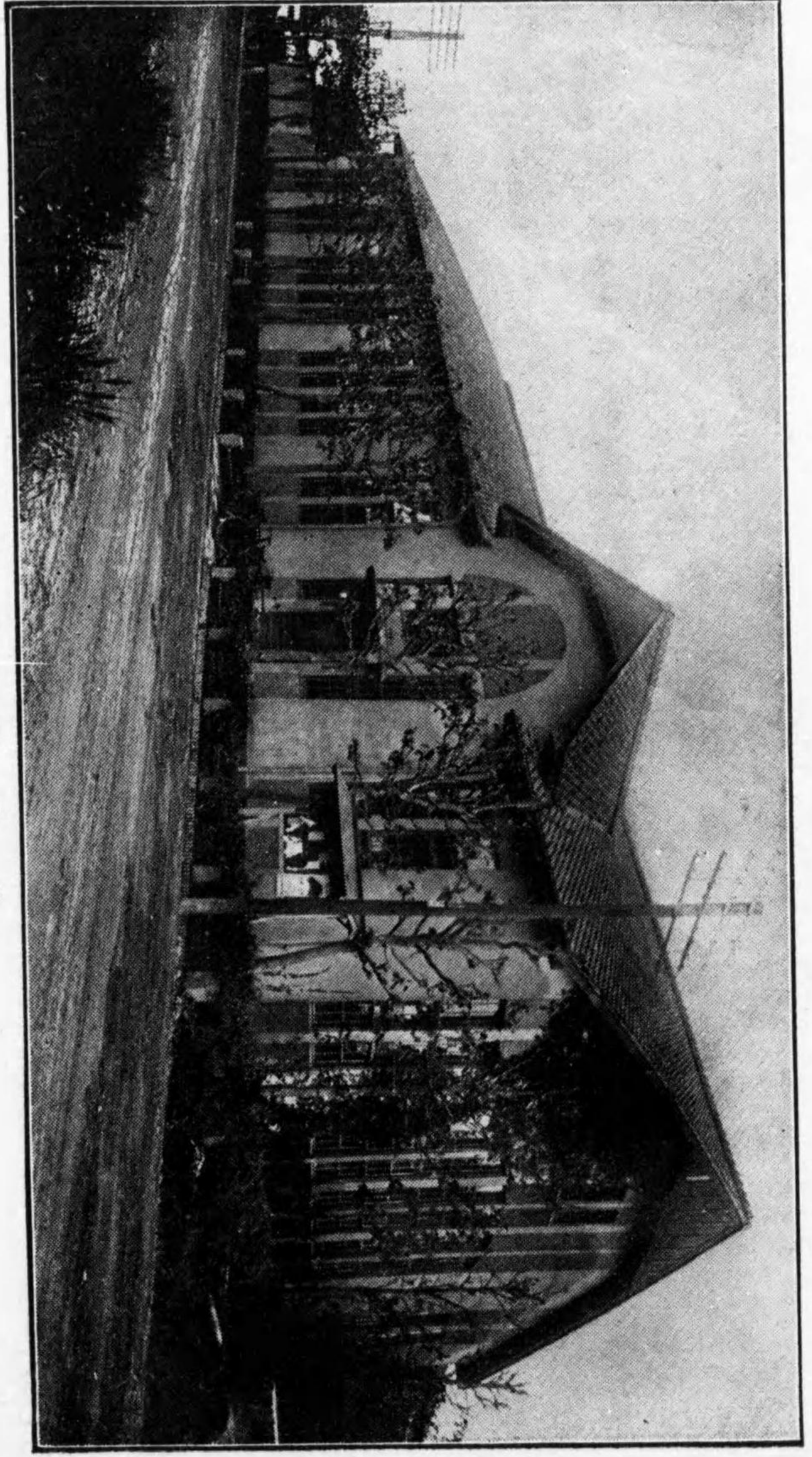
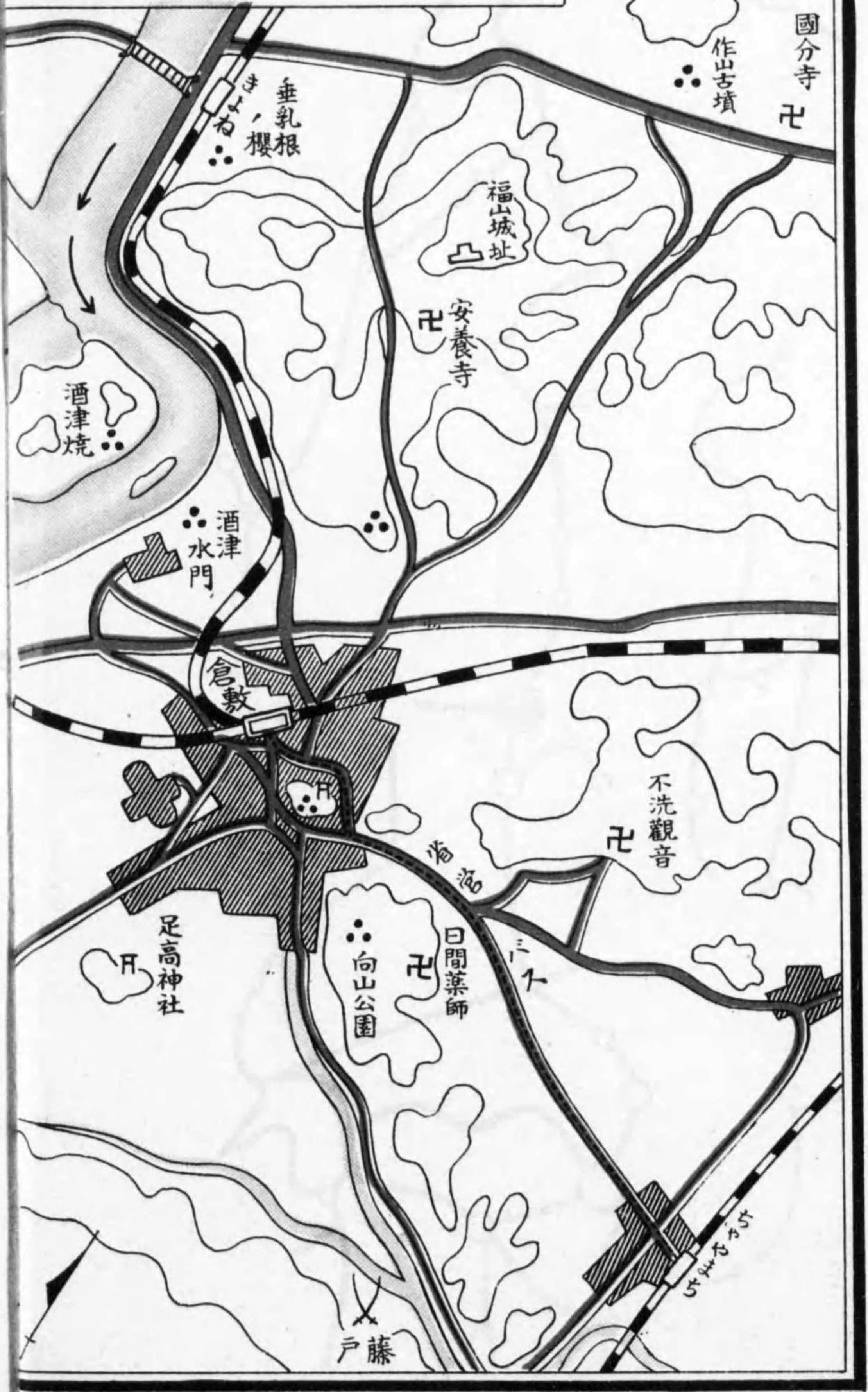
倉敷市附近圖



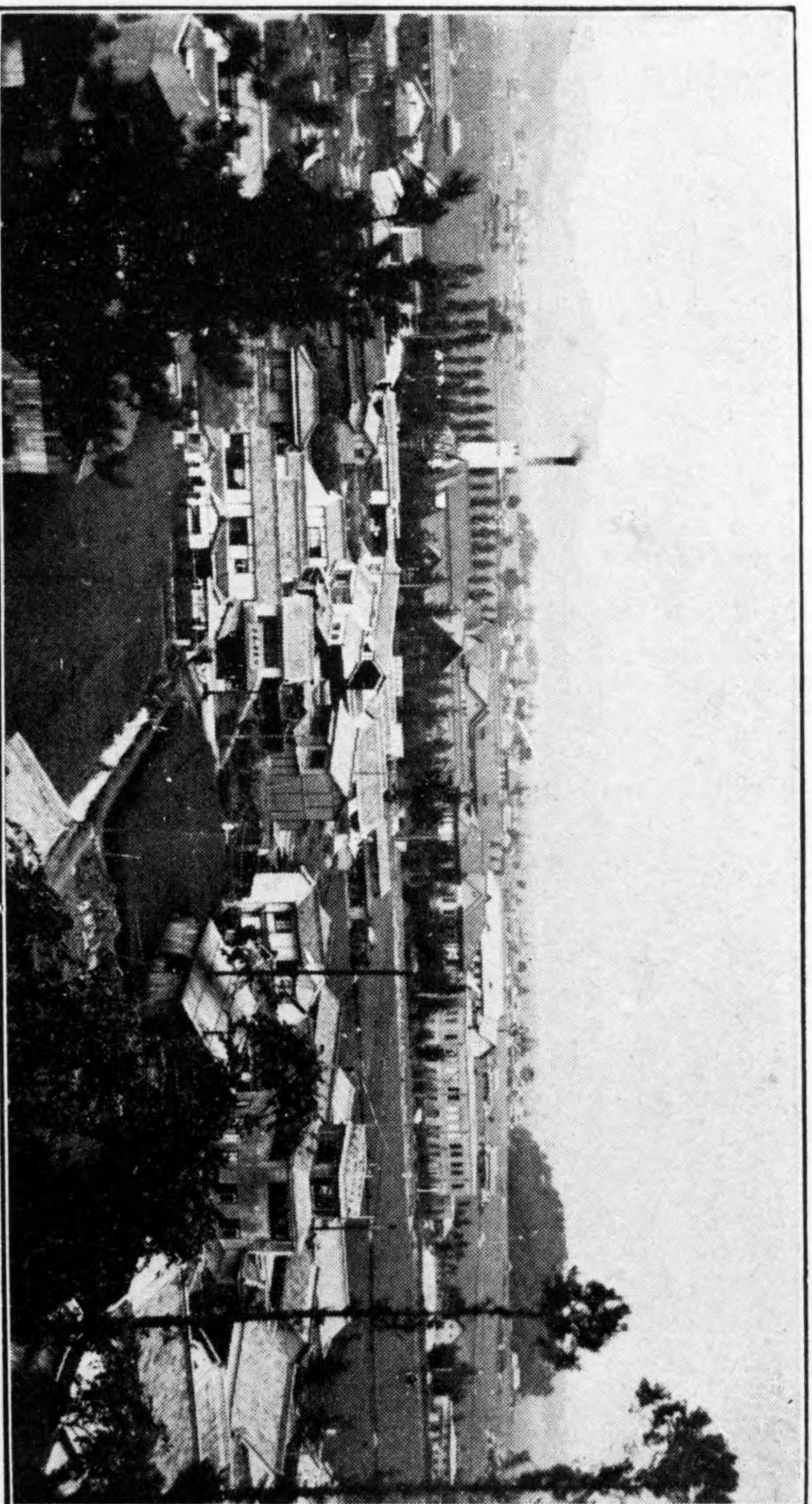
倉敷市位置圖



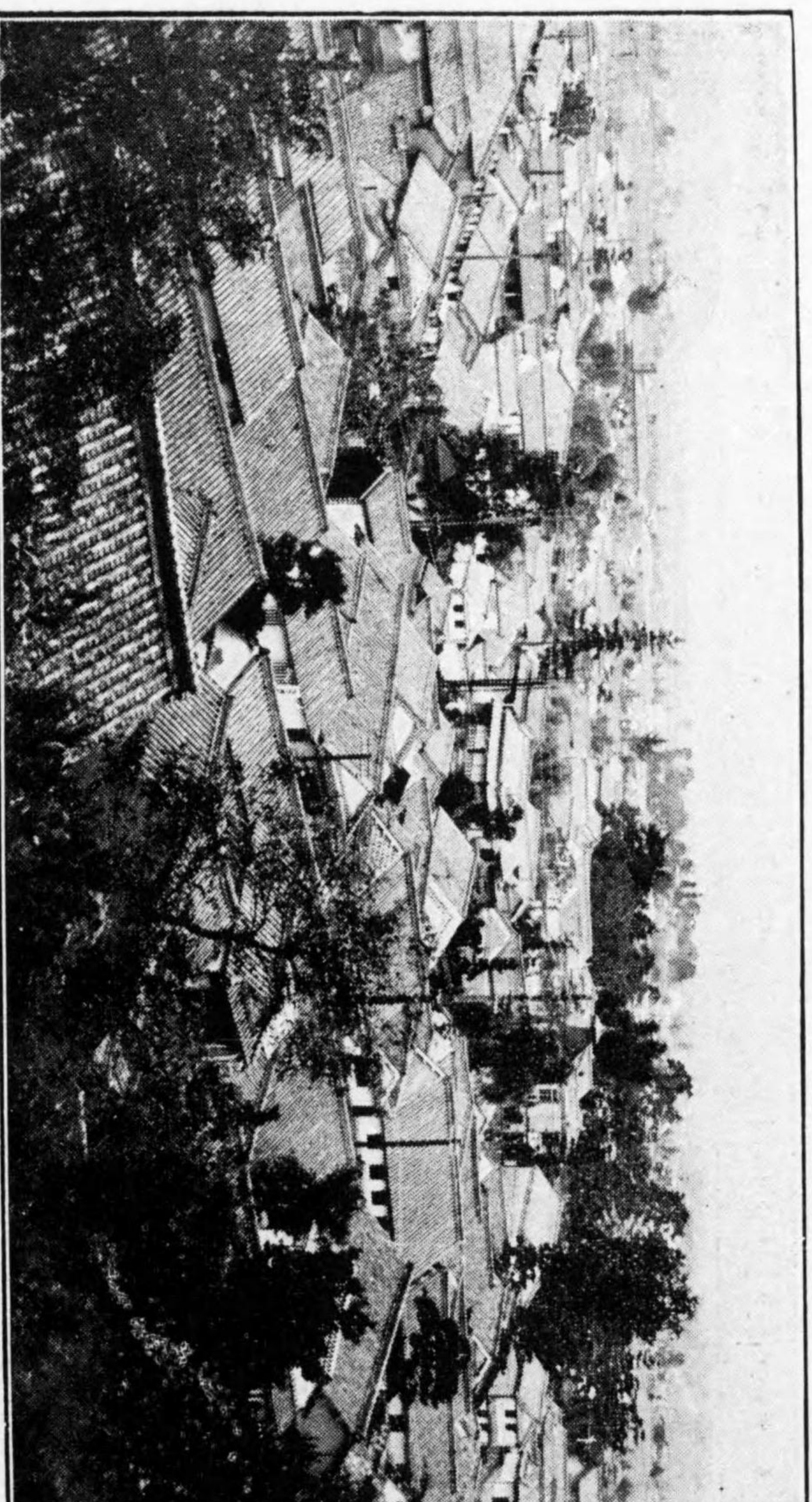
倉敷市郊外名勝圖



倉敷市役所

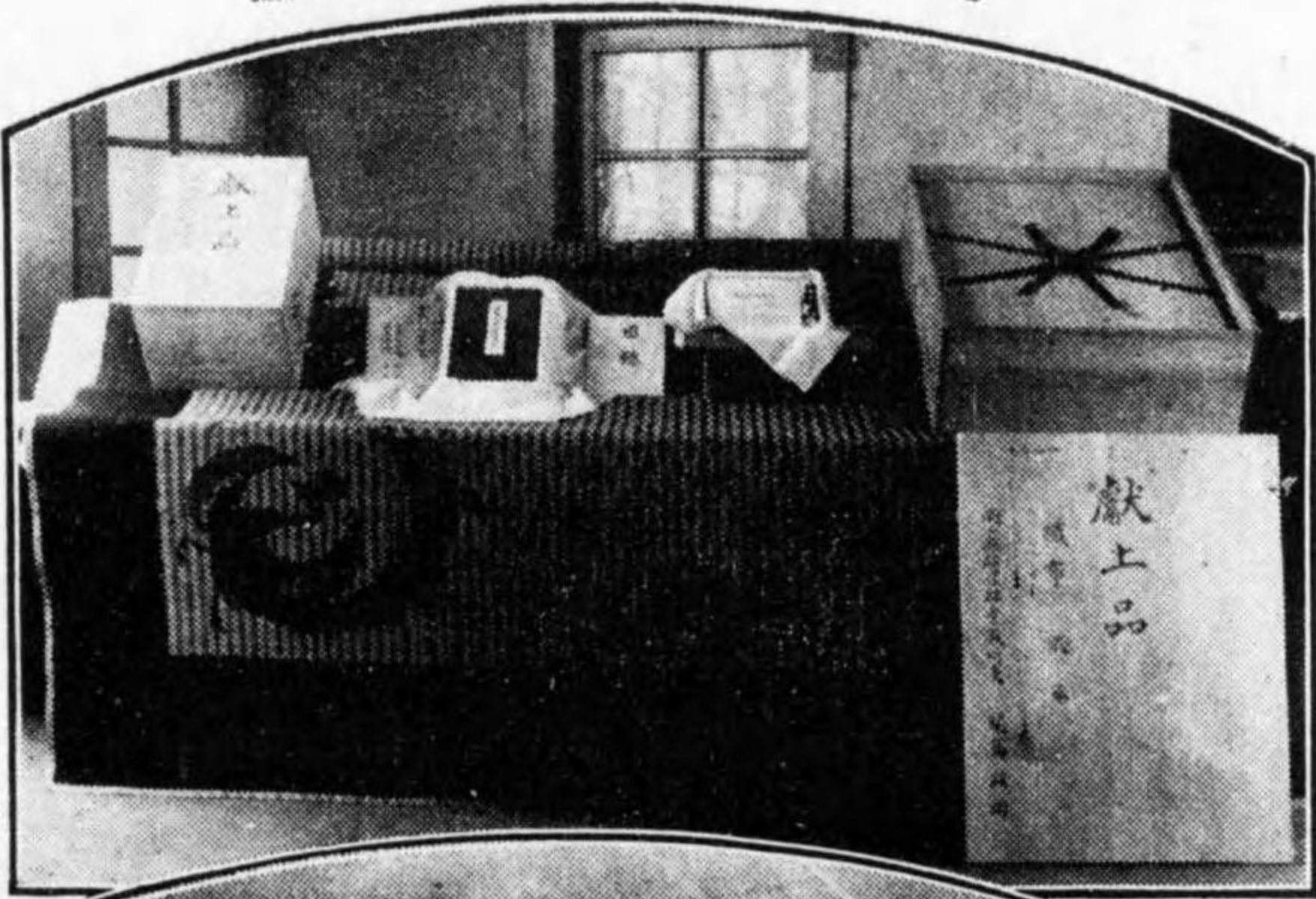


(部北東街市) 一 其 景 全 市 數 倉

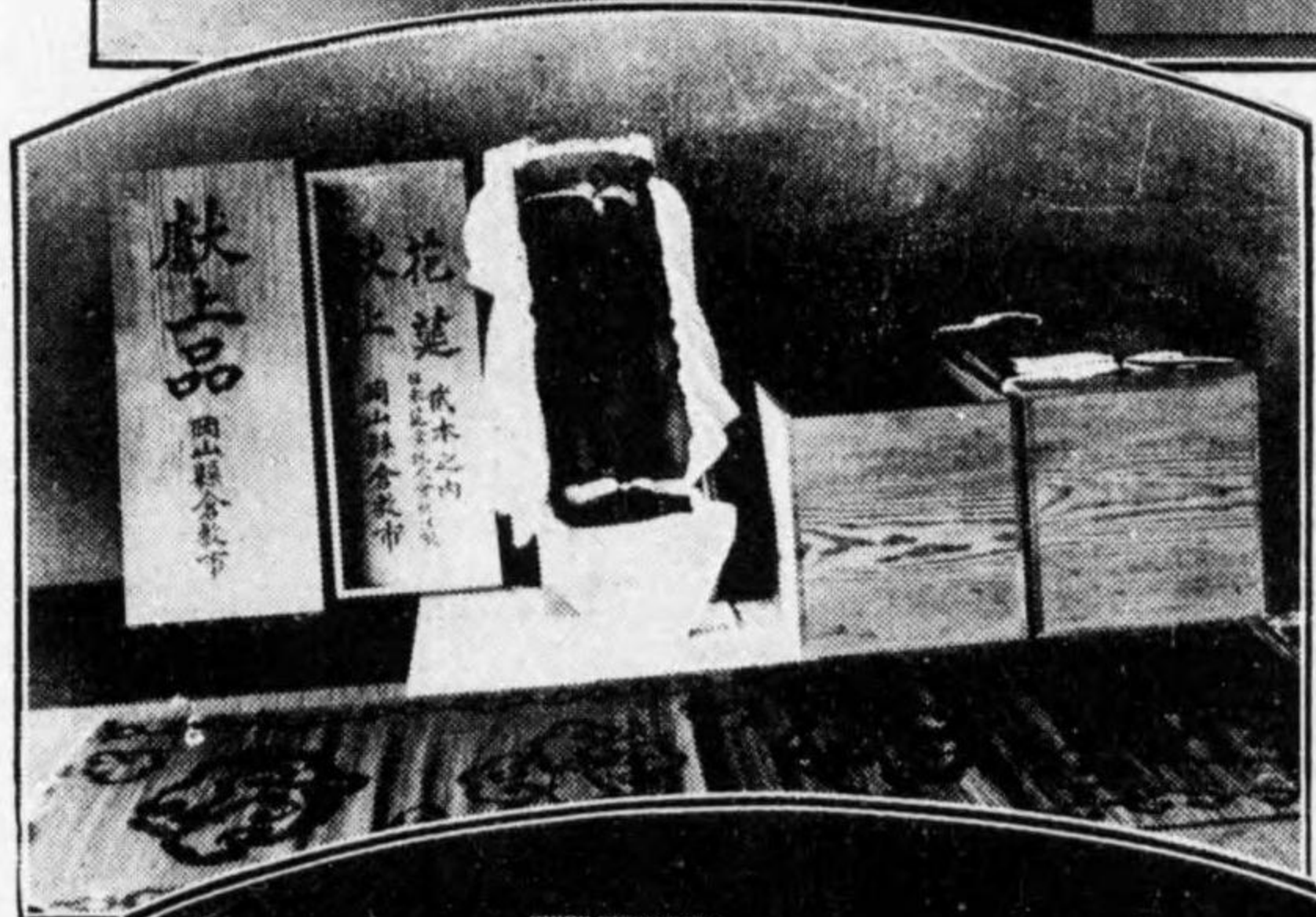


(部西南街市) 二 其 景 全 市 數 倉

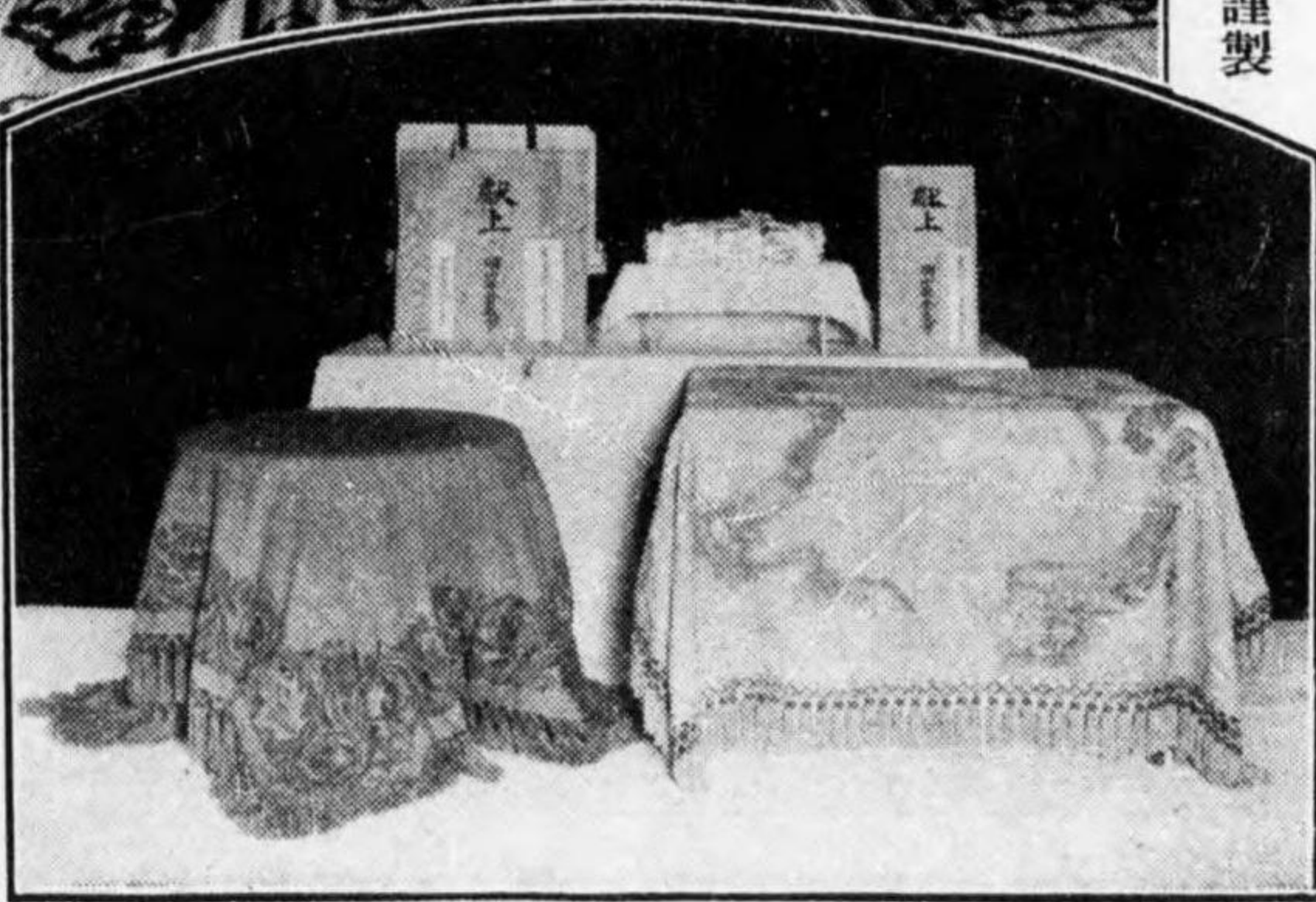
•• 品上獻の近最市本 ••



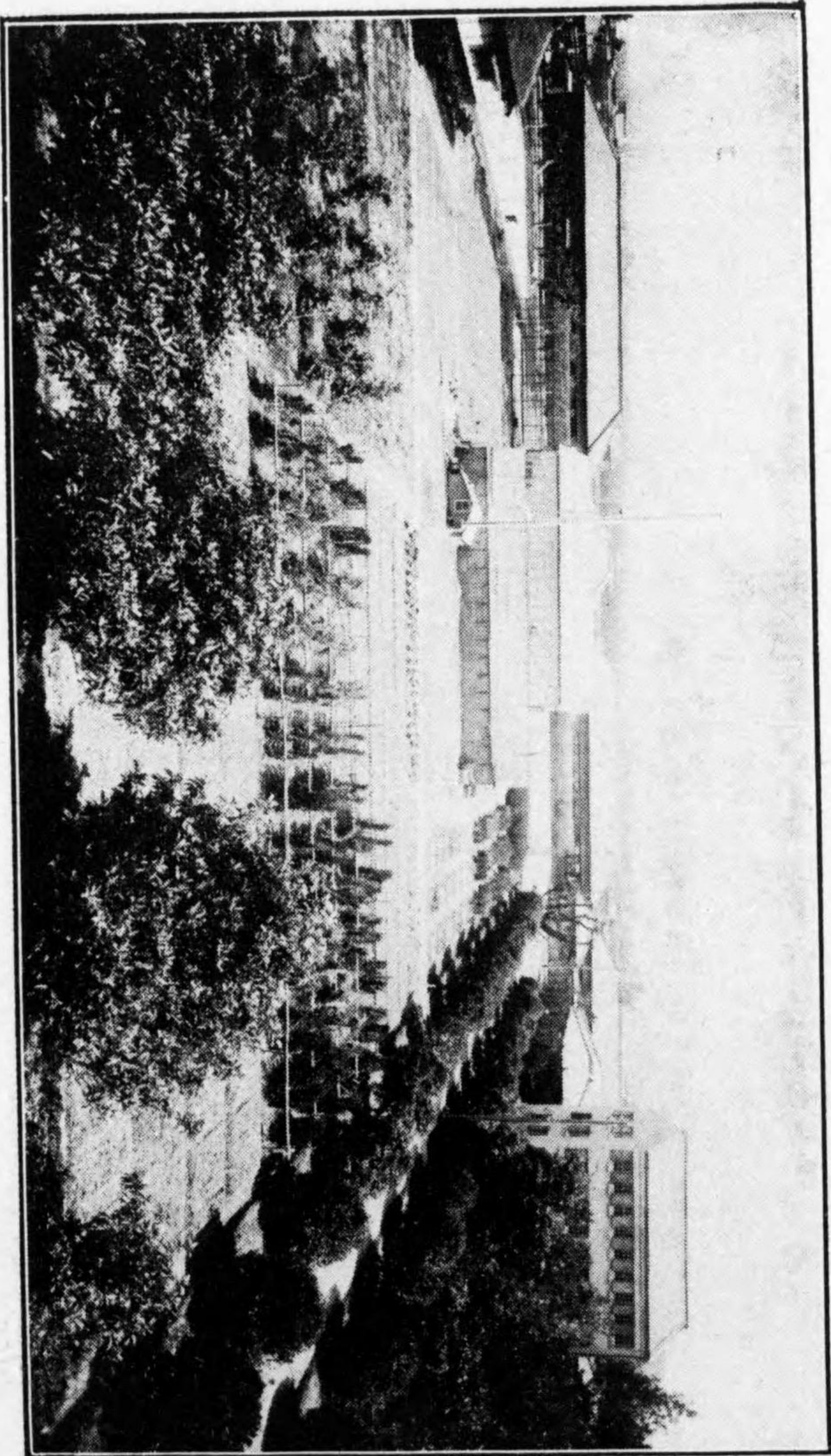
大正十五年三月  
東宮殿下當地ニ行啓在ラセラレシ  
際献上  
一織布 倉敷紡績株式會社謹製  
一野草薙 日本薙業株式會社謹製



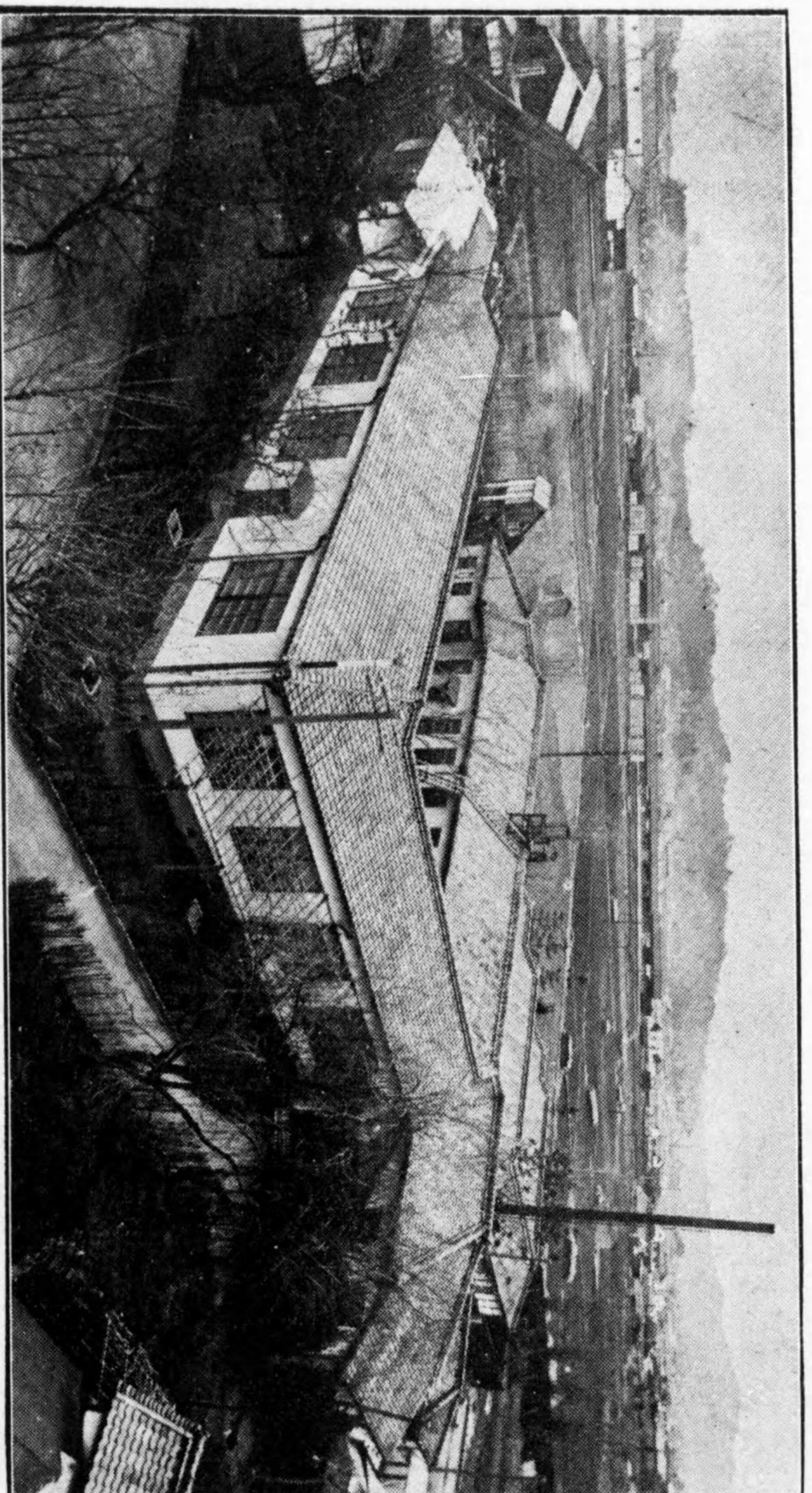
昭和三年十一月  
御大禮ニツキ献上  
一花薙 日本薙業株式會社謹製



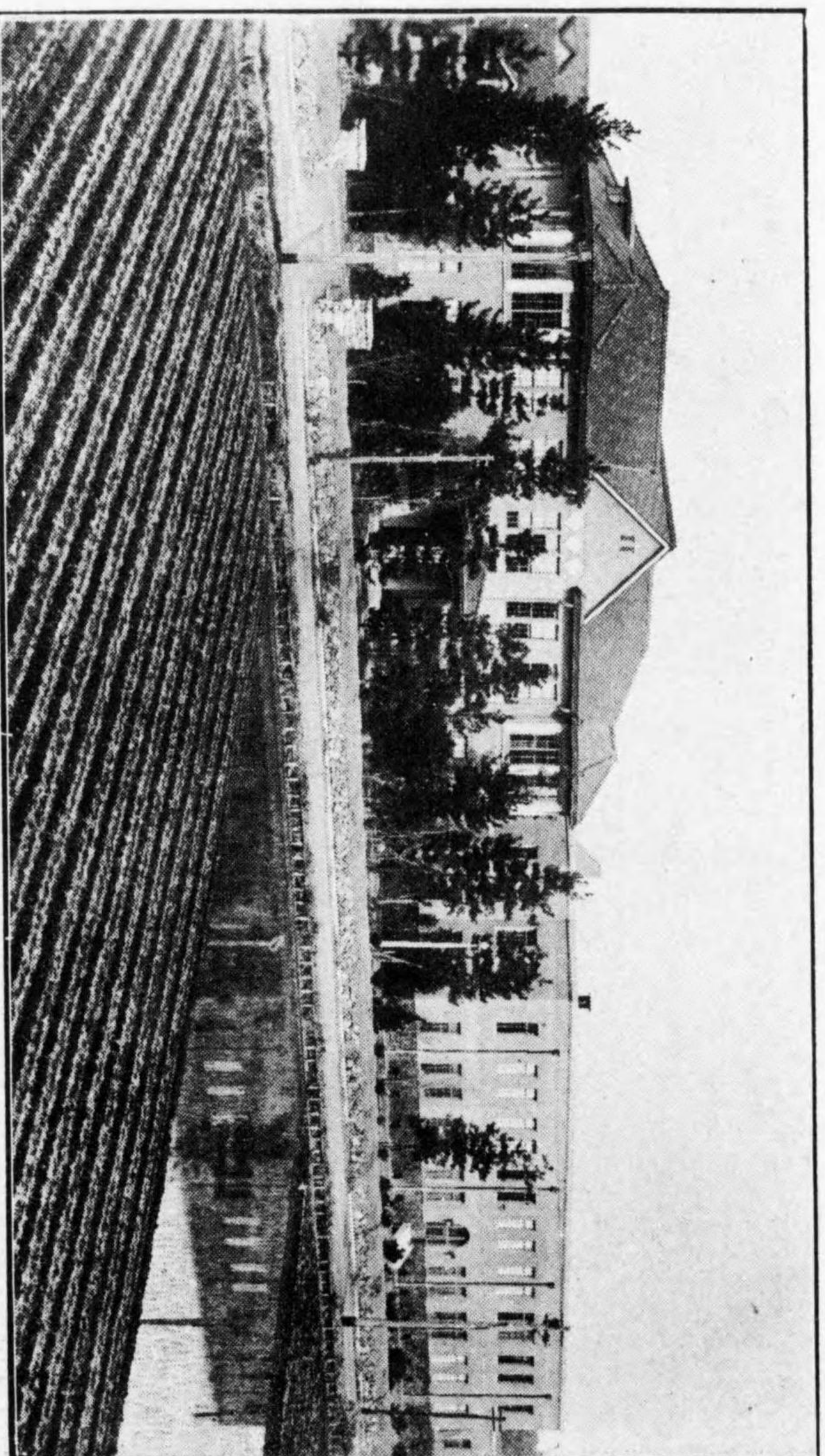
昭和五年十一月  
陸軍特別大演習御統監ノ爲縣下  
ニ行幸アラセラレシ際献上  
一人造絹絲 倉敷絹織株式會社謹製  
一人造絹絲 倉敷絹織株式會社謹製  
卓子掛



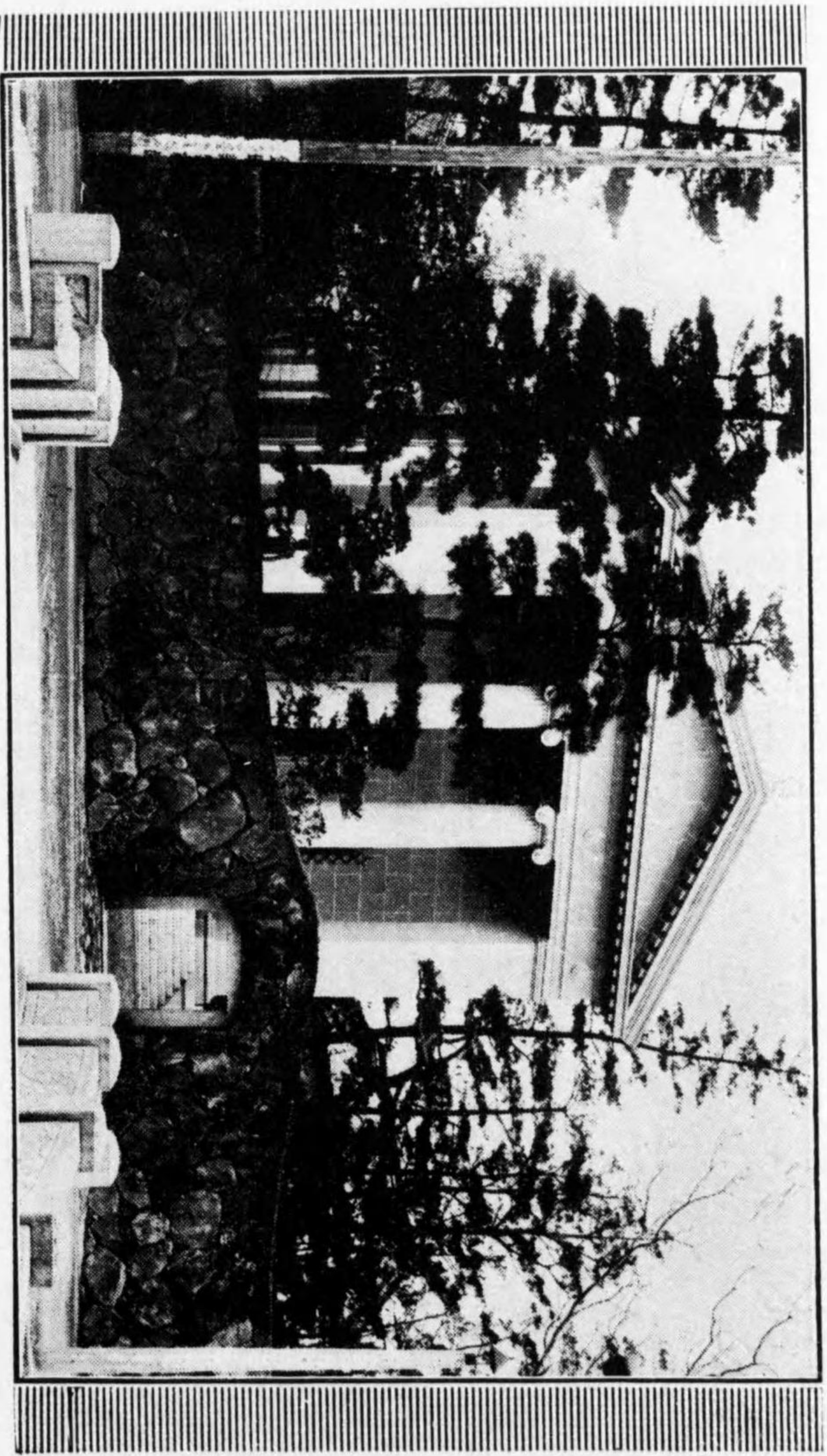
大 原 農 業 研 究 所



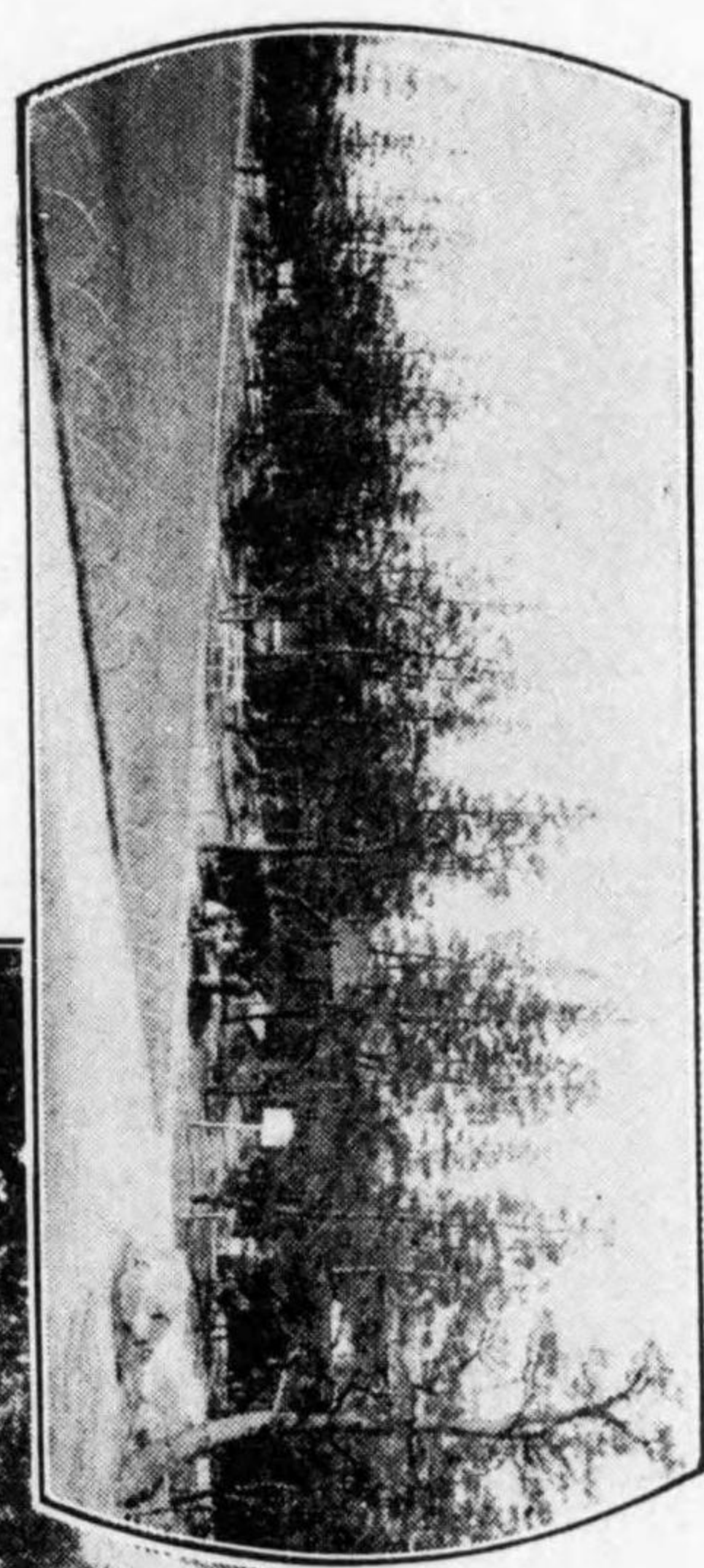
倉敷労働科學研究所



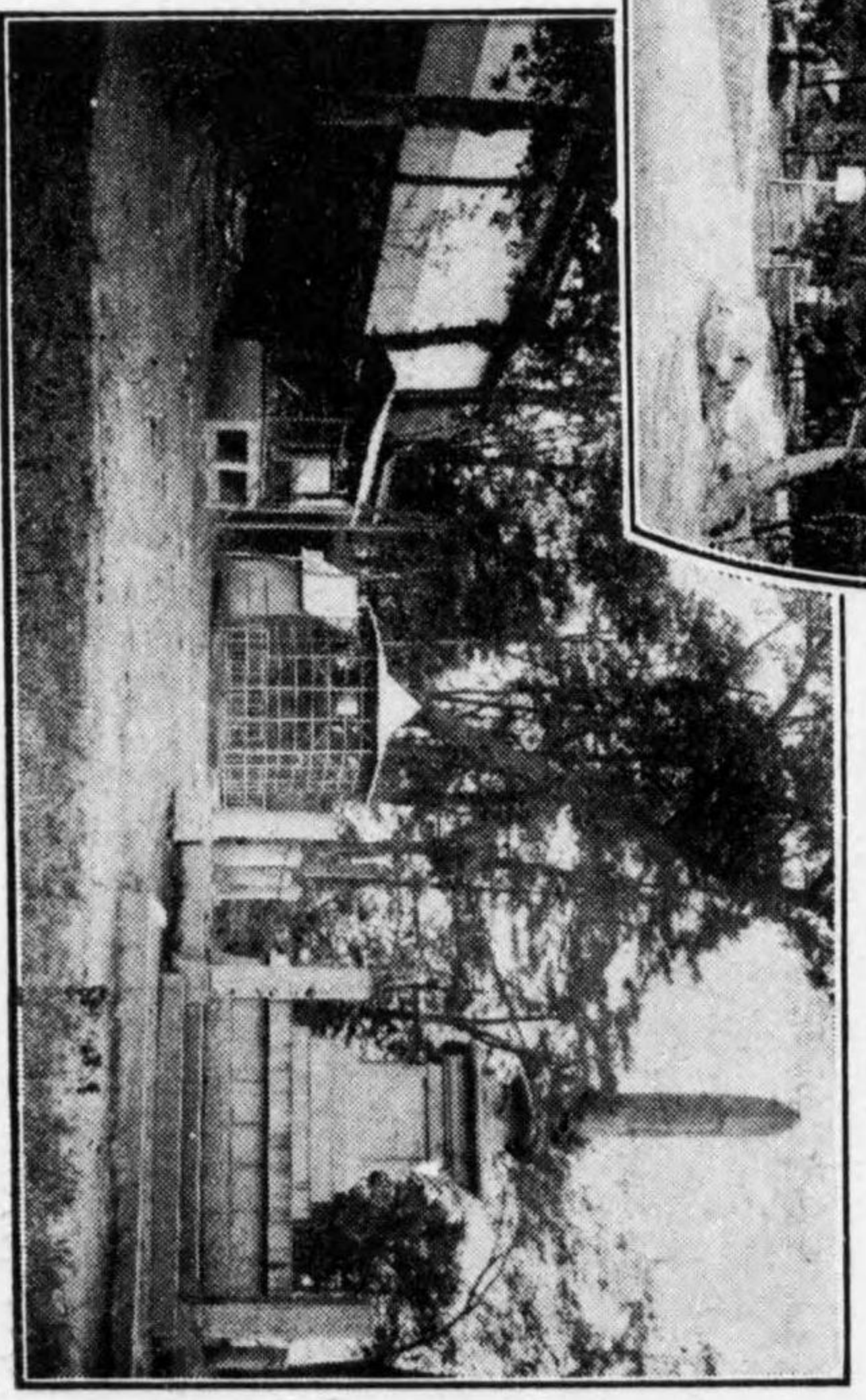
倉敷中央病院



大 原 美 術 館

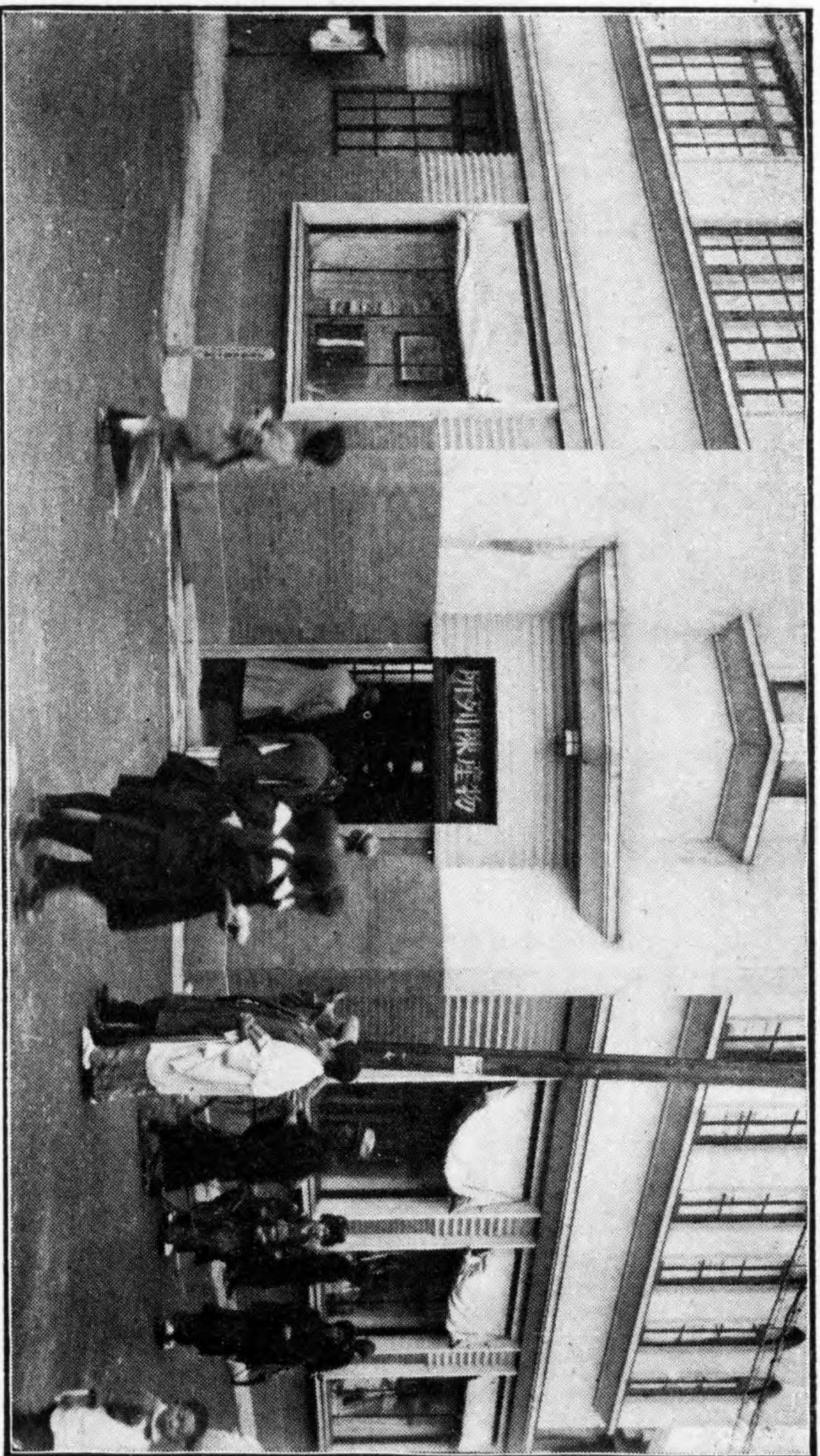


新 溪 園



鶴 山 公 園





所 列 陳 産 物 管 經 所 議 會 工 商 敷 倉

序

我が倉敷市は古來富裕を以て知られた土地であるが、近時産業都市として、  
 將た文化都市として、新興の機運ます／＼旺盛に、昨を以て今を測るべから  
 ざる状態にある。

本書はこの新興倉敷市の概観を叙したるに止まり、固より其の詳を悉さ  
 るものであるが、本市の現勢を知らんと欲するものゝ、参考の一助ともなら  
 ば幸である。



昭和九年三月三十一日

倉 敷 市 長

14.4-994

目次

第一章 總說

- 一 現在の倉敷 . . . . . 一
- 位置、廣袤、地勢、氣候、戸口、衛生、交通、街衢 . . . . . 一
- 二 沿革 . . . . . 九
- 阿知湯の海、倉敷代官所、倉敷の發展、東宮行啓、市區の變遷 . . . . . 九

第二章 倉敷の大觀

- 一 社會的施設 . . . . . 三
- 1 大原農業研究所、2 倉敷勞動科學研究所、3 倉敷中央病院、4 大原美術館、5 倉敷紡績醫學文庫 . . . . . 三
- 6 倉敷天文臺、7 若竹の園、8 新溪園、9 倉敷武德殿、10 教育助成機關、11 其他の社會的施設 . . . . . 三

二 都市施設	二
上水道、電氣及瓦斯、塵芥燒却場、都市計畫、新溪園、鶴形山公園、向山公園	
三 官公署	六一
倉敷警察署、倉敷稅務署、倉敷驛、倉敷郵便局、倉敷驛前郵便局、國道改良事務所、岡山縣倉敷土木出張所、玉島區裁判所倉敷出張所、倉敷煙草販賣所、都窪倉敷各種團體事務所、倉敷市役所	
四 市政一班	空
市政機關、財政	

第三章 產業	七
職業別狀態、生產狀態、倉敷商工會議所、物產陳列所、蠶糸業組合、商工業組合、會社、工場、銀行、產業組合、市場、倉敷競馬場、特產品之倉敷名物	

第四章 教育	九
--------	---

學齡兒童之就學歩合、學校幼稚園、倉敷圖書館、倉敷市圖書館、倉敷青年講座、倉敷實力檢定試驗、修養及教化團體、全國初等教育研究大會、倉敷市教育會

第五章 社寺宗教	一〇
----------	----

一 神社	一〇
縣社足高神社、鄉社阿智神社、村社	
二 寺院	一四
大樂院、觀龍寺、地藏院、青蓮院、圓福寺、善福寺、誓願寺、法然寺、長蓮寺、教善寺、本榮寺、其他	
三 教會	一八
神道教會、佛教教會、基督教會	

第六章 名勝舊蹟	二〇
----------	----

一名 勝	二〇
------	----



地 圖 目 次

倉敷市附近圖	倉敷市位置圖	倉敷市近郊名勝圖	倉敷市全圖
--------	--------	----------	-------

倉敷市案内

第一章 總說

現在の倉敷

位置、廣袤、地勢、氣候、戸口、衛生、交通、街衢



位置 倉敷市は岡山縣の南部、備中國の東南隅、北緯三十四度三十五分、東經百三十三度四十六分に位し、本町三つ角の元標は岡山より約十九軒（四里二十九町十三間七分）玉島より約十四軒（三里十九町三間一分）の所に在つて、東北西の三方は都窪郡に連り、南は兒島郡に接し、倉敷川（汐入川）を以て水路兒島灣に通じ、東京より鹿兒島に達する國道及び鐵道山陽本線は市の北部を貫き、伯備線は倉敷驛より分岐して米子に通じ、南は省營バスを以て宇野線と連絡し、東西交通、陰陽四國連絡の要衝に當つて居

る。

**廣 表** 東西四・五軒（約一里五町）南北六軒（約一里十九町）面積一八・七四二五平方軒（一・二一五方里）を占めてゐる。

**地 勢** 高梁川の沖積層であるため、地勢は概ね平坦な低地で、千分の一乃至千五百分の一の緩徐な勾配を以て南方に傾き、東端に標高百メートルの向山を控へ、中央に鶴形山、南方に足高山の小丘があるばかりである。南端の浦田は標高一・二・三米の高地を主峯とせる丘陵を以て兒島の山地に續いてゐる。

**氣 候** 市は瀬戸内海の中部に接してゐるので氣候は溫和である。室内温度は大暑に於て攝氏三十度極寒零度に至るを普通とし、室外に於て最高四十四度五、最低零下九度を示してゐる。午前十時の觀測に於て一月平均の四度五を最低とし、八月平均の二十八度五を最高とし、四十箇年間年中平均は十五度九である。随つて降雪少く、五種以上も積るやうなことは極めて稀であり、風雨烈しからず、快晴の日多く夏の夕風は瀬戸内の特色である。

**戸 口** 最近に於ける戸口増加の趨勢を示せば次の通りである。

種 別	十 月 一 日 國 勢 調 査			毎 年 末 日 調 査				
	大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
現住戸數	五、四二一	五、九六六	六、五九二	六、五七〇	六、六二五	六、九〇三	七、〇八八	七、三三三
現住人口	二四、〇七七	二七、七九四	三〇、一一四	三一、三四六	三〇、二九三	三一、三九五	三三、三六一	三三、三五二
本籍人口	—	—	—	三、五五六	三、〇五〇	三、四九七	三三、九六四	二四、四一七

なほ昭和五年の國勢調査に依れば一方軒に付人口一、六五五、性別人口男一四、〇九五に對し、女一六、〇一九にして女百に付男八八、〇に當り女性の著しく多數なるは云ふまでもなく紡績事業の盛んなためである。又最近五箇年の人口増加率は千分の八二にして其の前五ヶ年の一五三の約半ばに下れるは財界不況の影響である。

**衛 生** 上水道は大正十二年九月を以て竣工し、汚物掃除法は大正九年より適用せられ、昭和八年塵芥焼却場を設け、其他倉敷醫會附屬診療所、市營火葬場等の施設あり、特に規模宏大にして最新式設備と



倉敷川

各科専門の博士大家を有する倉敷中央病院の存在は獨り市民のみならず一般の大いに意を強うする所である。

四

交通

鐵道山陽本線は市の北部を貫通し、岡山より來れる伯備線は倉敷驛より分岐して米子に通じ宇野線、下津井線との間には省營バス及私營定期自動車の往復がある。東京より鹿兒島に達する國道第二號線は市の北部を貫き、市を起点とせる縣道十線は總社、足守、西阿知、連島、足高、藤戸、宇野、茶屋町、妹尾等に達し、いづれも自動車の便がある。都市計畫實現の曉には市の内外交通はますます便利となるであらう。

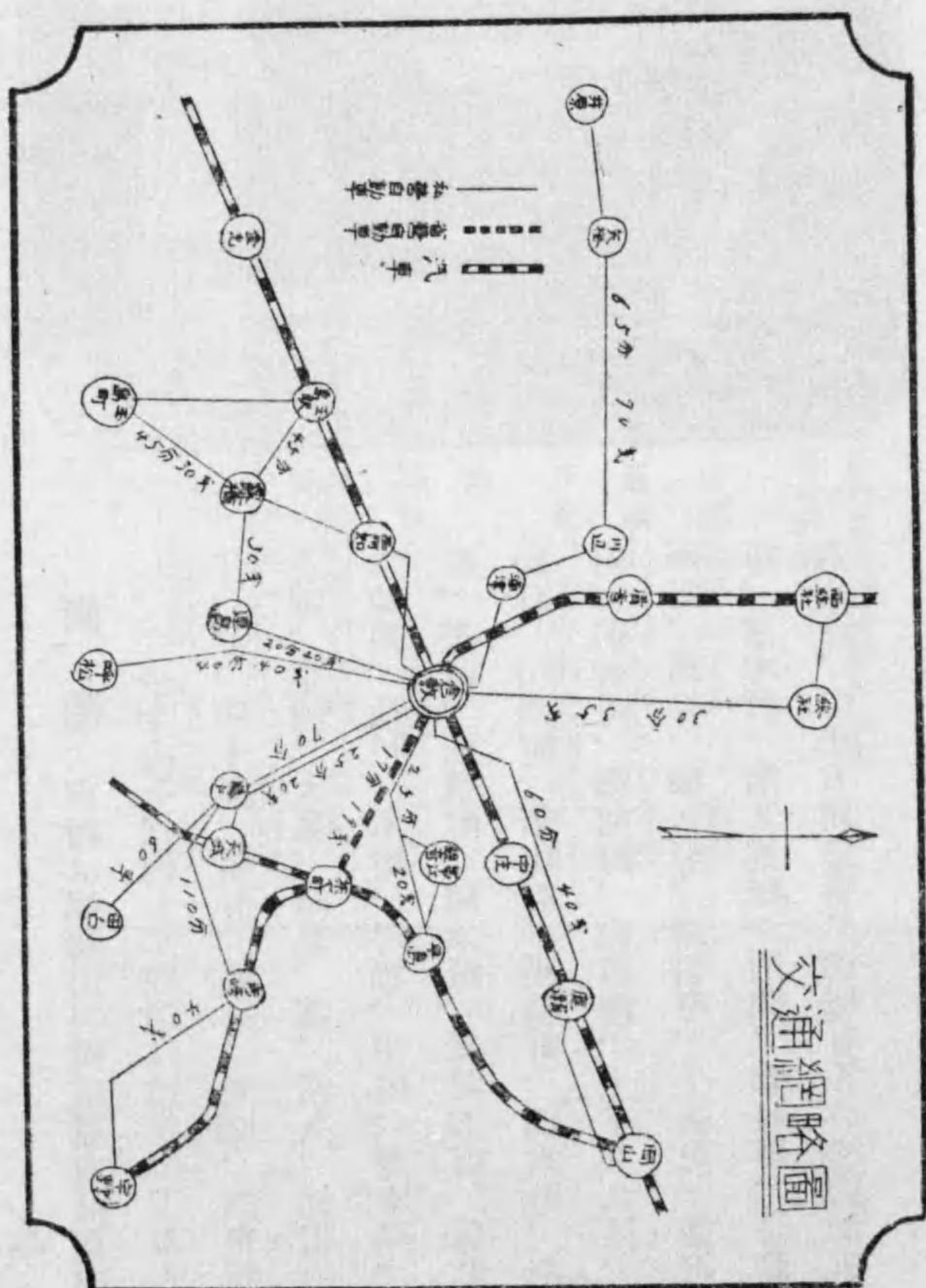
倉敷川（汐入川）による水運もまた重要な地位を占め、發動機船、大型和船の出入絶えず、瀬戸内海を経て各地に交通の便あり、本市貨物移出入の一半は之によるのである。

近時自動車の發達は道路の發達と相俟つて交通上に新生面を開き、爲めに鐵道宇野線下津井線の利用極めて容易となり四國連絡の捷路となつてゐる。目下市を起点とせる自動車線は左の通りである。

定期自動車一覽

經營者	起點	終點	主なる經過地
鐵道省	倉敷驛	茶屋町驛	東倉敷、羽島、西帶江、帶江、六間川、茶屋町橋
倉敷自動車株式會社	倉敷驛前	天城驛前	旭町、本町、船倉、名田、有城
全	全	早島	旭町、羽島、中津、五日市、中帶江
全	全	呼松	川西町、福井、五軒屋
全	全	西之浦	川西町、五軒屋、連島、江長(連島)
KOカシ自動車株式會社	倉敷旭町	岡本町	濱ノ茶屋、撫川、庭瀬、下石井、内山下
岡山タカシ自動車株式會社	倉敷驛前	玉島	川西町、八王寺、西阿知、霞橋、狐島

五



山陽ガレージ	倉敷驛前	連島	川西町、八王寺、西阿知、霞橋
玉倉モーターバス	全	玉島	川西町、五軒屋、連島、霞橋、玉島驛前
伯讚連絡自動車商會	全	田ノ口	旭町、本町、船倉、天城、藤戸、林、稗田、下村
⊕ 運送店	全	總社	御幸町、山手、常盤
富士自動車株式會社	全	井原	御幸町、酒津、川邊(乗換) 箭田、矢掛、小田、井原
三宅自動車商會	全	宇野	船倉、天城、彦崎、迫川、常山口、秀夫、槌ヶ原





本 町 通

街 衢 市街は鶴形山の西南麓本町を中心として漸次發達し、今や全山を抱擁して四周に擴がつてゐる。全市を倉敷、安江、沖、四十瀬、富井、福井、老松、西中新田、白樂市、笹沖、吉岡、平田、大島、福島、濱、富久、浦田の十七大字に分ち中に東町、唐戸、本町、弓場、中町、西本町、戎町、濱田町、旭町、榮町、西榮町、阿知町、新阿知町、新町、川上、川下、若松町、川西町、新川町、稻荷町、西大町、南町、砂越町、高砂町、前神町、御崎町、向市場、土手、二反、船倉、大黒町、鯛原町、萬町、御幸町、踏切町、千歳町、壽町、石見町、日ノ出町、濱本村、濱ノ茶屋、川間、春日町、法藏、西郷、松ノ内、八王寺、白樂市新道筋、御船町等の街衢がある。

二 沿 革

阿知潟の海、倉敷代官所、倉敷の發展  
東宮行啓、市區の變遷

阿知潟の海 倉敷は新興の文化都市産業都市である。數百年の昔までは附近は一面の海で阿知潟と稱し、現時市街の中核をなせる鶴形山も海中の孤島たるに過ぎず、僅の水夫漁民が住んでゐるばかりであつた。

倉敷代官所 天正の頃より漸次開拓せられて蒼海變じて美田となり、慶長五年の關ヶ原戦後は概ね徳川氏の直轄に屬し、邑里の發達につれて此の地に備中代官の治所を置かれ、縣治産業文化の中心地となり、明治維新に及んで倉敷縣、深津縣、小田縣を経て岡山縣の管轄に歸した。



阿 知 潟 ノ 圖

**倉敷の發展** 明治二十年七月倉敷紡績株式會社の創立は倉敷の發展に一新時期を劃したもので、當時の一小邑が他日全國に其の名を知らるゝ産業文化都市となる基礎は實にこゝに築かれたのである。爾來同社々運の隆昌と共に倉敷の戸口は著しく増加し、從來戸數一千五百、人口六七千なりしもの、昭和元年には三千三百戸、一萬六千人に上り、加之、街衢は延長して隣接の萬壽大高兩村に及び、遂に三ヶ町村合併の機運を作るに至つたのである。

**東宮行啓** 當時恰も、攝政皇太子殿下には畏くも民情御視察の思召を以て、岡山、廣島、山口の三縣下へ行啓あらせられ、其の際當地へ御巡啓并に御使御差遣等の光榮を賜はつた。

殿下には大正十五年五月二十一日岡山御着、翌二十二日當地行啓、酒津にて高梁川改修の狀況御覽の後在郷軍人、學校生徒兒童、青年團員、女子青年會員一萬一千九百三十六人に御親閱を賜ひ、それより倉敷紡績株式會社萬壽工場に成らせられ、第二工場御視察の上、同工場内なる勞働科學研究所御巡覽、更に大原農業研究所を御巡覽あらせられ、その翌二十三日には東宮侍從牧野子爵を倉敷中央病院に御差遣あらせられた。

### 市區の變遷

明治九年從來の倉敷村は村界の錯雜地飛地を整理して有城村の一部灘を併せ、二十二年六月町村制施行の際從來の區域を以て倉敷村となり、二十二年六月町村制施行の際依然從來の區域を以て倉敷村となり、二十四年六月町村制施行、昭和二年四月從來の倉敷町萬壽村大高村を廢し、その區域を以て新に倉敷町を置き、三年四月市制施行、五年八月新に兒島郡福田村大字浦田の一部を編入して今日に及んでゐる。

## 第二章 倉敷の大觀

### 一 社會的施設

- 1 大原農業研究所、2 倉敷勞働科學研究所、3 倉敷中央病院、4 大原美術館
- 5 倉敷紡績醫學文庫、6 倉敷天文臺、7 若竹の園、8 新溪園、9 倉敷武徳殿
- 10 教育助成機關、11 其他の社會的施設

### 1 大原農業研究所

- 農業研究所設立の動機及び目的
- 農業研究所の主眼と組織
- 農業研究所の國家的國際的地位
- 農業研究所の資産と經費
- 農業研究所の書庫と藏書

農業研究所  
設立の動機  
及び目的

本市の素封家であり、大地主である大原孫三郎氏は夙に地主の自覺、本邦食糧問題、農村問題に着眼し、大正三年七月、祖先傳來の土地中より百町歩を寄附し、後更にまた百餘町歩を加へ父祖努力の記念として、將又父祖に對する報恩の記念として、財團法人

を組織し、深遠なる農業の學理を研究し、及び其の應用による農事の改善を圖る目的を以て、組織的な大計畫の下に農業研究所を創立したのが即ちこの大原農業研究所なのである。

農業研究所  
の資産と經  
費

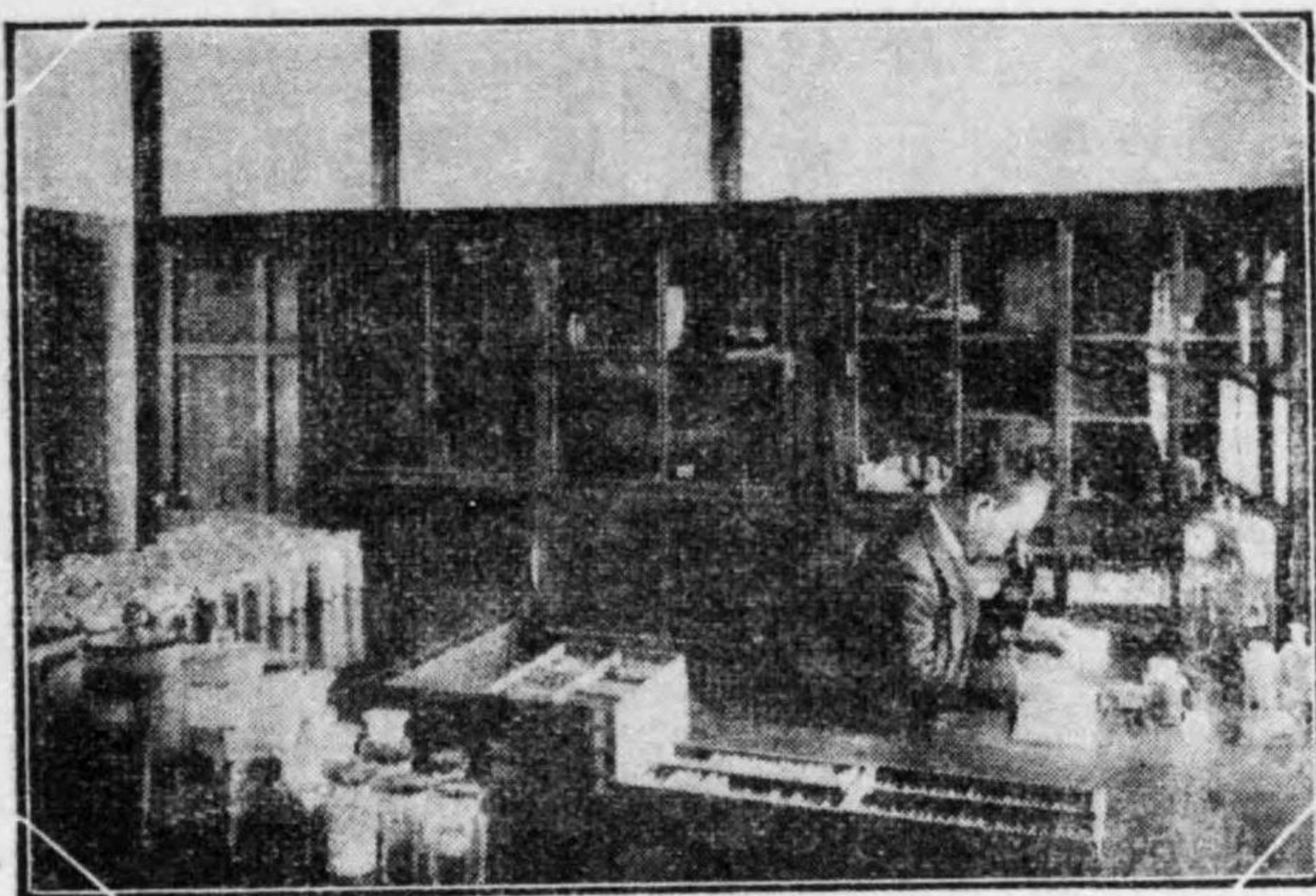
農業研究所の資産及び經費はすべて大原氏の寄附に依るもので、土地二百二町歩餘、建物三十棟九百十二坪餘を有し、年々の經費は約拾萬圓を要してゐる。

現在農業研究所にて使用せる宅地及び試験地は合計壹萬參千貳百九拾七坪（約四町四反三畝）で、殘餘の土地は何れも小作又は住宅借地に附し、その小作料及び借地料は經費に充て、ゐる。

建物には事務室及標本室、種藝研究室、化學研究室、病蟲害研究室、蓄電池冷蔵及農具室、煉瓦造三階建書庫、圖書閱覽室、温室及硝子室、網室、農夫舎、收納舎、堆肥舎、農夫休憩室、住宅、寄宿舎、集會所、俱樂部等がある。

農業研究所  
の主眼と組  
織

大原農業研究所の目的とするところは農業に關する學術の研究であつて、その結果は直ちに實地に應用せらるゝもあるべく、或は單に學術上の研究に止まり實用に遠きものもあらう。その研究は極めて自由で、短時日にして成績の見るべきものもあるべく、或



大原農業研究所研究室ノ一部

は數年十數年の長期に亘るものもあらう。その研究題目は地方的のものもあるべく、或は極めて地方の農業に縁遠きものもあらう。要するに地方的事情、年月、及び目前の利害を超越して農業に關する純然たる學術の研究に従事するを以て主眼とし、極めて寛大なる自由研究をなすを以てその特色とする。

研究所は種藝、農藝化學、昆蟲、植物病理の四部門に分れてゐる。

種藝研究室は、普通農事一般に關する事項、就中主として作物育種、種子、米穀、小麥、作物生理、及び實驗遺傳に關する事項につきて研究する。試験地として水田二町歩餘、畑四反歩餘を有する。

農藝化學研究室は、農業に關する諸般の事項を化學的に研究

するを目的とし、主として土壤及び肥料について研究する。その方法は常に化學的なるのみならず又微生物學的研究及び實地栽培試験によるのである。

昆蟲研究室は、農作物及び園藝作物の諸種害蟲の性質、生態等を調査して作物に對する加害の程度を明らかにし、害蟲の天敵の利用、害蟲の驅除及び豫防に關する事項を研究する。

植物病理研究室は、諸種作物の病氣を調査し、その病原、分布並に地勢土質との關係を研究し、また植物の免疫性、種々の驅除豫防法を攻究する。

研究所に附設して有用植物を蒐集した植物園がある。また別に標本室がある。

現在職員は

所長	種藝研究室研究員	農藝化學研究室研究員	昆蟲研究室研究員	植物病理研究室研究員
農學博士 近藤萬太郎	農學博士 板野新夫	農學博士 春川忠吉	農學博士 西門義一	

外に農學士四名、其他約二十名、農夫若干名である。

農業研究所  
の書庫と蔵  
書

農業研究所は三十一坪三階建煉瓦造の書庫を有し、なほこれに事務室、閲覧室及び製本室が附設してあつて、藏書總數約七万冊、農學、生物學、理化學に關する洋書、和漢書を網羅してゐる。就中フエツファー文庫は倉敷紡績醫學文庫のフルボルン文庫と共に學界の珍である。

大正九年獨逸ライプチヒ大學植物學教授フエツファー氏の歿するや、翌十年同氏の遺書一万三千三百五十三冊を纏めて購入した、これが即ち有名なフエツファー文庫である。その外大正十一年より同十三年に亘つて、當時の所員山口彌輔氏獨逸に在つて莫大の圖書を蒐集し、大正十二年には西門義一、松本圭一の兩氏支那に渡つて農業に關する漢書を蒐集した。隨時購入せる圖書もまた尠くない。

由來この種の専門圖書を世界的に蒐集せる所は、本邦に於て他に類例が無いので、この方面の専門家の至寶とされてゐる。

農業研究所  
の國家的國  
際的地位

大原農業研究所は我が國唯一のものたるのみならず、かくの如く整備せる組織と機關とを有し、農業全般に涉つて深遠なる學理の研究をなせるが故に、世界に於て英國のロースサムステッド農事試驗場と相並びて有名なものである。随つて大原農業研究所は世界に重視され、その研究報告は廣く歐米の學界に引用せられてゐる。

また丁抹に本部を有する萬國種子協會は種子に關する國際的研究機關で、歐米諸國の代表的官立種子検査所が之に加盟して居り、本邦では私立ながら此の大原農業研究所が唯一の加盟研究所である。

なほ最近國際土壤學會の支部を日本に置かるゝと同時に之を本研究所内に設置され、また昆蟲學、植物病理學に關しても國際的に研究の聯絡を保つてゐる。

大原農業研究所はその研究の結果を印刷に附し、廣く之を内外の大學、試驗場、研究所、學會等に頒布してゐる。印刷物には次の三種がある。

- 一、大原農業研究所報告 (歐文) 年約二回
- 二、同 特別報告 (邦文) 隨時刊行

### 三、農學研究

(邦文)

年約二回

一八

右の外、本研究所の研究報告は内外専門雜誌に登載せられ、廣く學界を裨益してゐる。

農林省は本研究所の病蟲害の研究に對し、年々獎勵金を交付し、文部省は日本農業種子の研究に對し獎勵金を交付した。研究所は目下農林省の委託を受けて、小麥の増殖政策法確立に資するため、小麥の品質及び貯藏に關する研究を行つてゐる。

本研究所に於て研究し學位を得たる人々には、現京都帝國大學教授農學博士大杉繁、東北帝國大學教授理學博士山口彌輔、現研究所員農學博士春川忠吉、同農學博士西門義一の諸氏があり、また臺北帝國大學教授農學博士山本亮、盛岡高等農林學校教授農學博士小野寺伊勢之助、理學博士八木誠政、鐵道省官房研究所員笠井幹夫氏等多年本研究所に在つて研究に従事された。

大正十一年十月大日本農會總裁梨本宮守正王殿下には本所に成らせられて親しく事業を巡覽あらせられ大正十五年五月には 東宮殿下行啓御巡覽あらせられ、又昭和五年十一月には閑院宮殿下、全七年九月には賀陽宮殿下の御成があり親しく研究事業を御巡覽あらせられた。

## 2 倉敷労働科學研究所

研究所の由來	研究所の目的	研究部門	研究業績
研究業績發表機關	研究所の特色	労働者衛生博物館	

研究所の由來

世界大戰の熄む頃から、一般社會問題の擡頭と同時に、労働者の問題は殆んど其の主要問題となつた。大原孫三郎氏は、大正八年、其の當時の狀勢に鑑み、大原社會問題研究所を大阪に設立して社會問題の研究調査を行ひ、以て其の解決に資せんとした。其の

當時、該社會問題研究所の組織中に醫學的研究の一分科が設けられ、この方面を擔當したのが即ち現在の倉敷労働科學研究所長醫學博士暉峻義等氏である。大正九年に至つて大原氏は、氏が社長たる倉敷紡績株式會社の工場福利施設並びに生産能率及びその従業者の保健狀態の改善に資せんが爲め、當時なほ社會問題研究所員たりし暉峻氏に、同會社萬壽工場に來つて、工場及び従業労働者を研究對象として研究を行はんことを提議し、茲に現在の倉敷労働科學研究所の創立を促すべき研究が始めて着手せらるゝに至つたのである。

一九

即ち大原氏は大正九年既に研究所の建設を意圖し、その組織及び設備に關する一切を暉峻氏に委任したこゝに於て暉峻氏は、現に研究所の幹部として研究に従事しつゝ、ある石川、桐原の二氏を、次いで八木氏を最初の研究員として研究の陣容を整へ、大正九年七月暉峻、石川、桐原の三氏は萬壽工場に於て、我が國初めての労働者の夜業に關する科學的研究に着手したのである。この記念すべき研究は、更に後に補足又は再試せられて、我が機關雜誌『労働科學研究』の第一卷に公表されたのである。越えて大正十年早々研究所の建築が着手せられ、同年七月略々落成を見、こゝにいよいよ倉敷労働科學研究所が創立されたのである。

大正十年八月、暉峻所長は大原氏の命を帯びて研究に要する諸器械及び圖書購入のため歐米に旅し、併せて海外の研究機關の調査を行ひ、大正十二年十一月、多くの研究に必要な器械と圖書文献とを携へて歸朝した。爾來歲月を重ねると共に研究所の組織と機能とは着々として整ひ其の社會的使命は益々重きを加ふるに至つたのである。

大正十五年五月には、皇太子殿下本研究所に行啓あらせられ、親しく研究状態を御視察遊ばされた。

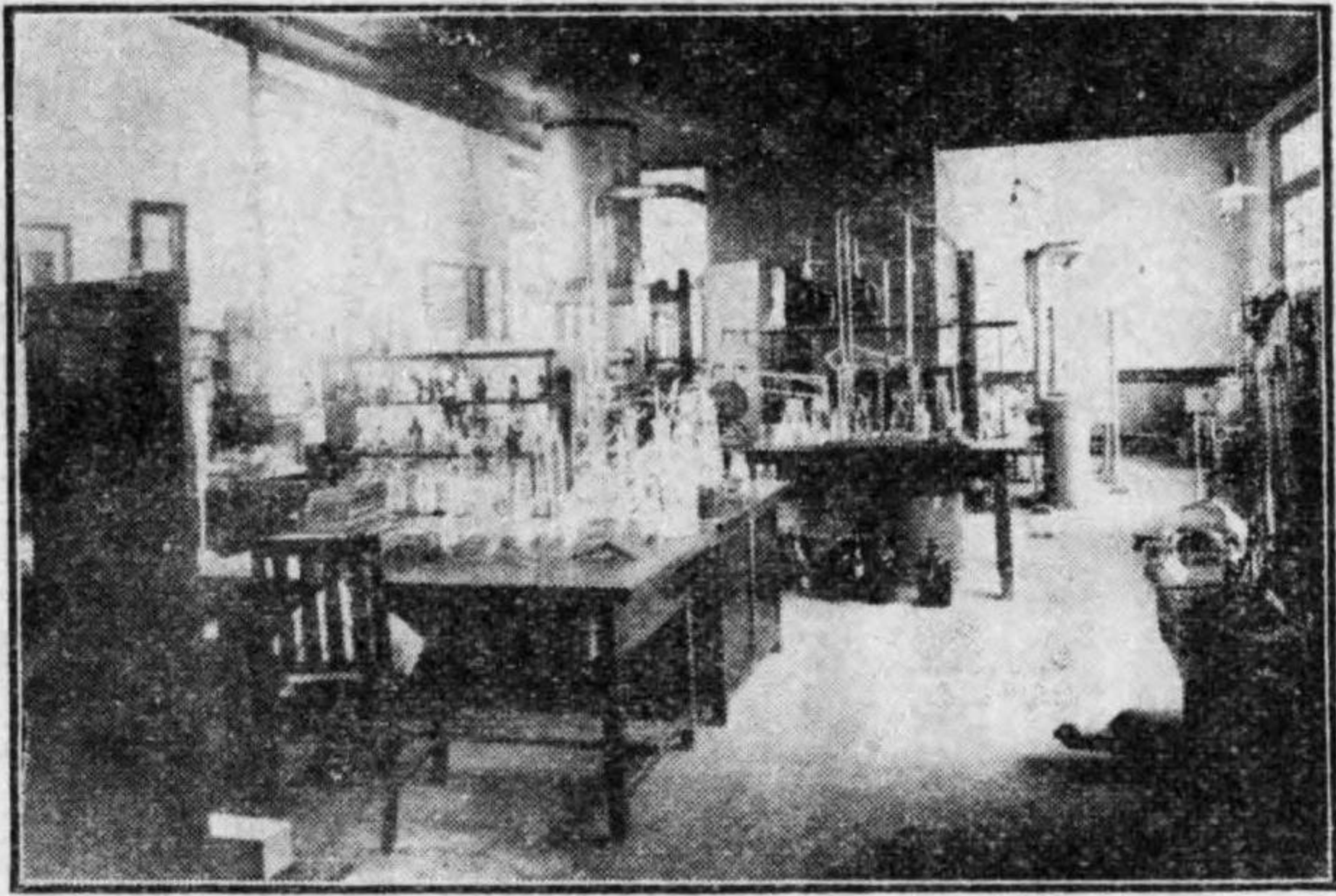
次いで昭和五年六月廿四日、大原社長は目下の我が産業社會の状態と最近に於ける産業合理化の提唱とに鑑み、労働科學研究所を倉敷紡績株式會社なる營利團體の經營より切り離し、之を大原氏個人の經營に移すことによつて、研究所の使命と職能とを一層充實せしめんことを發意し、之を暉峻所長に傳ふところがあつた。越えて七月四日大原氏は倉敷紡績株式會社社長の名に於てこれを公表し、こゝに倉敷労働科學研究所は大原孫三郎氏個人の名に於て經營せらるゝこととなつたのである。

昭和五年十一月には閑院宮殿下、同七年九月には賀陽宮殿下本所に成らせられて親しく實驗を御覽遊ばされた。

昭和八年一月には高松宮殿下の思召により、有栖川宮厚生資金中より本所の農家主婦の労働に關する研究に對し、向三ヶ年間助成金を賜與せらるゝ旨の恩命を拜した。

研究所の  
目的

現下のわが社會組織が産業的機構を中心として進展する以上、労働科學が一般社會は勿論産業社會に對して重要な職能を有することは理の當然であるが、過去及び現在に於ける産業に關する諸種の見解の主眼点は、主として人間と機械とを、その最大最高の



倉敷労働科学研究所研究室ノ一部

能率に於て活動せしめやうとするに外ならなかつたと云つてよいのである。しかしながら、労働科学に於て、その研究の目的とするところは、單に最大の經濟的利益如何の問題ではない。勿論人間の労働の條件とその効果とに就いて研究するものであるが、たゞに労働の條件や労働の効果を研究し、之を實證して足れりとするものでもない。更に進んで最上最善の人間労働の方法を發見し、その原理原則を樹立するを以て目的とするものである。それ故に、労働科学研究所は人間労働の最上最善の條件と効果とを經濟的利益といふ點よりも、より一層の高度に於て人間の労働力の正當なる行使並にその保持に關する理法を發見し、労働力の絶えざる繁榮を圖り兼ねて社會の生産性を増高すると共に、全國民をして出来る限りの高き活力的存在たらし

めやうとするのである。約言すれば、倉敷労働科学研究所の研究目的は、産業の合理的組織並に人間労働の合理化に關する科學的研究を爲すにあるといふことが出来る。

以上のやうな目的から必然に三つの主要なる研究方面が開かれて来る。即ち

一、 には、適所適材の科學的原理を産業の各方面に樹立すること、之に依つて社會の職業配分が、より進歩した理念の上に行はれる可能性を強めること。  
二、 には、若し適所適材の原則が樹立されると假定しても、その労働條件にして最上ならず、否不良であるならば、社會的不幸は到底阻止し得難きが故に、單位生産活動に對しての最小のエネルギーの消費と最小の疲勞とを以て、生産的效果を收め得る方法、及びその労働條件並に労働環境の研究によつて、所謂労働者の作業の全環境を科學的に合理化すること。

三、 には、現代の社會的機構の下では、職業分化がますます進み、労働様式の單調化、單一化を來し職業及び労働が固定化する。この傾向から、労働者の心身の完全なる發達が阻止されるのみならず、職業的發育偏倚、職業的疾患を誘致する。よつて之を阻止豫防する方法を研究すること。



研究部門

上述の目的及び研究方針を充足するが爲に、倉敷労働科學研究所には目下左の如き研究部門が設けられてある。

- 一、産業生理學に關する研究部門
  - 二、産業心理學に關する研究部門
  - 三、體格及び體質に關する研究部門
  - 四、産業衛生並に職業的疾患に關する研究部門
  - 五、集團榮養に關する研究部門
  - 六、社會衛生に關する研究部門
- 而して是等六つの研究部門は、それら獨立した研究方面を開拓すると共に、互に協力補佐して共同的研究を行つてゐる。

研究業績

今日までに行はれ來つた研究は、勿論上記の三大研究方針の範圍に屬してゐるのであるが、之を要約して具體的に擧げて見れば

イ、職工撰擇に關する研究、即ち如何なる心性と如何なる體格及び體力が現在の産業的活動に要求されつつあるか、又現在の各産業的部門の要求する労働者の心的並に身體的資質は如何なるものであるかに關する研究

ロ、産業疲勞に關する研究、即ち單位生産的活動に對する最小のエネルギー消費と最小の疲勞とを以て最善の生産効果を擧げ得る條件の研究

ハ、環境條件、殊に工場内溫度、濕度、空氣の流動が其處に働く労働者の心身に及ぼす影響及び其等と生産力、疾病率、災害發生との關係に就いての研究

ニ、特殊なる職業群に關する調査研究  
 大要右の四項に歸せしむることが出来る。

研究業績  
發表機關

かくして成されたる諸研究は、すべて倉敷労働科學研究所の業績發表機關誌「労働科學研究」(毎年四期刊行)に依つて公表せられ、更に労働科學研究所年報及び歐文同上(不定期刊行)に依つて要約せられることになつてゐる。なほ研究所からは「日本社會

衛生年鑑』(年一回)が出版せられ、これには年々我が社會の各方面から公表せらる、社會問題に關する論著の中醫學上の研究結果の採つて以て一般社會問題研究者の參考に資すべきもの並に醫學以外、例へば哲學、心理學、社會學、經濟學、法律學等の論著にして醫學者の參考に資すべきものを蒐録し、以て社會科學の一般的進歩に貢獻してゐる。

研究所の特色

上述の如き組織と使命とを持つてゐる研究所は、我邦現下の社會狀態に照し合せて誠に重要な役目を有するものである。殊にこの研究所のやうに醫學と心理學、生理學と衛生學とが密接に結びついて、一般社會問題に關する自然科學的研究を行ひ、直接には人間勞働についての心身の姿態の綜合的研究を試みてゐる研究機關は、實にわが邦は勿論のこと諸外國にも類例のないものであつて、この点は確かに倉敷勞働科學研究所の特色であると云つてよいであらう。

獨乙、英吉利、奧太利、伊太利、佛蘭西等に於ても、又最近にはソヴェート社會主義聯邦に於ても、わが研究所と同じ使命を持つ研究所が建てられてゐるのであるが、その組織と機能との點に於ては何れも一長一短がある。それらの研究所に比してわが倉敷勞働科學研究所の組織、内容は決して劣るものではなく

歐米の専門學者等は常にわが研究所の業績に對して深甚の注意を拂ひつゝ、あるのである。

勞働者衛生博物館

研究所内には附屬施設として勞働者の衛生、勞働の合理化、並に産業の各方面に渉る諸種の調査研究資料が數多く蒐集せられつゝ、ある。やがてはこれを中心として立派な勞働者衛生博物館が設立せられることになつてゐる。

現在職員は左の通りである。

所長	醫學博士	暉峻	義等
研究員	醫學博士	八木	高次
	醫學博士	石川	知福
	文學博士	桐原	葆見
	醫學博士	松島	周藏
	醫學博士	奥山	美佐
	文學士	上野	義雄

事務主任

理學士	醫學士	文學士	經濟學士
江田周三	勝木新次	柴山安太郎	阿部利雄
			森茂夫

### 3 倉敷中央病院

中央病院の創立      中央病院の特色      中央病院の規模  
 中央病院の組織      中央病院の光榮      最新醫術の研究

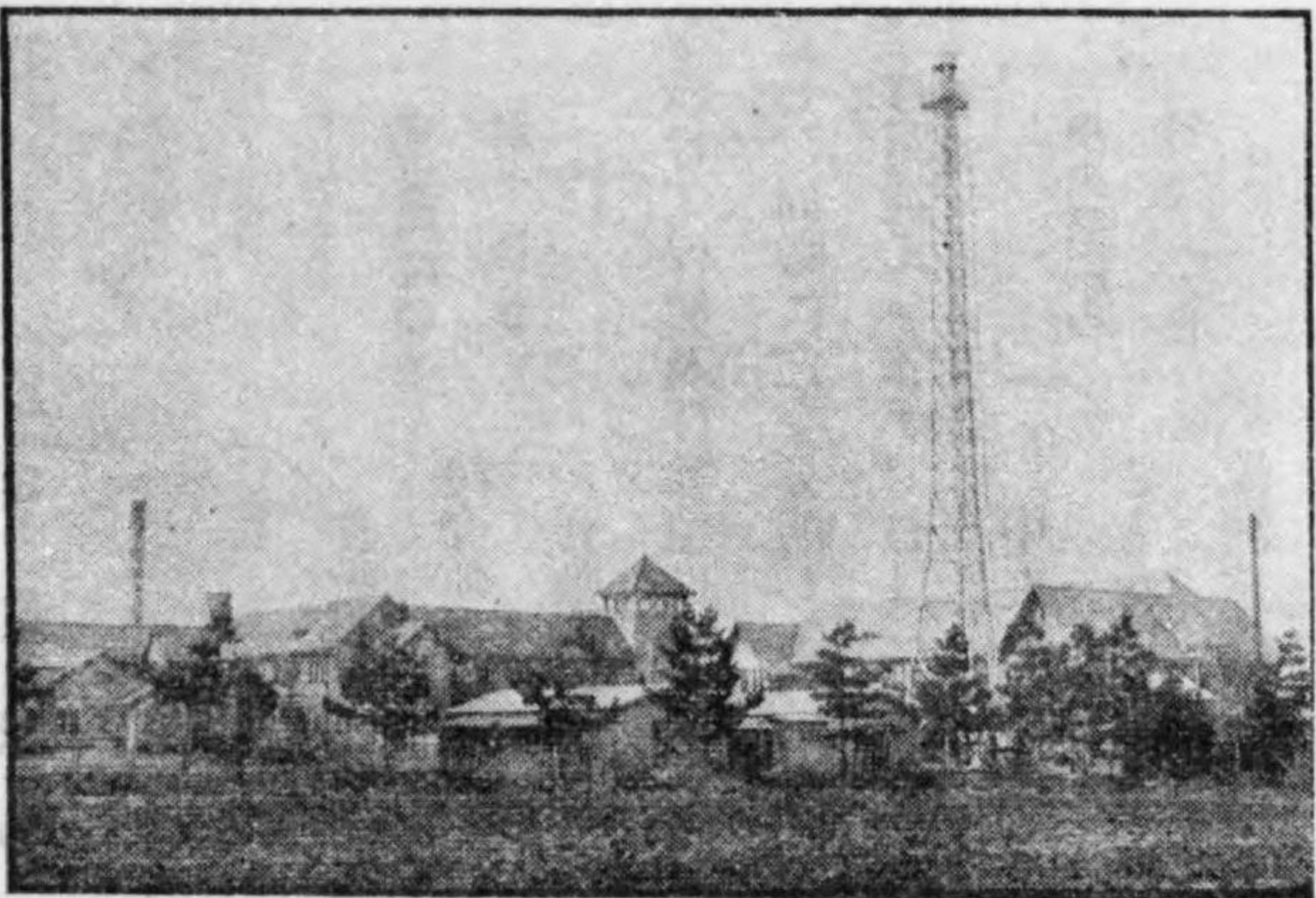
中央病院の創立

倉敷中央病院は倉敷紡績株式會社の經營にかゝり、はじめ倉紡中央病院と稱したが、後今の名に改めたのである。

を設けて保健及び診療に當らしめたりしも、なほその不十分なるを遺憾とし、新に大規模の中央病院を創立し、同時に之を公開して、一般社會の利用に供せんとし、大正十年工を起し、同十二年五月竣工、六月二日開院式を挙げ、七月一日より診療に従事するに至つた。

中央病院の特色

中央病院は完全なる治療と懇切なる看護とにより、最も進歩したる醫術に浴せしむることを以て院是としてゐる。故に營利を目的とせず、患者を以て研究の對象とせず、又救濟慈善に偏せず、患者を平等に取扱ひ、入院料に等級を附せず、看護設備を充實して



倉敷中央病院の喘息塔

弊害多き職業的附添人制度を禁止し、従業員に對する心附、贈物等を嚴禁せるが如きは特色の著しいものである。

三〇

中央病院の規模

敷地一、五三三坪、建物三、五八七坪、  
内、病舎一、二〇〇坪、病床數二二〇、外來  
各科五〇〇坪、炊事洗濯機關室等一、〇〇三

坪、看護婦寄宿舎五〇〇坪、研究室三八四坪等を有し、いづれも最新式の設備を施してある。就中呼吸器疾患特に喘息患者の一大福音と稱せらる、和蘭式空氣清淨裝置は我國唯一の設備として醫界羨望の的となつてゐる。なほ看護婦養成所、産婆養成所をも特設してある。

中央病院の組織

大正十二年六月開院當時には内科、外科、婦人科、眼科、小兒科、耳鼻咽喉科、物理療

法科の七科を置かれたが、同年十一月齒科を新設し、昭和四年二月整形外科を新設して物理療法科と合し之を整形外科レントゲン科と改稱した。現在の組織は左の通りである。

院長兼婦人科醫長	醫學博士	本	多	操	氏
内科醫長	醫學博士	松	原	良	一氏
外科醫長	醫學博士	山	崎	直	治氏
眼科醫長	醫學博士	林	雄	造	氏
小兒科醫長	醫學博士	和	田	咲	三郎氏
耳鼻咽喉科醫長	醫學博士	山	口	治	氏
整形外科醫長	醫學博士	宇	野	俊	治氏
レントゲン科醫長	醫學博士	吉	澤	八	郎氏
齒科醫長	醫學士	吉	澤	八	郎氏
藥局長	醫學士	桑	田	智	氏
事務長		笹	邊	親	氏

三一

なほ右の外に醫員約二〇名、技術員藥局約一五名、看護婦約四〇名等を有する。

因に開院以來昭和七年末まで九ヶ年半の診療人員は次の如くである。

外來新患	一六九、四九七人	一ヶ年平均	一七、八四二人
同延人員	九〇二、四〇一人	全	九四、九九〇人
入院新患	一九、一六四人	全	二、〇一七人
同延人員	四七二、五五四人	全	四九、七四三人

中央病院の  
光榮

中央病院は設立以來日なほ淺きも、特色ある病院として一般に認められ、大正十五年五月には畏くも 皇太子殿下より御使御差遣の光榮に浴したる外、大正十四年五月には内務大臣若槻禮次郎氏、同年十一月には國際聯盟萬國衛生技術官會議出席者一行、同五年七月には國際勞働協會婦人勞働問題委員一行、同年十月には子爵後藤新平氏、同十一月には遞信大臣安達謙藏氏、昭和二年十月には陸軍大將山梨半造氏、神戸駐劄和蘭領事ウエー・ハー・デ・ローズ氏、同三年五月には日本銀行總裁井上準之助氏、同七月には陸軍大將宇垣一成氏等が視察のため來院された。

最新醫術の  
研究

中央病院では、患者に對する治療の完全を期し、更に進んで研究を重ね、斯界に貢獻するの目的を以て、外には常に醫員を海外に出張せしめ、内には研究室を設けて研究に便してゐる。

開院の當初から中央試験室を設けられたが、小規模で不十分なるを認め、大正十五年九月耐火的研究室を新築し、製劑、化學、生理、病理、細菌の五部を置き、各醫長藥局長これが主任となり、醫員藥局員の指導研究に従事し、開院以來研究會を開くこと四十餘回、昭和元年度よりは毎年研究報告を行つてゐる。

院内に倉敷紡績醫學文庫あり、本院には別に圖書閱覽室を設けて臨床上必要なる圖書を藏め、内外専門雜誌閱覽の便に供してある。

開院以來本病院の職員にして學位を受領したる人々には、林雄造、脇田政孝、服部峻治郎、西端驥一、石原俊士、早野常雄、久島環、南出英憲、吉田璋也、祝洋之助、右川庸夫、東泰一、中出捨次郎、宇野俊治、柳榮、多米時彦、伊藤挺、山下秀雄、鈴木徳郎、村上正徳、原田輝雄等の二十餘氏がある。

#### 4 大原美術館

美術館の建設      設立の趣意      本館の内容  
 本館特色の一      本館特色の二      本館の光榮

美術館の建設

大原美術館は新溪園の一角老樹鬱蒼の間に在る。鉄筋混凝土二階建、希臘式の典雅壯麗な建築で、大原孫三郎氏の創立に係り、昭和五年十一月五日の開館である。正面石階段両翼のブロンズはロダンの作品にして、向つて左は豫言者ヨハネ、右は群像「カレイの市民」中の僧正である。

設立の趣意

館は昭和四年春市外酒津で逝いた我が洋畫壇の巨匠兒島虎次郎畫伯を記念する爲に、年來の友人たる大原氏が、畫伯の生涯の努力を語る作品及畫伯が生前渡歐の上斯界に寄與せんと希望の下に心血を濺いで組織的に蒐集せる美術品を陳列公開し、畫伯の遺業をして永く世に貢獻する所あらしめんと美はしき友情から成つたものである。

本館の内容

本館現在所藏の美術品は、泰西繪畫約百三十点、兒島畫伯全作品無慮七百点の内約百七十点、埃及古美術品、埃及波斯土耳其等の古陶器、支那古陶古泥象等約百五十点、及び兒島畫伯蒐集遺愛品等である。

本館特色の一

ことは大原美術館の一大特色である。所藏繪畫のすべてが兒島畫伯の力作及び同畫伯の苦心蒐集にかゝる世界の逸品である。泰西繪畫に於ては古くはグレコの「受胎告知」ミレートの「グレヴィユの斷崖」モローの「雅歌」等があり、殊に現代佛國畫壇の各代表的作品を組織的に網羅せるは他の追隨を許さざる

ところである。(出陳点数六一)  
 兒島畫伯作品は美術學校入學前のものより物故の前年に至るまでの代表作を年次に随つて陳列せられ畫伯の天才と精進とを雄辯に物語るものである。(出陳点数一〇〇)

本館特色の二

兒島畫伯は多趣味の人で特に古美術品古陶器の愛好家であつた。随つて其の蒐集に係る美術品は大原美術館の一特色をなすものである。

埃及古美術品 には木彫、石彫、石膏、陶製、鑄銅等各種の人物、墓碑、生物等があり、本邦に於ては他に類例なき特蒐である。(出陳点数四二)

埃及波斯土耳其等の古陶器 に至つてはこれこそ世界にも類例の少ない國際的特蒐にして出陳点数六〇に及び、外に支那古陶三十八点、古泥象十二点、いづれも希観のものである。

兒島壽伯蒐集遺愛品 は主として酒津アトリエに愛藏されたもので、埃及、希臘の古美術品、歐洲、支那、朝鮮、日本の新古陶磁器、古代石器、古タイル、歐洲古錢、支那古代副葬品、古鏡、象牙彫刻、作者より壽伯に記念として贈與された繪畫類其他である。

本館の光榮

昭和五年十一月には閑院宮殿下、朝香宮殿下、李鍵公殿下、六年四月には村雲尼公、七月には賀陽宮殿下、七年九月には竹田宮殿下御成御巡覽あらせられ、其他望月前内相南大將、財部海相、牧野内大臣等をはじめ朝野名士の來觀あり、一般美術家美術愛好家の參觀するもの踵を絶たず、真に本市の一異彩である。

5 倉敷紡績醫學文庫

- 倉敷紡績醫學文庫の沿革
- 圖書の特別蒐集
- 本文庫特色の一
- 本文庫特色の二
- 本文庫特色の三
- 本文庫特色の四

倉敷紡績醫學文庫は大正九年十月倉敷紡績株式會社々長大原孫三郎氏が全従業員の智識向上の爲めに、科學、社會、産業、文化等の各方面の圖書を蒐集し、併せて之を廣く一般社會に公開し、以て地方の文化に貢献せんと企圖したに初まる。その後この最初の計畫は變更せられ、主として倉敷労働科學研究所及び倉敷中央病院の學術的研究事項に對して必要な書籍文献を蒐集することとなり、現在に於ては文庫を病院内に置き、藏書の一部は研究所に保管してゐる。

圖書の特別蒐集

大原社長は大正十年歐米に派遣した労働科學研究所長暉峻義等氏其他に依頼するに、歐米に於ける文献を蒐集すべきことを以てした。依つて暉峻氏は大正十年、十一年、十二年の三ヶ年に亘つて、獨逸、伊太利、佛蘭西、英吉利、亞米利加の諸國を巡つて、こ

の文献蒐集の仕事に従事したのである。辻録氏、波多腰正雄氏等も、主として内科学、外科学方面の文献蒐集を担当したのであるが、蔵書の大部分は暉峻氏の歐米各地に於て蒐集せるところである。

本文庫  
特色の一

本文庫の現在蔵書は約七万冊に上つてゐる。その主なるものは自然科学、殊に醫學、生物學の方面に於ける學術研究雜誌及び報告の殆んど全種類を網羅し、しかもそれが初號より現在に至るまで殆んど缺本なく蒐集されてゐる点に於て、實に立派なる内容を具備してゐると云はれてゐる。中にも本文庫の誇とすべきは、獨逸、英吉利等に於けるアカデミーの諸報告が比較的多く且つ完全に含まれてゐることである。

本文庫  
特色の二

第二に本文庫の特色として誇り得べきは、大原農業研究所書庫に於ける、植物學者フエツプアー文庫と相並んで、生理學者フェルボルの蔵書を有してゐることである。フェルボル文庫は自然哲學並に文化史の名著を多く包含し、又別に數千冊の學術論文を含んでゐる。

本文庫  
特色の三

本文庫の第三の特色はゲツチンゲン醫學史文庫の所藏である。同文庫は暉峻氏が大正十一年ゲツチンゲン大學當局と交渉の結果購入したものであつて、當時ゲツチンゲン大學は戦後の經濟困難の爲め、この貴重なる醫學史文庫を賣却し、之を資金として新しき資料を求め、以て圖書館經營の危機を免れ得たと云はれてゐるのである。同文庫の内容は十五、十六、十七、十八の四世紀に亘る自然科学發祥時代の生物學、醫學上の發明發見の貴重なる典籍を含み、醫學上のみならず一般學界の至寶と稱せられてゐる。

本文庫  
特色の四

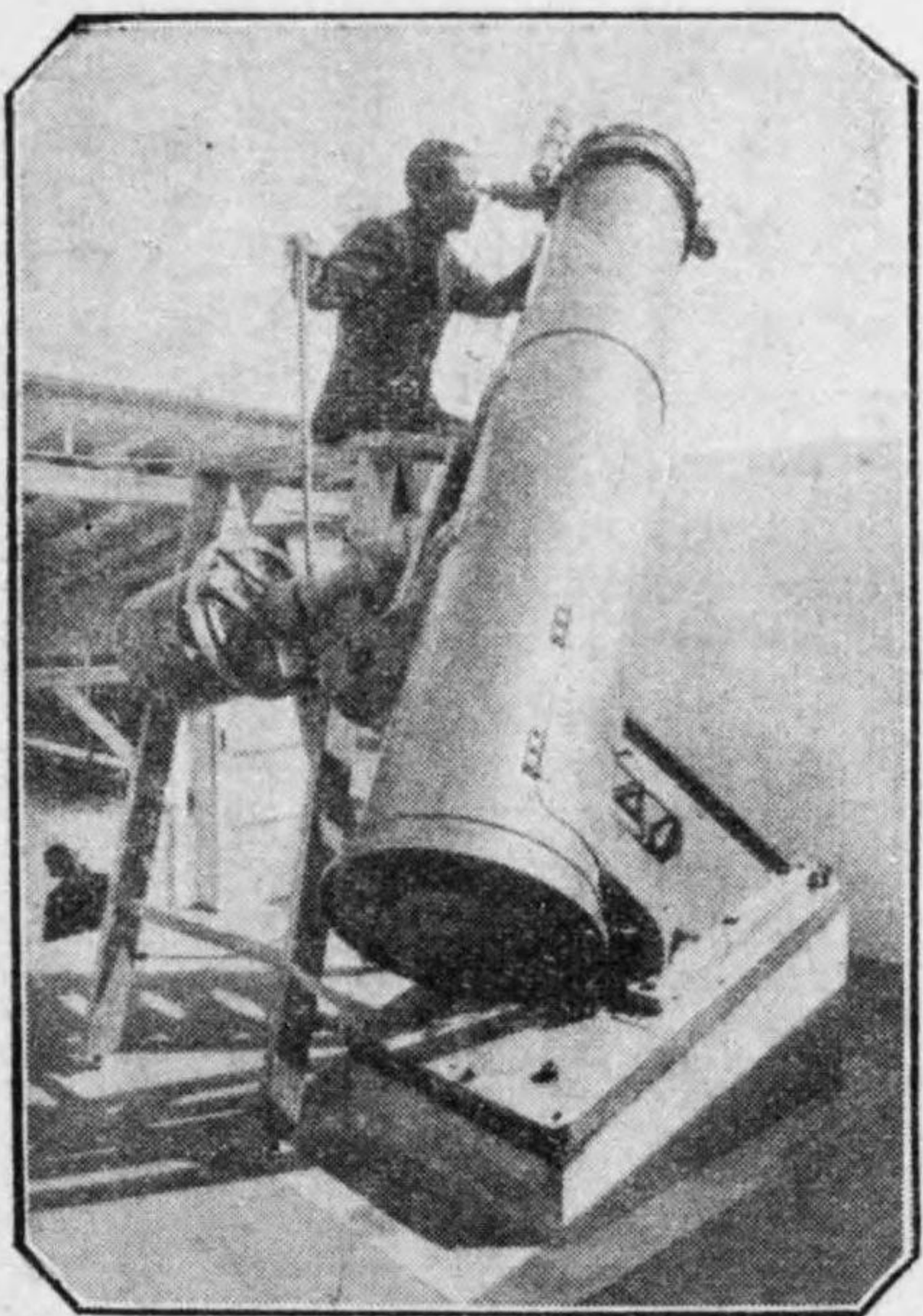
本文庫所藏の内外専門學術雜誌約一千種、しかも殆んど欠號なく取揃へられてゐるところは學界の珍とするところで、東北帝大、岡山醫大、臺北醫專等の懇囑に應じ、特別貸出をしてゐる。

なほ本文庫及び大原農業研究所書庫、勞働科學研究所、中央病院に於て現在購入せる専門學術雜誌を総合すれば、外國雜誌五百種、内國雜誌三百種、合計約八百種の多きに上つてゐる。



## 6 倉敷天文臺

本邦唯一の民衆天文臺  
天體觀測と定期公開日



倉敷天文臺

天文臺の位置と設備

本邦唯一の  
民衆天文臺

倉敷天文臺は學問に深い理解ある本市の素封家原澄治氏によつて大正十五年に創立され、引續き同氏の獨力で經營されてゐる。官公立の天文臺が常にその門戸を鎖してゐるのに反し、本天文臺では、縣下は勿論隣縣其他から一ヶ年約六千人の參觀者を迎へ、實に「民衆天文臺」たる使命を完全に果しつゝあるのである。

天文臺の  
位置と設備

倉敷天文臺位置

東 經 八時五五分五・二秒 (一三三度四六分一八秒)  
北 緯 三四度三五分三三秒

主機械は口径三二糎ニュートン式反射望遠鏡で、倍率は四〇倍乃至六〇〇倍、スライディング式のドーム中に、赤道儀式に据付けられてゐる。

その他に一〇糎天體寫真機、七糎屈折望遠鏡等がある。

平日は臺員荒木氏が多くの參觀者の案内に當り、一方には太陽黒點の連續觀測、惑星彗星、小惑星、變光星の寫真觀測等を行ひ、天文學界に貢獻するところが多い。

天體觀測と  
定期公開日

又毎月第一と第三との土曜日定期公開日とし、夕刻から天文講演會を催し、天體の

觀望を行つてゐる。

現在職員

名譽臺長

原

澄

治氏

臺	臺	主	臺
員	員	事	長
			理學博士
			山
			本
			一
			清氏
			水
			野
			千
			里氏
			宮
			原
			節氏
			荒
			木
			健
			兒氏

四二

## 7 若竹の園

若竹の園の生ひ立ち  
園の設備  
園の特色

若竹の園の  
生ひ立ち

若竹の園は、大正九年倉敷紡績株式會社關係の夫人を中心としたる有志婦人によつて組織された倉敷さつき會の經營にかゝる保育所である。

本市が近年産業都市として著しき發展を來すや、倉敷さつき會は大正十一年五月の總會に於て、現下の社會的情勢に應ぜんがため、且つは會員個々の自覺と相俟つて、この産業都市に於ける社會的不幸を減じ、その缺陷を充たさんがため、中産階級以下の乳兒並に幼兒の保育保護の社會的事業を起すの議を決し、爾後會の幹部は會員の熱心なる協力の下に、事業資金調達のため、バザーに、實業部に其他種々の社會的活動をいとなんだ。此の間、倉敷紡績株式會社當路者の熱心なる後援もまたこの企畫遂行に對して重要なものであつた。

かくて保育所は大正十三年五月起工、翌十四年二月竣工、故法學博士小河滋次郎氏によつて若竹の園と

四三



若竹の園

命名せられ、同年三月保育事業を開始するに至つた。

四四

園の設備

若竹の園は西村伊八氏の設計にかゝり、敷地五百六十坪、総建坪百五十八坪、建築は最近文化様式の粹を凝らし、見るからに若々しい明るい感じのもので、採光に通風に、其他すべて保育上遺憾なきを期し、カーテン、壁の色まで一々専門家の指導監督に待ち、他に見難い模範的のもので、事務室、醫務室、遊戯室、保育室、ベランダ、寢室、ホール、食堂、炊事場、浴場、保母私室、集會場等を備へてゐる。

園の事業

幼児の年齢により園児を月の組（年長）星の組（年少）の二つに分ち、星の組には晝食を給し、兩組とも一日一回肝油及間食を與へ

午前六時から午後六時まで保育する。但し保育時間は季節により多少の伸縮がある。右の保育事業の外に親の會、同窓會、子供會、夜學裁縫部、兒童健康相談所等各種の隣保事業を行つてゐる。

園の特色

若竹の園は岡山縣最初の保育所であり、その建築に於て、設備に於て、はた保育の行届ける點に於て、全國有數のもので、遠方よりの參觀、名士の視察多く、年々の來觀者一千數百名に及んでゐる。

倉敷中央病院及び倉敷勞働科學研究所と特種の關係を有し、園児の保健及び精神検査等に多大の便宜を有することもまた本園の特色である。

本園は昭和七年二月及同八年二月の兩度、宮内省より獎勵金御下賜の恩命を拜し、同時に内務省よりも獎勵金を下付された。

### 8 新 溪 園

新溪園の由來  
新溪園の利用

新溪園はもと大原孫三郎氏の別邸であつたが、大正十年十二月庭園々地建物諸調度一切に保繕準備金壹萬圓を添へて市に寄附されたもので、市は之を公園とし、建設者なる先代孝四郎氏の雅號新溪を取つて園に名づけたものである。

近時倉敷市の膨脹に伴ひ、園の位置は恰も中樞の要地を占むるに至り、加ふるに市に於ける社會的設備は未だ不充分なるを免れざるものあり、平素社會的施設の充實を主張せる大原氏はかゝる廣大なる邸宅園地をこゝに占有するは自己平素の主張に



新 溪 園

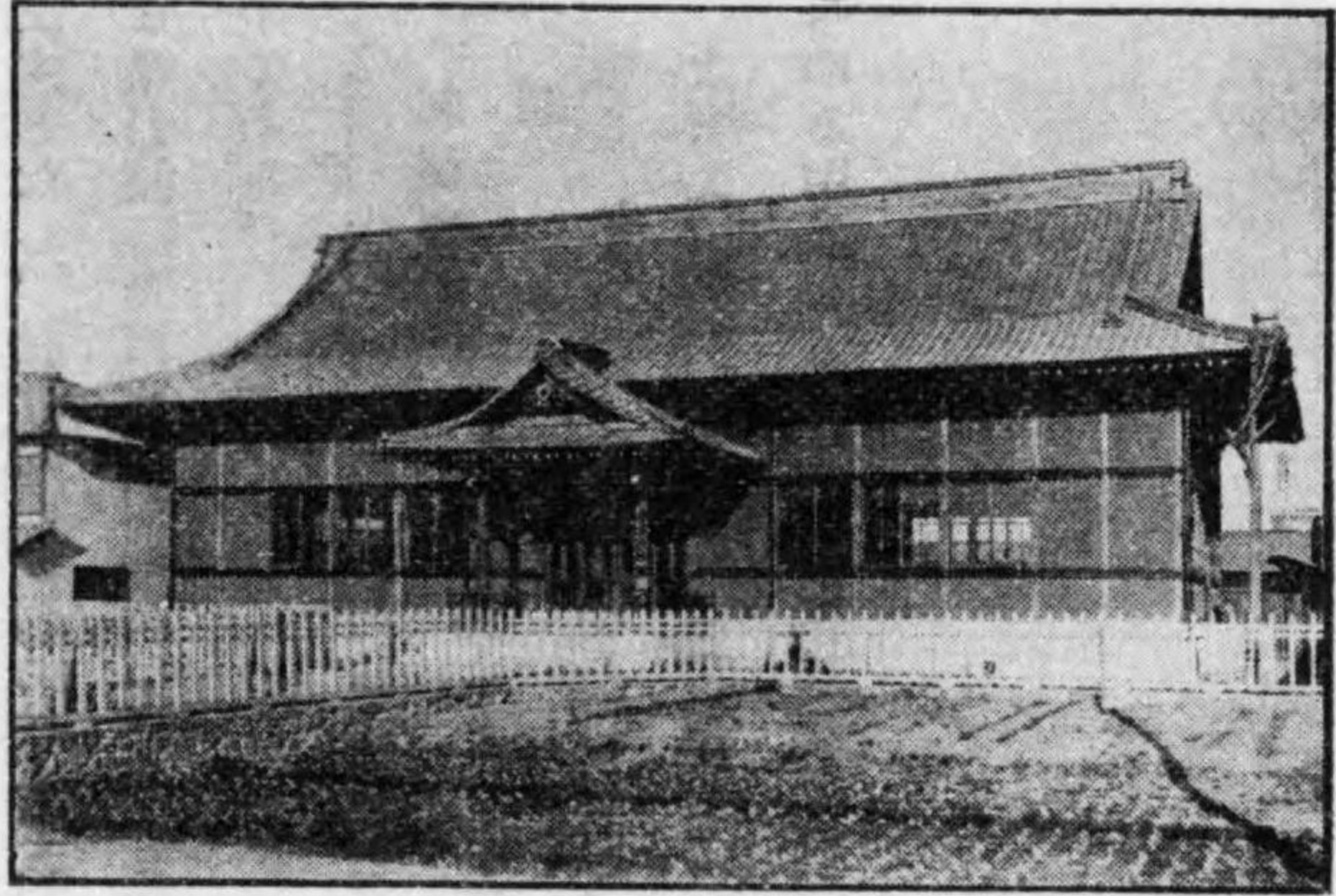
新溪園の  
由 來

反すとなし、社會的の使用に供する目的を以て解放に一步を進め、維持資金を附し、全然市に提供され、なほ引渡に先だち、園地及び附近の住宅地域を整理し、新に道路を築造し、使用上遺憾なきを期せられたのである。

新溪園の  
利 用

新溪園は面積約六十七アール（二千七坪）園池木石雅趣に富み、たゞに遊息に適するのみならず、廣き芝生は園遊會を催すに足り、亭榭數字、総建坪百九十八坪、最も大なるものを敬儉堂とし、之に次ぐものに游心樓及び茶の間等がある。

大原氏の提供せられたる諸調度中には、多數の書畫をはじめ、火鉢、煙草盆、座蒲團等に至るまで、あらゆる用具をも含み、公私諸般の會合、市賓の接待等にも極めて便利で盛んに利用されてゐる。



倉敷武徳殿

### 9 倉敷武徳殿

四八

武徳殿の施設 設立の沿革

武徳殿の施設

倉敷武徳殿は建坪八十三坪、構造は瓦葺御殿造の平屋で、二階建二十一坪の別館がある敷地坪數二百六十五坪。建設所有者は社団法人倉敷武道後援會で、事業經營は大日本武徳會岡山支部倉敷支所に依つて行はれ、武道練習日は目下毎週月水金柔道、月水土剣道、何れも夜間である。

設立の沿革

本殿は大正十一年、時の倉敷警察署長片山長之助氏の發起で先づ在米本縣人に援助を求め約壹千圓を得たが、時恰も財界不況の爲め

果さず、昭和七年七月に至り、當時の署長梶並謙吾氏が其の志を継ぎ、本市の原澄治氏を會長とし、地方の武道家を中心とした倉敷武道後援會を組織し、資金壹萬六千圓を得て、八月二十九日工を起し、十月二十一日日本館落成、翌八年一月十日落成式を舉げた。

## 10 教育助成機關

五〇

- |               |              |
|---------------|--------------|
| (1) 倉敷獎學會     | (2) 萬壽獎學會    |
| (3) 大高父兄團     | (4) 倉敷兒童保護協會 |
| (5) 倉敷小學教育助成會 |              |

教育助成機關には倉敷獎學會、萬壽獎學會、大高父兄團、倉敷兒童保護協會、倉敷小學教育助成會等があつて、或は基金の利子により、或は會員の醜金により、妊産婦の保護、乳幼兒の保護、學齡兒童の保護學習費補助等諸種の事業を經營してゐる。

(1) 倉敷獎學會 創立最も舊く、明治三十六年四月、故大原孝四郎氏が、基金の利殖を以て當時の倉敷町兒童にして就學上困難を感じるもの、就學獎勵の費に充つる目的を以て金壹萬圓を寄附せられ、之を基金として倉敷獎學會を組織し、財團法人としたもので、創立以來年々利子の剩餘を生じ、之を基金に繰入れ、現在の基金は壹萬參千圓となつてゐる。

補助の方法は家庭補助金と學用品給貸與との二つに分ち、補助金は月額參拾錢乃至貳圓五拾錢、給貸與

學用品は教科書筆紙墨帳面等でその全部又は一部を給する。

創立以來昭和七年度迄の家庭補助金總額壹萬參千九百九拾貳圓、補助人員一千十六名、同學用品給貸與金額參千九百餘圓、給貸與人員六千六百十四名に上つてゐる。

(2) 萬壽獎學會 明治三十九年二月、戰役記念事業として創設したもので、現在基金貳千七百圓、この利殖金を以て學用品給與、体育施設の補助等を行つてゐる。

(3) 大高父兄團 大正十一年四月の創立で、基本財産五千貳百圓、一ケ年經常費約貳千圓を以て、學用品の共同購入、講演會、兒童養護、就學獎勵を目的とする給與等の事業をしてゐる。

(4) 倉敷兒童保護協會 大正十二年五月學制頒布五十年記念として設立したもので、現在會員四百餘名年醜金五百圓、縣市補助貳百圓を以て無料助産、兒童健康相談、健康兒審査等の事業をしてゐる。

(5) 倉敷小學教育助成會 昭和二年の創設である。基金は木山巖太郎氏の寄附金を主としたもので、其の額壹萬參千參百圓、兒童の學習資料蒐集、兒童体育向上の施設、兒童修學旅行の補助、兒童修養娛樂の施設等の事業を行つてゐる。

五一

## 11 其他の社會的施設

五二

- (1) 倉敷市濟世會 岡山縣濟世顧問及濟世委員設置の趣旨を達成するを以て目的とし、大正十四年七月組織されたもので、市役所社會係と連繫し、防貧、救貧、其他濟世利民に關する事項を取扱つてゐる。
- (2) 倉敷市養老救濟事業 大正九年二月大原孫三郎氏より養老救濟資金貳萬圓の寄附があつたのを機として起したもので、六十歳以上で職業を營むことが出來ず、或は職業を營むも尙生計困難な者に情況に應じて、扶養料、住宅料、被服料、醫療料、慰藉料、保護料等を給與する。
- (3) 倉敷市罹災救助資金 大正七年米價暴騰の際有志者の寄附にかゝる廉賣資金の剩餘金の蓄積金壹萬七千六百餘圓を以て救助資金とし、本市住民の非常災害に罹つた者に情況に應じて、避難所費、食料費、
- (1) 倉敷市濟世會
- (2) 倉敷市養老救濟事業
- (3) 倉敷市罹災救助資金
- (4) 倉敷市職業紹介所
- (5) 倉敷市醫會附屬診療所及無料健康相談所
- (6) 倉敷市公益質屋
- (7) 倉敷市窮民救助
- (8) 倉敷市實費診療及無料診療事業
- (9) 倉敷市婦人保護事業

被服費、治療費、小屋掛費、就業費、學用品費、運搬用具費、人夫費等を給與する。これは大正十二年一月から實施したものである。

(4) 倉敷市職業紹介所 前神町にある。昭和七年五月一日創設。これよりさき大正八年六月濟世顧問原澄治氏が倉敷人事相談所及倉敷職業紹介所を設け、無料で人事各般の相談并に職業紹介の需めに應じ、市の紹介所創設直前まで繼續された。

(5) 倉敷市醫會附屬診療所及無料健康相談所 共に御崎にある。診療所は昭和二年八月一日の創立にかかり、本市在住の貧困者で疾病に罹つたものを診療し、治療券は濟世委員及醫會員から發行する。昭和八年六月より無料健康所相談所を併設した。

(6) 倉敷市公益質屋 前神町にある。公益質屋法によつて中産階級以下の者に對し貸付を行ふ。昭和二年七月經費豫算額參萬九百九拾圓を以て創設したもので、昭和八年度經費豫算は九千八百九拾五圓である

(7) 倉敷市窮民救助 市は救助規程によつて窮民に對し、その狀況に應じて、食費、副食物、幼兒保育料、藥價、藥餌料、診察料を給し、その死亡に當つては、棺桶、埋葬人夫賃、墓標、雜費、火葬費等を給

五三

する。

(8) 倉敷市實費診療及無料診療事業 市は市住民の爲實費及無料診療を倉敷市醫師會に委託し、昭和五年十二月十日より實施し、其の成績は逐次良好に向つて居る。實費診療は市住民の約三分の一を、無料診療は救護法の適用を受くるに至らざる生計困難者及同居家族を取扱つてゐる。

(9) 倉敷市婦人保護事業 昭和五年六月五日大原總一郎氏より婦人保護事業資金として本市へ金壹萬圓を寄附せられたるを以て、倉敷市婦人保護事業資金を設置し妊産婦の保護、婦人人事相談其他一般婦人保護事業を取扱つてゐる。婦人人事相談所は前神町にある。

## 二都市施設

上水道、電氣及瓦斯、塵芥焼却場、都市計畫、  
新溪園、鶴形山公園、向山公園、

### 上水道

水源は市の北郊二軒、高梁川の左岸酒津にある。字城ノ内に水源井五個を掘鑿し、地下約一米五の深さに連絡管を埋設して各井の湧水を集水池に導き、これに隣つて唧筒場を設け、高揚唧筒で標高四十二メートルの地點にある青江山々腹の配水池に送水し、こゝから菅生村を経て自然流下に依り配水する装置であつて、送水管及び配水管の総延長は約二十軒に及んでゐる。

初め計畫を立てたのは大正八年工事着手は同十一年二月、完成は同十二年九月、総工費參拾參萬八百圓職工人夫三萬三千人、當時の町人口一萬三千人に對し、二萬五千人に給水し得る計畫に成つたものである而して其の水質が極めて清冽なこと湧出量の多いことは實に全國に其の比を見ない程であるといはれる。

昭和七年度末の給水狀況は

給水栓數



消火栓	放任給水栓	計量給水栓	計
二八	一、六〇四	五三二	二、三三六

五六

給水戸數		給水量 (單位立方米)	
專用栓引用戶數	公用栓使用用戶數	一ヶ年給水量	一日給水量
放任給水	計量給水	公設	私設
一、三九八	五三二	九三三	六〇五
計		三、五二七	二、三三六

一ヶ年給水量	最大	最少	平均
八五〇、七七一	三、六六三	一、〇八八	二、三三六

近時市の急激なる發展に伴ひ、水量に不足を告げんとする傾向があるので、昭和五年八月三十馬力タービン唧筒一台を増設し、同年十一月水源井(内徑十尺)一箇を掘鑿し一部の補水設備をなし、同八年には給水地區を擴張し、水管五、六七二米を延長した。



五である。

**塵芥焼却場**  
**電氣及瓦斯** 電氣は中國合同電氣株式會社の供給に係り、昭和八年三月二十日現在市内電燈戸數二七、九四八、燈數八一、五三〇、動力戸數九二六、馬力數九、一四四である。

瓦斯は倉敷瓦斯株式會社の供給に係り、昭和七年末現在燃料引用戶數一、三七六、口數三、六三八、機關引用戶數一、台數二、馬力

五七



鶴形山公園妙鶴亭

**塵芥焼却場** 白樂市字道官地に新設、昭和八年六月八日地鎮祭執行八月三十日落成、片山式塵芥焼却爐二基聯設、一日焼却能力四千貫、総工費豫算額壹〇、參貳六圓である。

**都市計畫** 昭和三年九月六日勅令第二百二十五號を以て本市に都市計畫法適用、ついで全計畫區域を本市及都窪郡帶江村の一部(大字五日市、羽島)、菅生村の一部(大字子位庄)、中洲村の一部(大字酒津の内高梁川左岸以東一圓)と決定せられ爾來同委員會に於て着々該計畫進行中で、近く實施を見るに至るであらう。

**新溪園** (社會的施設の條に收む)

**鶴形山公園** 市街の中央、鶴形山頭、阿智神社の外園は即ち鶴形山公園である。東は兒島灣を望み、北西は吉備の諸名山

を指すべく、南は近く向山の翠綠と相對し、足高山また呼べば應へんとし、遠くは瀬戸内海を隔て、讃豫の遠山縹渺のうちに在り、倉敷全市を一眸のうちに收め、風景絶佳古くより文人墨客の來り遊ぶもの頗る多く、夙に鶴形山八景の目あり、蕪城秋雪、柳井綱齋の十二勝詩等がある。

公園施設の初めて成つたのは、明治二十七年、時の町長植田年翁の盡力によるもので、最近には主として鴨井銀三氏の篤志によつて、大いに舊觀を改めた。

園の面積約九十五アール(二千八百六十九坪)木石蒼古、結構布置おもしろく、忠魂碑あり、芭蕉の句碑あり(咲みだす桃の中より初ざくら)、臥龍の松の根に明和の仁人岡雲臥東廣場に維新の志士林梧陰の頌徳碑あり、面積約十五アール(一反五畝)の大藤棚、同く約半アール(十五坪)の白藤棚あり、亭榭三棟あり、猿兔小鳥等の動物を飼育せるあり、池に緋鯉を放ちあやめを植ゑたるあり、昭和三年新に櫻、楓さつき、霧島千五百本を植ゑたるあり、夜間は電燈を點じ、四時晝夜遊覽をほしいま、にすることが出来る。

**向山公園** 市街の東南、向山の巔、老松枝を交へ奇岩怪石其の間に点在し、閑雅幽邃、風景絶佳、

北は鶴形山公園と相對し、南は樂山園に連り、西南眺望殊に開け、足高山は近く田疇の間に峙ちて盆景の如く、兒島の連峯其の南をめぐり淺口吉備の諸山其の西に起伏し、瀬戸内海を隔て、遠く四國の峯巒を縹渺の間に望む。これを向山公園の大觀とする。

本公園は曾て斯界の權威田村剛博士が本市公園豫定地踏査の際、天然の理想的山林公園として激賞措かざりしところ、面積約四百八十四アール（一萬四千六百二十七坪）大小二區に分れて瓢形をなし、中間南面の茶畑は大グラウンド建設の好適地である。

市は昭和五年之を公園とし、先づ自動車道路を新設し、逐次公園設備を完成しつゝある。

### 三 官 公 署

倉敷警察署、倉敷稅務署、倉敷驛、倉敷郵便局、倉敷驛前郵便局  
國道改良事務所、岡山縣倉敷土木出張所、玉島區裁判所倉敷出張所  
倉敷煙草販賣所、都窪倉敷各種團體事務所、倉敷市役所

**倉敷警察署** 旭町南通一丁目にある。舊郡役所の廳舎に改修を加へて昭和三年四月同町の舊廳舎からこゝに移つたものである。倉敷市及び都窪郡の内、清音、常盤、山手、三須、加茂の五ヶ村を除いた外の十一ヶ町村、吉備郡の内庭瀬町、兒島郡の内、興除、藤田の二ヶ村を管轄し、警部派出所一、巡査派出所三、同駐在所二十一である。

**倉敷稅務署** 旭町南通一丁目にある。もと新阿知町にあつたが大正十三年三月こゝに新築移轉したものである。倉敷市及び都窪、吉備の二郡を管轄してゐる。

**倉敷驛** 榮町通の正面にある。急行列車停車驛で、岡山驛を距る十五軒九。山陽本線と伯備線との分岐点で、宇野線茶屋町驛との間には省營バスの往復がある。明治二十四年四月二十一日營業開始、明



倉敷驛

治四十三年十一月一日倉敷電信取扱所設置、大正十四年一月東西信號取扱所設置、大正十四年二月驛舎本家改築、大正十四年二月十七日伯備線倉敷実栗間開通、昭和三年十月二十五日米子まで全通。昭和八年三月三十日倉敷茶屋町間省營バス運轉開始昭和五年一月より同七年十二月に至る三ヶ年間の旅客乗降人員一日平均四千四百九十七人、一ヶ年平均百六十一萬人に及び、乗降客の多きこと岡山姫路に次ぎ、岡山運輸事務所管内九十六驛中第三位を占むる主要驛である。

**倉敷郵便局**

本町にある。明治四年十一月二十五日郵便取扱所設置、その後数度の變遷を経て、明治三十九年十二月一日倉敷郵便局と改稱今日に及んでゐる。郵便一般事務を取扱ふ。

**倉敷驛前郵便局**

驛前榮町にある。昭和三年四月一日の新

築開局で、書留、小包、爲替、貯金、振替貯金、保険、年金、恩給等を取扱ふ無集配局である。

**國道改良事務所**

濱にある。内務省大阪土木出張所岡山國道改良事務所と稱し、昭和六年四月はじめて岡山市に設置、同七年十一月本市に移轉、目下岡山倉敷間國道改良工事に關する事務を取扱つてゐる。

**岡山縣倉敷土木出張所**

濱にある。昭和二年五月初めて各種團體事務所内に開所し、昭和三年八月こゝに新築移轉したものである。管轄は倉敷市、都窪郡一圓、兒島郡の内、藤戸、粒江、福田、本莊、下津井、赤崎、味野、琴浦、兒島、郷内の十ヶ町村、淺口郡の内、玉島、富田、長尾、船穂、連島、西阿知の六ヶ町村、吉備郡の内、岩田、福谷、大井、日近、足守、阿曾、生石、高松、眞金、服部、總社、神在、秦、庭瀬、穂井田、二万、菌、箭田、吳妹、川邊、岡田、新本、久代、山田の二十四ヶ町村に亘り、土木行政事務をつかさどつてゐる。

**玉島區裁判所倉敷出張所**

旭町北通一丁目にある。もと榮町にあつたが、昭和二年三月こゝに新築移轉したものである。倉敷市一圓、都窪郡の内、帶江、菅生、中洲の三ヶ村、兒島郡の内、福田村大字浦田、粒江村の二村五大字を管轄し、登記事務に當つてゐる。



收入役	一	
	計	計
	四	
	一	
	三〇	二
	五	
	七	
	一	
	一	
	三	
	五	二

六六

備考 其他ハ機關手ニ、雇一ナリ

各種委員

學務委員	土木委員	水道委員	公園委員	産業保健委員	社會事業委員	警備委員	教育委員	計
二〇	九	六	三	七	五	三	八	五

本表の外市長囑託に係る町區改正調査會委員二十四名あり。

議決機關

市會議員

三十人

其他市と相提携して行政を補助する機關には市農會、消防組、衛生組合、町總代等がある。

市農會		役員	職員	會員	昭和八年度經費豫算及主なる事業 豫算 一、二〇二圓 事業 講習講話、有益事業調査、園藝研究、農業經營改善指導、 病虫害防除相談所、農村經濟更正會、作物試驗、蠶糸業試 驗、蘭苗原苗圃、講買販賣斡旋、農產物市場 獎勵 農家組合、米麥採種圃、小麥増殖、種苗改良、蠶糸業、暗 渠排水、自給肥料改良増産、出荷組合、花卉園藝會、農事 研究會
會長 一	副會長 一	幹事 二	技手 四	會員 二、四九二	
顧問 二	評議員 三	書記 一	總代 四〇		

消防組		名稱	組頭	部長	小頭	消防手	消防器	具
東消防組	北消防組	南消防組	計	三五	七八	二〇	一	八
一	一	一	三	二〇	三六	七六	五	三
				七	三	二	七	一
				八	三	三	三	三
				五	一	九	一	二

六七

衛生組合		主なる事業
組合長	副組合長	
一	一	清潔法及消毒實施、道路撒水獎勵、塵芥集積場設置獎勵、盂蘭盆會施設、衛生思想普及施設、糞尿處分
評議員	委員	
六	二二	
組合員	七、〇八	

町總代	六六區 二七二名 内正當番 六六名
-----	-------------------

財政 昭和八年度豫算は總額四拾貳萬七千四百八拾六圓で經濟別概要左の通りである。

(昭和八年三月調)

經濟名稱	歳出	經濟名稱	歳出
一般會計	三〇、一六 <sub>円</sub>	二、會議費	三、四一 <sub>円</sub>
經常部	三六、七九	三、役所費	四七、九元
一、神社費	六	四、土木費	一八、四〇〇

五、教育費	二四、六一	一八、基本財産造成費	四
六、學事諸費	一、八〇六	一九、財産費	一、三九三
七、傳染病豫防費	二、九五二	二〇、諸税及負担	一、〇六四
八、傳染病院費	一四、一五二	二一、公金取扱費	五
九、汚物掃除費	七、八二	二二、雜支出	二、三六二
一〇、衛生諸費	九七	二三、豫備費	二、八〇〇
一一、公園費	二、二八〇	臨時部	七、四九元
一二、墓地費	七	一、土木費	一九、二五四
一三、火葬場費	一、二六六	二、教育費	五、四〇一
一四、勸業費	二、二四	三、都市計畫費	三、一四一
一五、職業紹介所費	二、三三	四、救護所營繕費	五、二八六
一六、社會事業費	七、九三	五、地方改良費	四〇〇
一七、警備費	三、六四六	六、積立金	一

七、公債費	八、六九〇	養老救濟費	二、三三〇
八、運用金戻入	三、三六三	婦人保護事業費	九八五
九、寄附金	二、八二三	罹災救助資金	一、三八
一〇、補助金	四、八〇二	新溪園保繕積立金	六二四
一一、商業學校營繕費	一六、〇六二	鶴形山公園維持資金	一四
一二、調査費	一、〇〇〇	功勞者並篤志善行者表彰基金	二四
一三、記念式費	三〇〇	傳染病院建築準備積立金	二〇
一四、雜支	九一六	市廳舍建築資金	六六
特別會計	一七、三八	學校營繕費	四〇、六二六
水道費	六一、四四	總計	四三七、四八六
公益質屋費	九、八九五		

諸税負担の状況は左表の通りである。

種別	税額	現住一戸當	現住一人當
直接國稅	九四、六七、一四〇	一三、三五〇	二、九三三
直接縣稅	三九、四五、八八〇	一八、二六三	三、九九八
市稅	一七〇、五九、二二〇	二四、〇五九	五、二六六
合計	三九四、六一、一四〇	五、六七二	二、一八六

(昭和七年度)



### 第三章 産業

職業別状態、生産状態、倉敷商工会議所、物産陳列所、蠶糸業組合、  
商工業組合、會社、工場、銀行、産業組合、市場、倉敷競馬場、  
特産品と倉敷名物

#### 職業別状態

本市の現住戸数を職業別にして見ると、商家最も多く、工業戸數之に次ぎ、農業庶業又之に次ぐ。左に最近調査の統計を掲げる。

現住戸口職業別状態

(昭和七年末調)

職業別	專業戸數	兼業戸數	計	專業人口	兼業人口	計
農業	一、二五戸	二四戸	一、三九戸	五、三一	九四	六、二五
水産業	六	九	一五	元	四	九
工業	一、三六	六〇八	一、九七二	六、三六	二、七六	八、九二

商 業 其 他	無 職 業	計
一、八六	五、四三	一、四六
一、〇七	八四	一、一五
三九	一、六四	七、〇八
二、三三	八四	二、四一
八、七四	二、八五	一、一七
四、六七	三三	一、四七
二、二七	七、五三	一、〇七
一〇、六二	三、三一	一、〇七

#### 生産状態

次に生産の状態を見るに、工産が其の大部分を占めてゐる。

年次	農産額	工産額	其他	生産總價額
昭和五年	九〇一、二四五円	二、〇八三、三二五円	九四、一八八円	三、〇七八、七四八円
昭和六年	七二、九二	二、三八四、五〇二	九、一六七	三、一八七、五九〇
昭和七年	一、〇七五、四五五	二、〇四八、〇七二	八〇、八六六	三、二〇四、四九三

試みに昭和七年分の生産に就いて生産年額五萬圓以上のものを擧げて見ると

糯米	八三、一	二、二〇二石	五九、九〇〇
小麥	二〇〇、五	三七、四〇〇貫	一四八、四五六
大麥	四八、〇	六、六七七石	七四、六九三
蠶豆	一三〇、二	二、〇七七石	一五、〇七三
大豆	一〇、五	一四七石	一、七六四
甘藷	一五、六	五、四八〇貫	五、一四八
馬鈴	四、一	一三、二〇貫	一、三三二
胡椒	一〇、三	六八、〇四六貫	四、七三三
越瓜	五、九	四七、四〇〇貫	五、二二八
西瓜	二、二	一三、九三貫	一六、七〇
甜瓜	七、三	三、三九〇貫	四、七〇九
茄子	二、三	一五、四〇貫	二、二五七
萝卜	六、九	六三、一〇〇貫	三、七三六
大芥	一〇、三	八三、四〇〇貫	四、九四四
里芋	七、五	三〇、〇〇〇貫	四、五〇〇



種別	作付反別	收量	價額
綿糸	七、二九千円	一四、千円	七四、千円
金巾	一、二四〇	二〇	六三
粳米	五九	八	五九
綿帆布	三九	八	五
上敷莫産蒲團	二五〇	七	五
蠅取紙	一八五	七	五
蘭草	一四、千円	二〇	七四、千円
綿小倉	一三	二〇	六三
繻糸	二二	八	五九
酒	二九	八	五
電氣	二五	七	五
醬油	二三	七	五
加工用材	一四、千円	二〇	七四、千円
菓子類	一三	二〇	六三
花筵	二二	八	五九
疊表	二九	八	五
薄荷	二五	七	五
錫田鉄短册煮	二三	七	五
小麥	七四、千円	二〇	七四、千円
製綿	一三	二〇	六三
印刷製本	二二	八	五九
取卸薄荷	二五	七	五
洋服	二三	七	五

一、農産物 生産

なほ昭和七年分各種生産の詳細は左表の通りである。

(昭和七年分)

合計	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他
1,075,455	18,593	1,865	2,958	3,197	5,261	1,946	3,366	1,056,863	8,180	1,292	78,753	3,642	3,880	3,746	3,752
11,050	5,666	10,900	11,500	10,000	7,077	9,953	1,790	4,047	19,313	607	1,219	97	379	379	67

二、水產及水產製造物

種類別	數量	價額	種類別	數量	價額
鮭、鮎、鰻	七九〇貫	一、二四四	其他	—	一七八
蒲鉾、竹輪	三三、〇九貫	四三、四九六	合計	—	四三、九一八

三、蠶業及畜產

種類別	數量	價額	種類別	數量	價額
蠶繭	二、四三貫	一〇、九〇〇	牛乳	二〇石	八、四〇〇
鷄卵	一〇、七三羽	五、六六六	其他	—	一、七六二
鷄	六〇、六三個	一一、〇五〇	合計	—	三六、九六八

四、工業產物

種別	數量	價額	種別	數量	價額
綿糸	二、二八九、四六貫	七、二九、三七	酒	一、六五〇石	二九、五〇〇
綿糸	三、四九二貫	一〇、二九五	酢	七〇石	一、一〇〇
金小	二、三二一、三三碼	一、一四〇、四三	醬油	三、四三〇石	一三、二〇〇
棉帆	四九七、六四三碼	一三八、一五一	味噌	四、〇七貫	二四、四二〇
棉帆	一、〇五三、九二碼	三九、六九四	漬物	四、三〇貫	四、三〇〇
推袋、帆前掛		四六、四九〇	豆腐、油揚		二、八〇〇
洋服		四、六五五	蒟蒻		二五、六〇〇
手袋、靴下	一、九〇〇打	五、五四〇	酒醬油等醸造粕		三、一六〇
足袋	一三八、〇〇足	一、三三六	酒醬油等醸造粕		七、五〇〇
製綿袋	三、〇〇貫	一九、八〇〇	錫田鉄短册煮		七、五〇〇
賣藥		六、二〇〇	製餚	一三、五〇貫	三、七八〇
醫療藥品	一五、五〇磅	四、三〇〇	菓子類		一〇、二〇〇
蠅取紙	一一、三〇〇捆	二七、五〇〇	麵類		三、〇〇〇
取卸薄荷	六、九〇斤	一五、〇〇〇	生饅頭		一三、六〇〇
		五、二八〇	干饅頭、索麵	三六、三四貫	一四、六五四

製涼飲料水	三五、三〇貫	三、七〇〇	瓦	二七、四三	二五、一七〇
疊表	二五、〇二打	四、八〇〇	コーラス	三二〇疋	四、〇〇九
花筵	一〇、〇六八枚	八〇、三三四	炭團、煉炭		一八、一〇〇
上敷、莫座蒲團	一七、九三本	八四、四二六	鐵工器具機械		五、七〇〇
野草筵	八、六〇枚	二五、五〇〇	亞鉛錫力細工		二四、四〇〇
靴	六、三〇打	一一、四〇〇	金網		一、三〇〇
下駄(素地)		九、六六六	石細工		二、三三四
麻裏		一六、七〇〇	瓦	五、〇〇〇個	二、五〇〇
鼻緒	三三〇、〇〇足	一三、五〇〇	捺染用刷毛		一、四〇〇
紙製品		四〇、六〇〇	指物類		三六、二八五
傘製		五、七〇〇	加工用材		一〇、八八六
提燈		三、四〇〇	竹細工		二五、四〇〇
印刷製本		三、四〇〇	藥製		五、八六三
電氣	三三、四二〇	一、三三〇	其他		三、八二三
		一五、〇三三	計		一一、〇四八、〇七三
			生產總價額		三、一〇四、四三三

倉敷商工會議所

商工業機關として大正八年六月倉敷經濟協會組織せられ、會員約三百、基本金壹萬數千圓を有し、主として商工會議所と同一の事業を行つてゐたが、市制施行に伴ひ、昭和四年二月新に倉敷商工會議所の設立を見、ついで經濟協會は解散した。會議所は濱田町の十字街頭にある。昭和四年十一月の新築で物産陳列所を併置してある。本市商工機關として活躍してゐる。

商工會議所の主なる役員は次の如くである。

- 會 頭 石 井 熊 夫 氏
- 副 會 頭 森 田 尚 二 氏
- 同 内 田 金 衛 氏
- 理 事 船 曳 貞 治 郎 氏

物産陳列所

倉敷商工會議所の前身たる倉敷經濟協會は昭和四年十一月解散の際、基金壹萬餘圓を有意義に使用せしめるべく擧げて之を商工會議所に引継ぎ、會議所は之に據つて物産陳列所を併置して之を經營するに至つたのである。

陳列所は會議所會議室の階下を以て之に充て、市内物産の陳列をなし、併せて即賣をもする。昭和五年一月二十八日の開場で、現在陳列の主なるものは

- 綿 糸 金 巾 帆 布 人造絹糸 洋 服
- 靴、 靴 履 物 松 魚 味 噌 酒、 酢
- 食 料 品 菓 子 花 菫 藥 品 陶 器
- 彫 刻 品 祝 儀 品 竹 細 工 化 粧 品 雜 貨
- 掛 軸 屏 風 繪 葉 書 カモキの蠅取紙

蠶糸業組合

蠶絲業組合一、市内三個の養蠶實行組合を以て其の組合員とする。(昭和八年三月末現在)

名	稱	事務所所在地	組	織	設 立 年 月
倉敷市養蠶業組合		旭 町	養蠶實行組合		昭和六年十一月

商工業組合 同業組合一、商工組合二十六。

(1) 同業組合

(昭和八年三月末現在)

組名	事務所所在地	組織	設立年月
中備薄荷同業組合	濱田町	製造業者、販賣業者	大正二年六月

(2) 商工組合

(昭和八年三月末現在)

組名	事務所所在地	組織	設立年月
倉敷菓子製造販賣業組合	濱田町	製造業者、販賣業者	大正十一年十月
倉敷メリヤス雜貨商組合	本町	販賣業者	大正十五年九月
倉敷吳服商組合	阿知町	販賣業者	大正十二年二月
倉敷警察署管内理髮業組合	御幸町	理髮業者	大正十三年七月
倉敷藥業組合	戎町	藥種商	大正十四年八月
倉敷洋服商組合	旭町	洋服業者	大正十四年九月

組名	事務所所在地	組織	設立年月
倉敷旅館組合	旭川町	宿屋業者	大正十五年五月
倉敷警察署管内古物商組合	新川町	古物商	大正元年
倉敷服裝組合	阿知町	學生服販賣業者	大正七年一月
倉敷印刷業組合	戎町	印刷業者	大正十五年一月
倉敷金物商組合	東町	金物商	昭和二年五月
倉敷小間物商組合	阿知町	小間物商	昭和二年三月
倉敷白米商組合	若松町	白米商	大正十四年四月
倉敷精肉商組合	榮町	精肉商	昭和二年二月
倉敷履物商組合	濱田町	履物商	昭和二年九月
倉敷青果乾物商組合	新川町	販賣業者	昭和二年十月
倉敷自轉車業組合	濱田町	販賣業者	昭和二年十月
倉敷酒商組合	東町	釀造及小賣業者	昭和四年三月
倉敷油商組合	土手町	油類販賣業者	昭和四年四月
倉敷紙文具商組合	阿知町	文具類販賣業者	昭和五年三月
倉敷市紙卸商組合	新川町	紙類卸業者	昭和五年三月



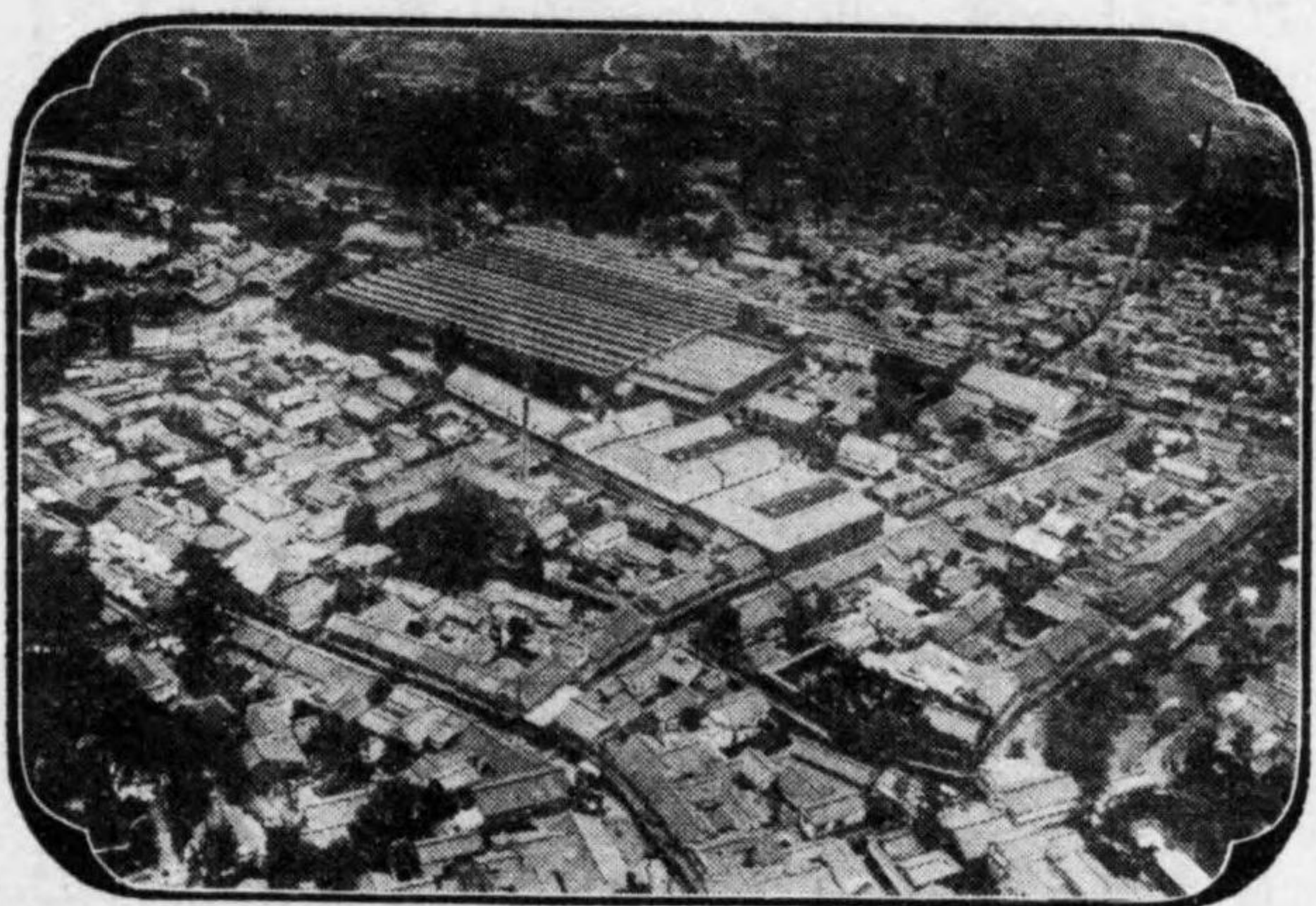
備南石油合資會社	土手町	二、五〇〇	二、五〇〇
合資會社全商會	西榮町	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
株式會社倉敷千秋座	新阿知町	八、五〇〇	八、五〇〇
合資會社岸田書物店	阿知町	六、〇〇〇	六、〇〇〇
合資會社田邊金物店	川西町	四、五〇〇	四、五〇〇
合資會社橫山商店	西榮町	四、〇〇〇	四、〇〇〇
倉敷會社籍合資會社	戎船町	四、〇〇〇	四、〇〇〇
合資會社三宅材木店	御船町	四、〇〇〇	四、〇〇〇
合資會社井上竹次郎商店	西榮町	三、〇〇〇	三、〇〇〇
合資會社角田商店	唐榮戸	三、〇〇〇	三、〇〇〇
合資會社平松商店	濱ノ茶屋	三、〇〇〇	三、〇〇〇
合資會社宇治屋商店	新川町	三、〇〇〇	三、〇〇〇
合資會社三宅商會	御幸町	三、〇〇〇	三、〇〇〇
合資會社富貴屋天命堂	春日町	一、三〇〇	一、三〇〇
赤澤合資會社	川西町	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合資會社田中商店	阿知町	一、〇〇〇	一、〇〇〇

全 (支店)

株式會社安田銀行倉敷支店	戎町	一五〇、〇〇〇	九二、七五〇、〇〇〇
中國合同電氣株式會社倉敷營業所	本町	三二、〇〇〇	二五、八六七、〇〇〇
株式會社中國銀行倉敷支店	全町	一五、〇〇〇	八、二九六、五〇〇
株式會社岡山合同貯蓄銀行倉敷支店	榮町	一、三七〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
株式會社中備銀行倉敷支店	阿知町	一、〇〇〇、〇〇〇	三九、二〇〇
福山撚糸紡績株式會社倉敷支店	御船町	一、〇〇〇、〇〇〇	四七五、〇〇〇
岡備倉庫株式會社倉敷支店	榮町	一、〇〇〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇
岡山商事株式會社倉敷出張所	戎町	一、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
株式會社林源十郎商店倉敷支店	本町	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
岡山タクシー自動車株式會社倉敷支店	戎町	一六、〇〇〇	一五、〇〇〇
岡山鹽元賣株式會社倉敷支店	濱町	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
合資會社岡山金融無盡商會倉敷出張所	旭田町	一〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇
合名會社藤木工務店倉敷支店	旭田町	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

工場 昭和八年三月末調査によるに、工場は倉敷紡績株式會社の倉敷工場、萬壽第一工場、全第





倉敷紡績倉敷工場



倉敷紡績萬壽工場

二工場を初めとしてその数すべて百三十三、職工数二千八百九十人で、これを業態によつて分類すると左表の通りである。

工場並職工数

(昭和八年三月末現在)

業種	工場				計	職工		計
	五人以上 未滿三十人	三十人以上 未滿百人	百人以上 未滿五百人	五百人以上		男	女	
総数	3	7	7	8	23	76	2,164	2,890
紡織工業	3	7	7	8	23	76	2,164	2,890
金属工業								
機械器具工業								
化学工業								
印刷製本業								
食品工業								
瓦斯電気工業								
製材及木製品工業								
計	3	7	7	8	23	76	2,164	2,890
男	3	7	7	8	23	76	2,164	2,890
女								
計	3	7	7	8	23	76	2,164	2,890

其ノ他	五	三	一	一	七	三	七
蘭、葉、製品工業	三	二	一	一	三	六	三

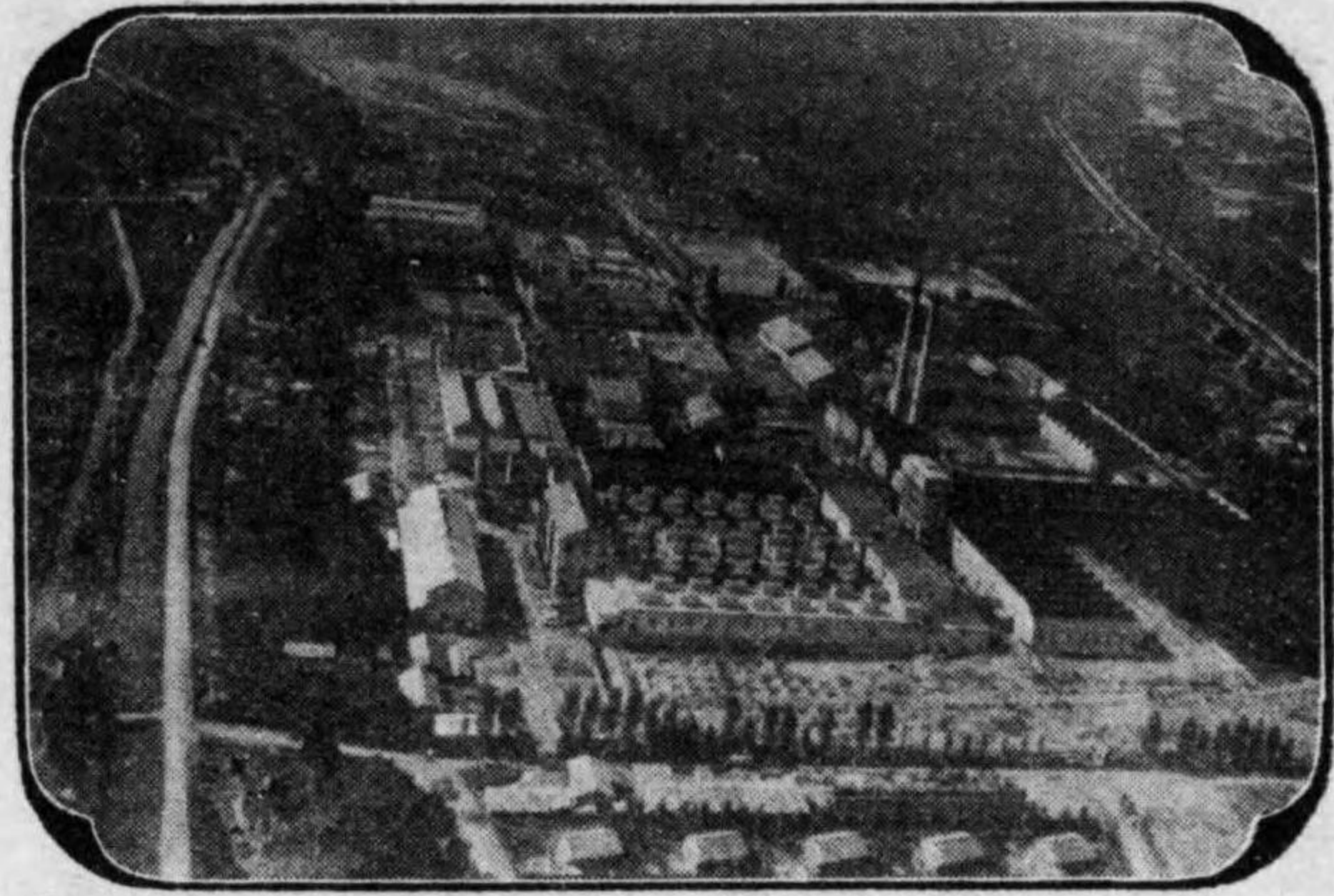
更にその主なる工場名、所在地、主なる生産品名を示せば左表の通りである。

主要工場一覽

(昭和八年三月末現在)

工場名	所在地	生産品名
倉敷紡績株式會社倉敷工場	向市場	綿糸
全 萬壽第一工場	千歳町	綿糸
全 萬壽第二工場	萬壽通	綿糸、綿布
全 本店實驗所	旭町中通	綿糸、綿布
福山撚糸紡績株式會社倉敷支店	御船町	撚糸
三宅撚糸工場	新阿知町	撚糸
惠藤織物工場	濱	帆布

石井織布工場	福井	袋地、前掛地
西藤製綿工	御船	綿炭瓦斯
倉敷瓦斯株式會社	濱	花筵加工
日本筵業株式會社加工部	西町	花筵加工
岡本上敷工	東島	花筵加工
木口上敷工	大島	花筵
秋岡花筵工	富井	花筵
近藤花筵工	吉岡	花筵
渡邊花筵製造工場	御幸	野草筵
三宅商會野草筵製造工場	西町	蠅取紙
カモキのハイトリ紙製造工場	東町	酒
森田酒造工場	福井	酒
白神酒造工場	沖	酒
日下酒造工場	旭町	桐下駄
新谷下駄工場	旭町	桐下駄



倉敷絹織倉敷工場全景

銀行名	所在地	創立年月
株式會社 中國銀行倉敷支店	本町	昭和五年十二月
株式會社 安田銀行倉敷支店	戎町	大正十年四月
株式會社 岡山合同貯蓄銀行倉敷支店	榮町	大正十五年十月
株式會社 中備銀行倉敷支店	阿知町	明治三十年四月

銀行 市内にある銀行は左の通りである。

銀行 (昭和八年三月末現在)

因に本市榮町に本店を有する倉敷絹織株式會社の倉敷工場は市外酒津に在つて、盛んに人絹の製造を營んでゐる。

日岡鐵工所 日ノ出町 機械、器具

カモキの短冊煮工場	龜山足袋工場	大久保製材所	伏見印刷所	カモキ印刷所	三宅藁繩工場	小野ステッキ製作所	岡野上敷工場	神路足袋工場	野口製作用所	片岡自動車商會	片岡荷車製造工場	杉原印刷製本工場	中國合同電氣株式會社倉敷發電所	原田工場
旭榮町	榮壽町	榮壽町	榮壽町	戎町	船倉町	旭榮町	西榮町	濱田町	御幸町	榮町	榮町	戎町	船倉町	濱田町
カモキの短冊煮	足袋	製材	印刷、製本	印刷	藁繩、野草筵	紡織機用木工品	花筵加工	足袋	荷車	自動車修繕販賣	荷車	印刷、製本	電氣	清涼飲料水

産業組合 産業組合は七、次の通りである。右の内、倉敷信用組合は市街地信用組合の認可を得てゐる。

産業組合

(昭和八年三月末現在)

組名	組合員	出資金	出資口数	拂込金	積立金	借入金	計
有限責任 新田信用販賣購買利用組合	一四一人	一八、〇〇〇	三七口	八、三六三	八、二九四	—	一六、六五七
全 倉敷信用組合	一、〇三三	二八、二〇〇	二、八二二	二八、二〇〇	九、七九七	—	三八、〇〇七
全 倉敷購買利用組合	一、三三三	五、五九六	二、七九八	五、五九六	六、九二八	三三、三五一	四四、八七五
全 信用購買販賣利用組合萬壽獎産社	一四一人	二、〇一〇	二〇三	二、〇一〇	五八三	—	二、六〇三
全 大倉信用販賣購買利用組合	二六四	九、一〇〇	九二〇	九、一〇〇	—	一五、八四〇	二五、〇四〇
保証責任 大高信用購買販賣利用組合	二二六	八、六四〇	二二六	四、五八八	七、九五三	—	一一、五四二
有限責任 富福信用販賣購買利用組合	二七五	一一、三七〇	三七四	七、二六二	一〇、〇九五	一五、〇〇〇	三三、三五七
計	三、七七一	八三、〇三六	七、七〇七	六五、二三八	四三、六五〇	六三、一九一	一七二、〇七九

市場 魚市場二、青物市場一、農産物市場一、家畜市場一。

- (1) 魚市場 株式会社倉敷魚市場は船倉町に、鴨井鮮魚部は前神町にある。
- (2) 青物市場 倉敷青果市場は新川町にある。
- (3) 農産物市場 市農會の經營で濱田町にある。
- (4) 家畜市場 倉敷定期家畜市場は川西町にある。倉敷市、都窪郡、吉備郡、兒島郡の郡市畜産組合聯合會の設立で、市日は毎月三、六の日である。

**倉敷競馬場** 老松、白樂市に跨り、倉敷驛を距る僅かに一軒(約九町)自動車を通じ、面積一一九アール(三萬六千坪)、設備完全、交通至便、關西有數の大競馬場で、春秋二季の競馬は殷盛を極める。創設は昭和四年でなほ之に漸次大競技場としての施設をも加へる計畫になつてゐる。

**特産品と倉敷名物** 特産品には綿絲、綿布、人造絹絲、花筵、疊表其他菌製品、野草筵(クレックス)、カモキのハイトリ紙、蒲鋒、清涼飲料水、薄荷、麻裏等がある。

倉敷名物には趣味の酒津燒、其樂堂の彫刻、菓子にはむらすめ、小町餅、小町の里、ぼつこう饅頭、果物には高級の桃、梨、葡萄があり、四十瀬西瓜、大高蓮根は遠近に其の名高く、カモキの短冊煮は廣く

家庭に愛用せられ、清酒萬年雪は芳醇を以て鳴つてゐる。又倉敷勞働科學研究所長暉峻博士の推奨にかゝる勞研マントウは輕便な理想的の主食代用品として全國に普及せんとしてゐる。

## 第四章 教 育

學齡兒童と就學歩合、學校幼稚園、倉敷圖書館、倉敷生徒圖書館、倉敷青年講座、倉敷實力檢定試驗、修養及教化團體、全國初等教育研究大會、倉敷市教育會

**學齡兒童と就學歩合** 近時市の發展に伴うて學齡兒童も逐年其の數を増しつゝ、あるが、學校施設の完備と學校教育助成機關の活動と相俟つて、相當の成績を擧げて居る。

學 齡 兒 童

(昭和八年四月調)

種 別	男	女	計
就學の始期に達したるもの	二、三三一	二、一〇四	四、四三五
就學の始期に達せざるもの	三、一〇〇	三、一一一	六、二一一
合 計	二、五五一	二、五二五	五、〇七六

就學歩合	尋常小學校の教科を修むるもの	一、八五〇	一、八三三	三、六八二
	尋常小學校の教科を卒へたるもの	三七七	三六四	七四一
合 計		二、二二七	二、一九六	四、四二三
九、九				

**學校幼稚園** 幼稚園三、外に保育所「若竹の園」がある(第二章一社會的施設参照)。尋常小學校三高等小學校一、公民學校二、青年訓練所一、右の内倉敷尋常小學校は三部に分れ、一二學年を新川校舎に置いて之を低學年部と稱し、又三四學年を中學年部、五六學年を高學年部と稱し、共に之を旭町校舎に置いてゐる。其の他に難波女學校、岡山縣倉敷實業學校、岡山縣倉敷商業學校、岡山縣倉敷高等女學校がある。

學校幼稚園

(昭和八年四月現在)

名 稱	設立別	位 置	學級數	保母教員 指導員數	在籍數	創 立 年 月
倉敷幼稚園	市立	砂越町	五	六	一〇	明治二十九年九月
竹中幼稚園	私立	旭町	四	四	壹	大正十一年九月
御國幼稚園	私立	阿知町	六	七	一七	昭和四年四月
倉敷尋常小學校	市立	旭町	三九	四〇	二、五九	明治二十年四月
萬壽尋常小學校	市立	濱	一八	二〇	九三	明治二十三年四月
大高尋常小學校	市立	沖	一三	一四	六五	明治二十年四月
倉敷高等小學校	市立	新川町	九	三	五七	昭和六年四月
倉敷公民學校	市立	新川町	五	五	三八	大正十一年四月
都窪實業公民學校	私立	旭町	二	五	九	大正五年九月
倉敷青年訓練所	市立	新川町	四	二	一六	大正十五年七月

岡山縣倉敷實業學校	市立	新川町	一〇	三三	三元	昭和六年四月
難波女學校	私立	旭町	四	六	一〇	大正十二年二月
岡山縣倉敷商業學校	縣立	白樂市	一五	七	七〇	明治四十五年三月
岡山縣倉敷高等女學校	縣立	旭町	一五	四	七九	明治四十年四月

右の内岡山縣倉敷實業學校は市が昭和六年四月に創立したもので、此の學校の特色は短い修業年限と僅の學費で卒業する事が出来、而も社會に出れば直ぐ商工業に従事して實際に役立つ様な學問と技術を修得させてゐる点である。即ち商業科(男女)に於ては珠算、簿記、タイプライター、各種の實習實踐等に最も力を入れ、工業科(木材工藝科、男子)に於ては一年間に數千圓の賣上が出来る程度の各種和洋家具の製作をなし、又籐工專修科(男子)では特に實習を重視し是亦一年間の賣上數千圓に達する状態である。なほ教育助成機關に關しては第二章一社會的施設を参照されたい。

**倉敷圖書館** 大正十三年六月、今上陛下御成婚記念として計畫を立て、有志釀金六千餘圓外に倉敷紡

績會社より圖書一千餘冊の委託を受けて設立したもので、現在藏書冊數雜誌を除き三千三百二十七冊。昭和七年度閱覽人員男子千百六十七人、婦人八百八十一人、兒童七百六十一人、計二千八百〇九人といふ成績を示してゐる。所在地旭町校舎内。

**倉敷生徒圖書館** 倉敷生徒圖書館は大正十一年十月三十日學制頒布五十年記念事業として創立したもので、昭和七年末の所藏冊數新聞雜誌を除きて約二千六百冊に及び、學生參考書はもとより、各部門に亘りて權威ある典籍を具備し、圖書目錄を全校生徒の家庭に配布して利用の便を圖つてゐる。

**倉敷青年講座** 本講座は倉敷商業學校が教育上の機會均等主義の下に、公民特に實業家として必要な知識技能を授くる目的を以て、昭和二年十月開設したもので、爾來毎週金曜日に開催し、聽講者は銀行會社、商店員、農工業者は勿論廣く一般市民に亘つてゐる。講師には同校教諭が社會奉仕として其の任に當り、尚ほ同校實力檢定試験制度と連絡を保ち、篤學の士の勉學に資せん事に努めつゝある。

**倉敷實力檢定試験** 倉敷商業學校は又成規の商業教育を受くる能はざる者の爲に毎年一月五月九月の三回實力檢定試験を行ひ、試験科目は國語、數學以下十三科目とし、各之を第一期、第二期、第三期に區

別し、豫め要目を掲げ参考書を定め、三期とも合格したる者には當該科目に就きては五ヶ年程度の商業學校卒業以上の學力あるものと認むる旨の檢定證書を與へて居る。この制度は大正九年から設けたもので、青年講座と相俟つて、有爲の青年の進路を開いてゐる。本檢定出身者にして銀行會社に相當の地位を占め或は中等學校の教職に在る者も相當にある。

修養及教化團體

(1) 青年團

事項	倉敷青年團	萬壽青年團	大高青年團
創立年月日	大正五年十一月三日	明治四十三年二月十一日	明治四十一年三月一日
區域	倉敷市倉敷一圓	倉敷市、濱、富久、平田、大島、福島	倉敷市、安江、沖、富井、福井、四十瀬、老松、白樂市、西中新田、笹沖、吉岡、浦田
役員	七	四一	八
贊助員	四〇	三七	五

支部數	團員數	基本財產	經費	事業概要
一六	四〇三	一、〇〇〇圓	四五〇圓	倉敷圖書館經營 武道練習 公民講座 入退營兵士報告祭 體育會
一五	二五〇	六〇〇圓	二〇〇圓	通俗圖書館經營 巡回文庫經營 見學旅行 活動寫真會 入營者送別會 體育會、 水消防、
一六	三〇〇	九〇〇圓	四七〇圓	辯論會、講習會、團誌發行 見學旅行、文庫經營 青訓實補助、席獎勵 通俗講演會、體育會 水消防、敬老會

なほ別に倉敷市聯合青年團があつて右の各團を統制してゐる。

(2) 女子青年團

事項	倉敷女子青年團	萬壽女子青年團	大高女子青年團
區域	倉敷市倉敷一圓	倉敷市、濱、富久、平田、大島、福島	倉敷市、安江、沖、富井、福井、四十瀬、老松、白樂市、西中新田、笹沖、吉岡、浦田



事業概要	經費	團員數	支部數	贊助員	役員
講演會、講習會、見學旅行、敬老會、廻送文庫、兒童健康相談手傳	二〇〇圓	四二五	一四	〇	七
通俗講演會、講習會、他郡市優良團視察、團員旅行、生活改善、體育會	五〇圓	二〇〇	一二	一九	四八
講習會、他郡市優良團視察、會員相互修養會、農繁托兒所ノ手傳、文集編纂、敬老會	五〇圓	二〇七	一五	三	三四

なほ別に倉敷市聯合女子青年團があつて右の各團を統制してゐる。

(3) 婦人會

倉敷婦人會	萬壽婦人會	大高婦人會
-------	-------	-------

創立年月	區域	役員	會員數	經費	事業概要
明治三十六年四月	倉敷市倉敷一圓	一七	四〇〇	二〇〇圓	講演會、講習會、見學旅行、生活改善、老人慰藉、兒童愛護
大正十二年四月	倉敷市、濱、富久、平田、大島、福島	五〇	三二〇	三〇〇圓	講演會、家事講習會、活動寫眞、團体旅行、敬老會、健康兒診斷及表彰、パンフレット發行
昭和四年十月六日	倉敷市、安江、沖、富井、福井、四、十瀬、老松、白樂市、西中新田、笹沖、吉岡、浦田	七〇	七〇〇	二一六圓	講演會、敬老會、兒童養護、講習會、見學旅行

なほ別に倉敷市聯合婦人會がある。

(4) 特殊團體

右は一般的な団体であるが、なほ外に、倉敷さつき會、倉敷文化協會をはじめ、十有餘の特殊團體がある。

全國初等教育研究大會

これは倉敷尋常高等小學校年中行事の一である。

學習研究と國民的人格教育とを以てその名を全國に知られたる倉敷小學校は、旭町校舎及び新川校舎を有し、學級數四十餘、兒童數二千、教員數四十餘、特別教室七（講堂、唱歌及圖畫、理科、理科準備室、工業及家事、裁縫室、兒童室、體育館）特別設備五（奉安所、圖書館、學習動物園、學習植物園、溫室）經費年額參萬數千圓、縣下有數の學校である。

倉敷小學校はその施設を學的根據のもとに經營せんがため、兒童教育研究會を設け、全國的權威ある學者を顧問として不斷の研究を爲し、而して之が事業の一として屢次教育研究大會を開催してゐる。

- 第一回 大正十一年十一月 二五〇名 (岡山 縣)
- 第二回 全 十二年六月 三七〇名 (岡山、廣島、香川)
- 第三回 全 十三年十一月 一、二二三名 (三十三府縣)
- 第四回 全 十四年十一月 一、三〇〇名 (三十五府縣)
- 第五回 全 十五年十一月 定員一、〇〇〇名 (二十八府縣)
- 第六回 昭和二年十月 定員 一五〇名 (三十府縣)

- 第七回 全 四年十月
- 第八回 全 六年十一月
- 第九回 全 八年十一月

- 一、〇三八名 (二道二府二十四縣)
- 四五〇名 (岡山、廣島、山口、香川、兵庫、鳥取、島根)
- 九〇六名 (二府二十一縣朝鮮)

右の内第三、四、五、七、九回は全國初等教育研究大會、第六回は全國小都邑學校經營研究會、第八回は道徳教育研究會である。

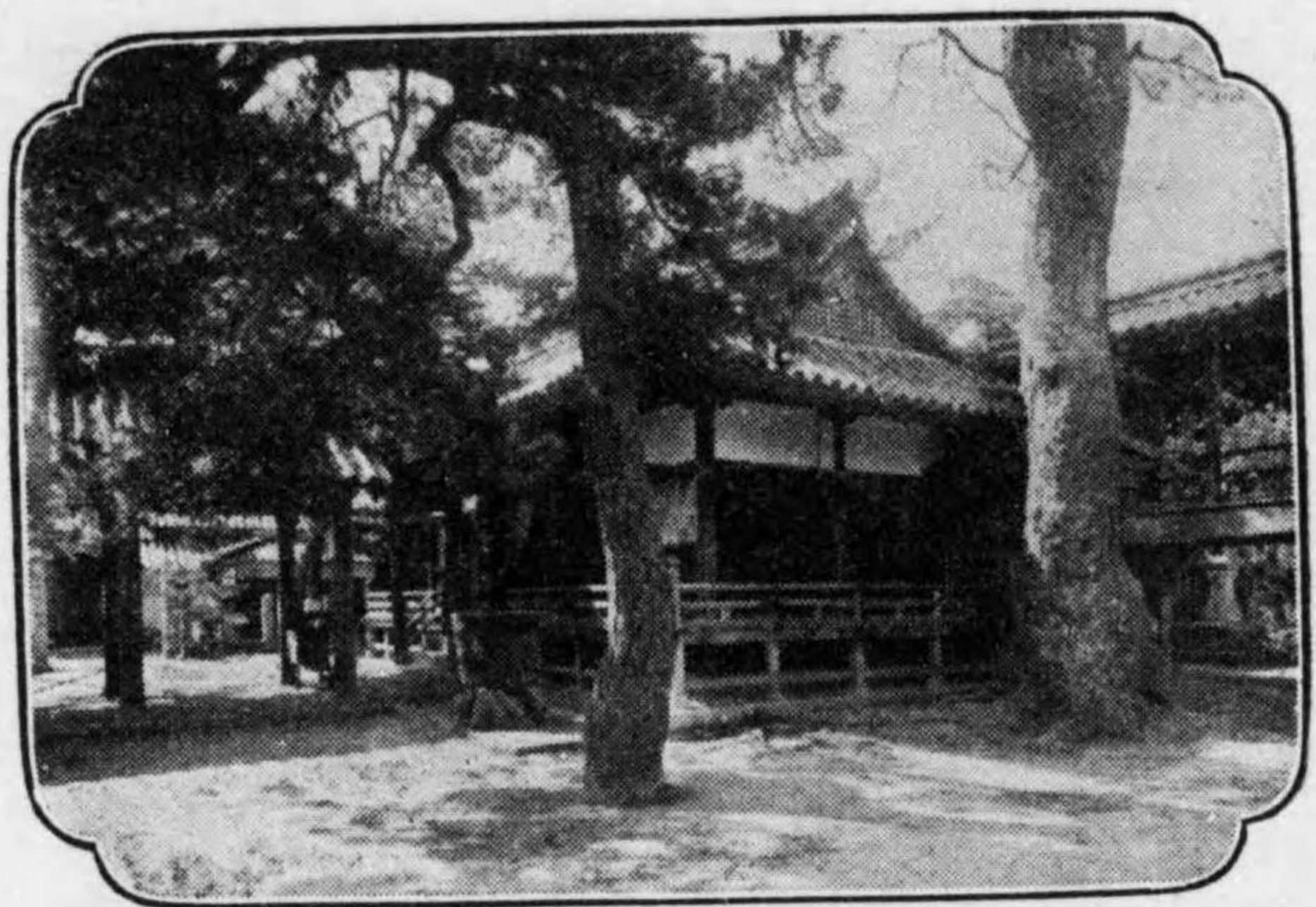
**倉敷市教育會**

市内各小學校教育關係者を以て組織し、事務所は倉敷小學校旭町校舎内に在る。

### 第五章 社寺宗教

倉敷市には神社が十九、寺院が十四、教會在十四ある。今之を表に示せば次の如くである。

種別	神社		寺院		教會
	縣	郷	天台宗	眞言宗	
村	一	一	二	六	二
社	七	七	二	一	六
無格社	一〇	一〇	一	二	一
計	一九	一九	一四	一四	一四



縣社高足神社

#### 一 神社

縣社足高神社、郷社阿智神社、村社

#### 縣社足高神社

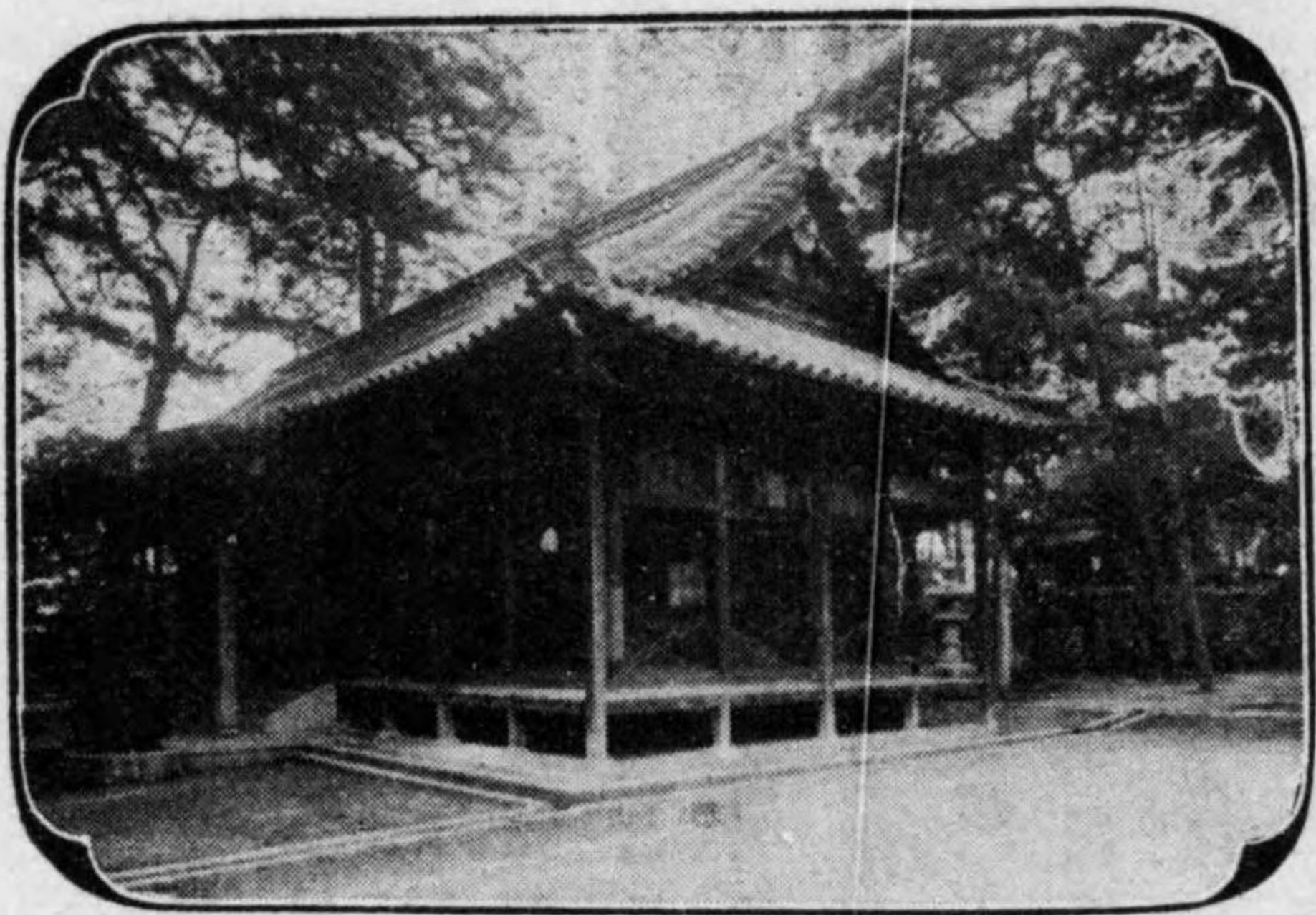
笹沖の足高山に鎮座、祭神は大山津見命で、石長比賣命木之花佐久夜比賣命を配祀してある。創立年代は詳でないが、崇神天皇の御代の勸請と言傳へ、延喜の制式内小社に列せられ、備中國十八社の一の古社である。一名を帆下げの宮と呼ぶ。神寶に獅子頭一對、高麗犬一對があつて、獅子頭は花園天皇の奉納とも村上彦四郎義光の奉納とも傳へられてゐるが、星霜を経て酷く破損し、今は一對の半面があるばかりで、寛永八年新一對を購入した。高麗犬は延元年中村上彦四郎義光が義兵を募りにこの地方に來た時、笹沖の海上で颯風に會ひ、神明に祈つて忽ち風波靜まり、上陸募兵を終へて奉獻し

たともいひ、建徳年中今川貞世（了俊）が九州下向のとき戦捷を祈り、歸途報賽のため奉納したとも言傳へられる。

村上天皇の御宇天曆元年二月十六日奉幣使藤原兼成卿參向あり、翌二年天皇不思議の御靈驗御感あらせられ神殿御造營、御有紋の御幕勅書等御奉納になつた。舊幕時代には領主鴨方池田家の祈願所で、相續の時には必ず參詣あり、明治三年には有紋の幕一張を奉納せられた。

社側に天保十五年建設當社由緒の碑がある。篆額は野之口隆正の題で神代文字で「アシダカノカミノヤシロ」と書き、文は平賀元義の撰で掛くるに長歌一章を以てした珍しいものである。（書は播磨の人赤松義）この地昔は海島であつたが、今は田疇の間に立ち、社殿宏壯、本殿、釣殿、幣殿、拜殿、神饌殿、本廊下、西廊下、教殿（繪馬殿）、社務所、假屋、神庫等があつて、頗る風致に富み、境内千三十坪、四周の山林二町九段一畝二十七歩も亦神域に編入せられてゐる。

境内末社四社、須佐之男神社、意富加牟豆美神社、稻荷神社、石上神社。



郷社阿智神社

**郷社阿智神社** 市街の中央鶴形山に鎮座。祭神は多紀理毘賣命、市杵島比賣命、多岐都比賣命即ち宗像の三神で相殿に應神天皇を奉祀してある。なほ明治四十三年六月七日倉敷町所在の諸神社（十二社）をすべてこゝに合祀した。當社の由來を案ずるに、昔神功皇后三韓征伐の時、此の海面を御渡航の際、暗夜にて水尾筋不分明の折柄、皇后宗像の神を御祈願あらせられ御感應にや三振の劔天下り海上光り輝き、御船は恙なく水島へ向けて御下りになつた。これ即ち明劔のこの山に留りたまうたいはれであつて宗像三女神三休明劔と崇め氏神として齋き祀つたと言傳へられる。天曆年間正三位下參議兼備中權守小野好古備中征伐の節參拜あり、その頃より山の名を笹岳山又は龜山ともいつた。寛永の頃神佛混淆して一時宮を妙見宮、山を妙見山

といつたが、維新の際神佛引分となつて、神社の方は、往古この地方を阿知の里と稱したところから阿智神社と改稱した。又山の名はその後鶴形山と改稱した。これより先小堀遠江守政一支配の節殊に崇敬あり元祿五年久世大和守支配中始めて御神幸の神事あり、代々の代官尊敬厚く、寛政二年には代官菅谷長昌、同四年には代官野口直方、同十三年には代官拓植竹苞三代相次いで石燈籠を奉獻し、天保七年には代官古橋忠良並屬吏より、明治二年には倉敷縣知事小原與市並屬吏より各石燈籠一對を奉獻した。

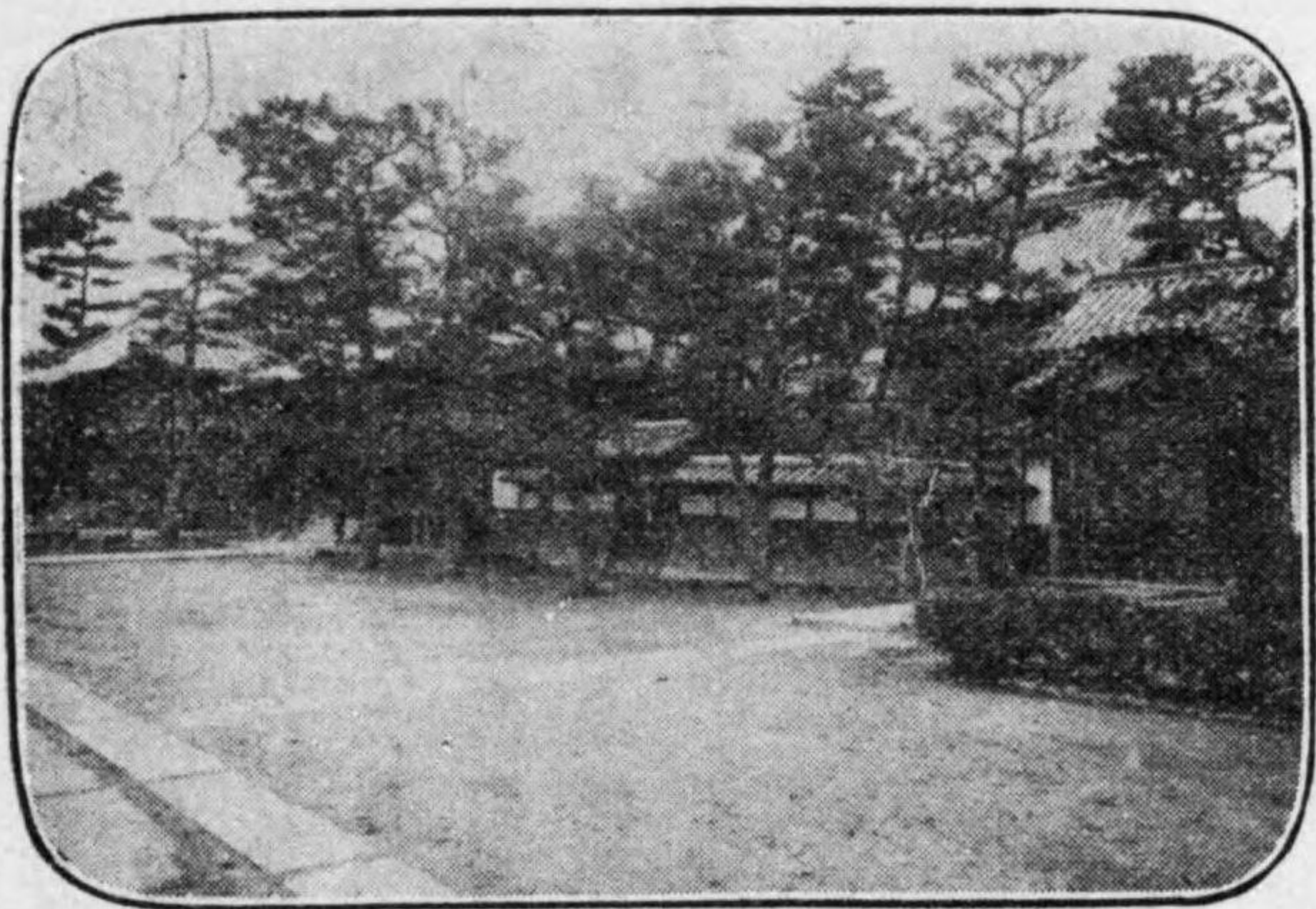
社殿は文祿、元和、寛永、天和、元祿、寛延、安永、寛政、天保、明治、と度々の造營修覆に成つたもので、本殿、中門、幣殿、祭文殿、釣殿、拜殿、神饌所、社務所、潔齋所、神符授與所、舞殿、繪馬殿、隨神門、神輿庫、神庫等があり、境内末社に菅原神社、荒神社がある。正面の南參道は寛政年間の造營で石階百數十段の内、下の八十一段、上の五十九段は全部一枚石を用ひた堂々たるものであつて他にあまりその比を見ない。境内八百八十一坪老杉古松神韻を奏で、四望廣潤、外圍は即ち鶴形山公園である。

村 社 村社すべて七、左の如くである。

- (1) 春日神社 濱にある。祭神は經津主神、武甕槌神、天兒屋根命、比賣大神、即ち春日四神。

- (2) 春日神社 一に山王春日神社といふ。富久にある。祭神は大山津見命並に春日四神。  
 (3) 御崎神社 富久にある。祭神は吉備津彦命。  
 (4) 三社宮 富久にある。祭神不詳。  
 (5) 熊野神社 福島にある。舊時十二社權現といふ。祭神は天照大神外十二神。  
 (6) 御前神社 安江にある。祭神は吉備津彦命。  
 (7) 八幡神社 老松にある。祭神は應神天皇。

外に境外無格社が十社ある。



寶壽山觀龍寺

## 二 寺 院

一一四

大樂院、觀龍寺、地藏院、青蓮院、  
圓福寺、善福寺、誓願寺、法然寺、  
長蓮寺、教善寺、本榮寺、其他

**大樂院** 大樂院は富久にある。天台自門派。本尊藥師如來  
聖護院流の山伏寺である。

**觀龍寺** 寶壽山觀龍寺は本町にある。真言宗古義派。本尊  
大日如來。寛和元年堯勢律師開基。文祿三年十六世杲義現在の  
地に規模を定め、延享元年焼失、寛延二年再建。初め北斗山寶  
城院と稱したが、二十一世兆譽の時寶壽山觀龍寺と改めた。境  
内に大師堂、位牌堂、妙見堂、鎮守堂等がある。

**地藏院** 青龍山井上寺地藏院は阿知町にある。真言宗古義

派。本尊地藏菩薩。もと足高神社別當寺の一であつたが、天正十三年開基勢海法印が日吉の新開地に移し  
貞享年中秀巖法印が更に今の所に移した。後備前侯池田繼政の尊信を得て、八間四面棟造の本堂、大師堂  
庫裡、鐘樓門、客殿等を寄附されたが、明治二年本堂焼失、今の本堂は明治四十四年廢寺玉泉寺の堂宇を  
移して建てたものである。私立御國幼稚園は此處に在る。

**青蓮院** 摩尼山西方寺青蓮院は白樂市にある。真言宗古義派。本尊阿彌陀如來。もと足高神社別當  
寺の一で、安樂坊といつたが、寛文中今の所に移つて改稱したものである。

**圓福寺** 壽量山圓福寺は沖にある。真言宗古義派。本尊阿彌陀如來。天文五年宥譽阿遮梨の中興開  
山である。

**善福寺** 龍王山善福寺は四十瀬にある。真言宗古義派。本尊阿彌陀如來。もと山手村の平山にあつ  
たが、いつの頃かこゝに移したものである。

**誓願寺** 佛光山成親院誓願寺は本町にある。淨土宗鎮西派。本尊阿彌陀如來。應永三十一年善慶上  
人の開基で、元和年中策傳上人廢を興し、尊譽上人その緒をついで中興した。境内觀音堂には新大納言成

親の守本尊であつた十一面觀世音菩薩を安置し、鎮守堂には天滿天神を祀つてある。

**法然寺** 無量山法然寺は濱にある。淨土宗鎮西派。本尊阿彌陀如來。開山不詳、古老の口碑には法然上人が讃岐國に遊化の時、たま／＼錫をこゝに留められたので寺號としたといふ。天正十二年念譽理廓上人の中興ともいひ、或は誓願寺策傳の建立ともいふ。

**長蓮寺** 五台山長蓮寺は船倉町にある。曹洞宗。本尊釋迦如來。境内に觀音堂がある、天正中毛利元就創建、文祿年中焼失、寶曆十二年、時の代官淺井作右衛門道尹倉敷へ移轉再興、爾來世々代官の菩提所となつてゐた。現に代官井に屬吏の墓が數十基ある。

**教善寺** 清江山教善寺は船倉町にある。眞宗本願寺派。本尊阿彌陀佛。延德二年六月創建、或は明應元年ともいふ。開基教圓俗稱千葉左衛門督忠氏。初め向山の頂、愛宕にあつて金光堂と號し、後山麓向市場に移つて南の坊と呼ばれ、寛永年中中興して教善寺と改めた。寶曆年中焼失、安永七年今の所に再建した。

境内楓林中に節齊森田翁招魂碑、森田阿孟の墓があり、寺のすぐ上に遠州井がある。

**本榮寺** 長興山本榮寺は弓場にある。日蓮宗。本尊首題寶塔。元弘年中大覺大僧正足高山の寺谷に妙法山蓮華寺を建て、寛永二年に至り、日受上人倉敷に移轉し、長興山本榮寺と改め、法兄日悟上人を以て開山とした。鎮守堂には清正公が祀つてある。

境内墓地には岡雲臥をはじめ、鶴汀延年等岡氏一門の墓がある。

**其他** 倉敷の來迎院（眞言宗）、華藏院（天台宗）、濱の教西寺（眞宗）の三寺は目下無住の状態にある。

三 教 會

神道教會、佛教教會、基督教會

教會の數すべて十四、これを大別すれば神道教會十、佛教教會一、基督教會三である。

神 道 教 會

- (1) 黒住教倉敷教會所 新川町にある。教徒七五、信徒二、〇五五。
- (2) 同倉敷市萬壽教會所 濱にある。教徒三四、信徒一九九。
- (3) 金光教倉敷教會所 若松町にある。教徒五七、信徒二二四。
- (4) 同倉敷東小教會所 旭町にある。教徒二三、信徒三〇五。
- (5) 天理教岡山分教會倉敷市支教會 西大町にある。教徒二三、信徒二、六七九。
- (6) 同 同分教會倉敷宣教所 新阿知町にある。教徒二〇、信徒一九〇。
- (7) 同芦津大教會笠岡分教會玉島支教會窪屋宣教所 濱にある。教徒五六、信徒八九二。

- (8) 同 同支教會鶴形山宣教所 旭町にある。教徒四、信徒二八一。
- (9) 同 同支教會都倉宣教所 戎町にある。教徒六、信徒三七八。
- (10) 同敷島大教會聖蹟分教會菅生支教會菅倉宣教所 船倉にある。教徒二三、信徒三二一。

佛 教 教 會

- (1) 高野山大師教會倉敷支部 本町觀龍寺内にある。教徒三、〇七一、信徒四四。

基 督 教 會

- (1) 日本組合基督教會倉敷基督教會 旭町にある。信徒五九三。この教會内に私立竹中幼稚園がある。
- (2) 基督教救世軍倉敷小隊 濱にある。信徒一一一。
- (3) 倉敷天主教會 濱にある。信徒一二五。

(昭和八年十二月末調)



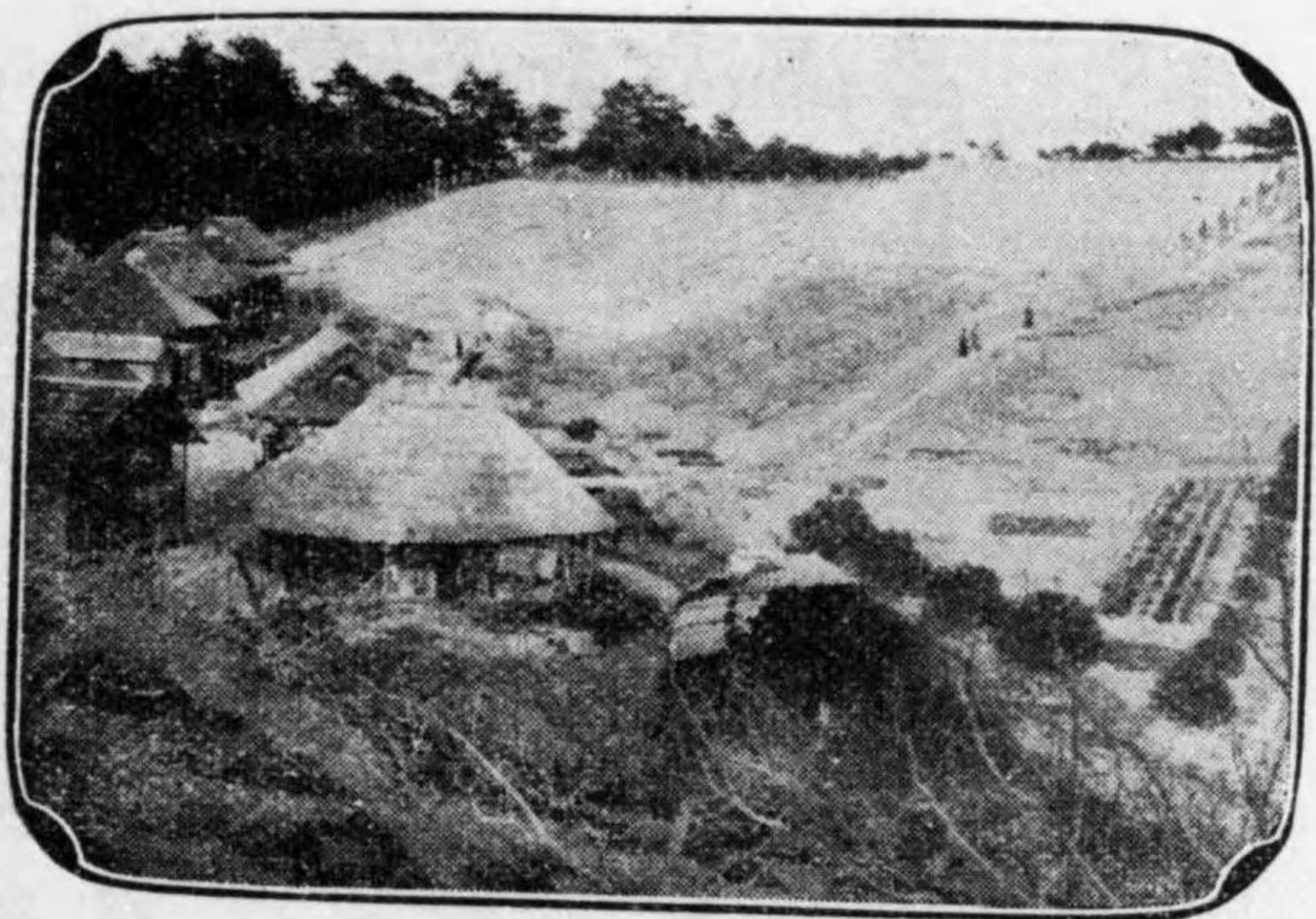
## 第六章 名勝舊蹟

### 一名 勝

新溪園、鶴形山公園、向山公園、樂山園  
鶴形山隧道、今橋、阿知の松

新溪園、鶴形山公園、向山公園の三つは第二章に掲げたから、こゝには略する。

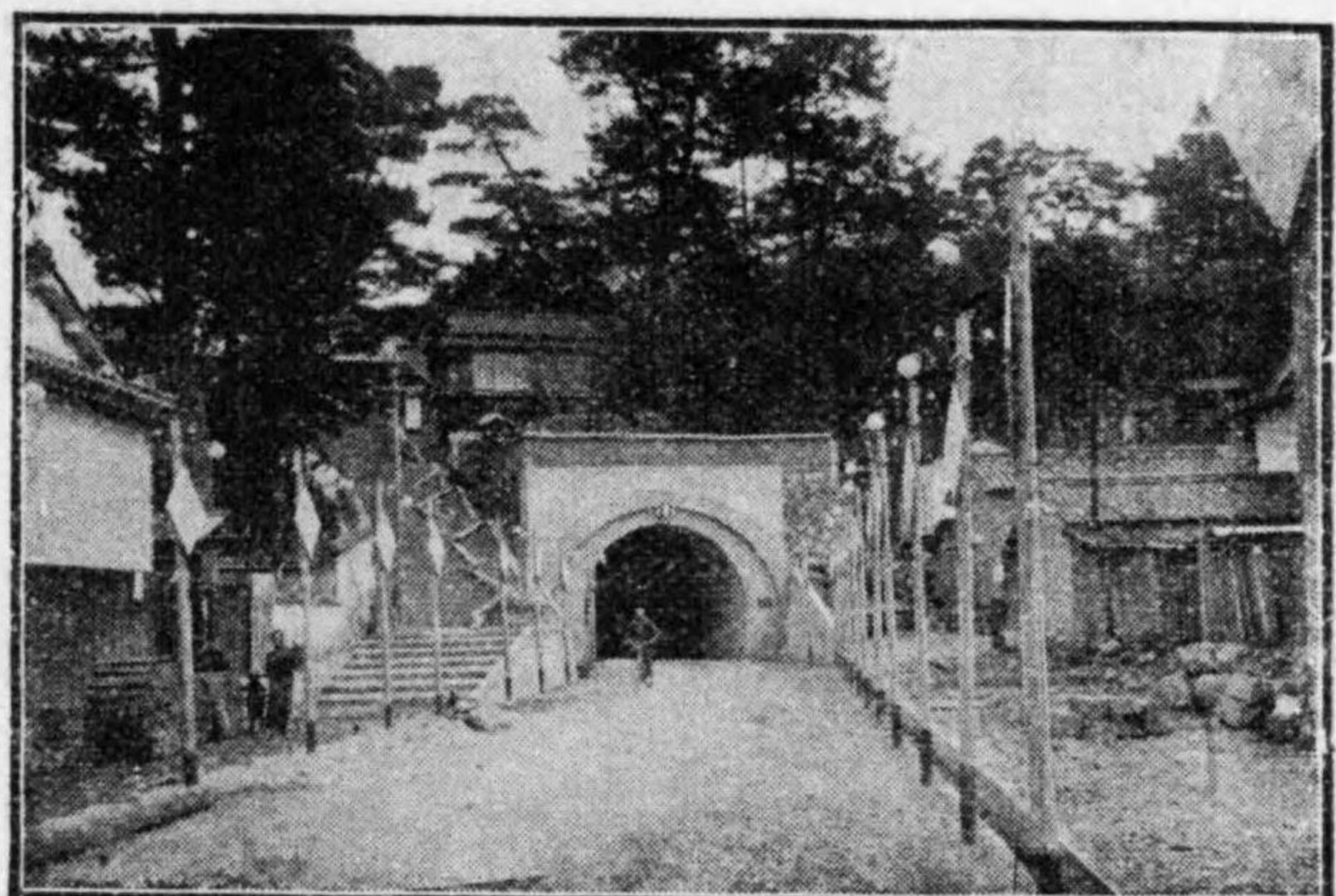
**樂山園** 向山の頂にある。大正二年に大原孫三郎氏が果樹園藝界の泰斗小山益太翁を聘して開いた理想的の高級果樹園で面積約四ヘクタール（四町餘歩）果樹數千本、ことごとく内外の最良種を蒐め、改良に改良を加へたもので、桃では白桃、梨では二十世紀、晩三吉、西洋梨ドアイアンス、デユ、コニス、葡萄では温室葡萄各種を主とし、その外最近米國より取寄せた



プラムコット等もあり、品質の優良に於ては容易に他の追隨を許さぬものがある、中にも温室葡萄、西洋梨はしばし宮内省へ献納された。

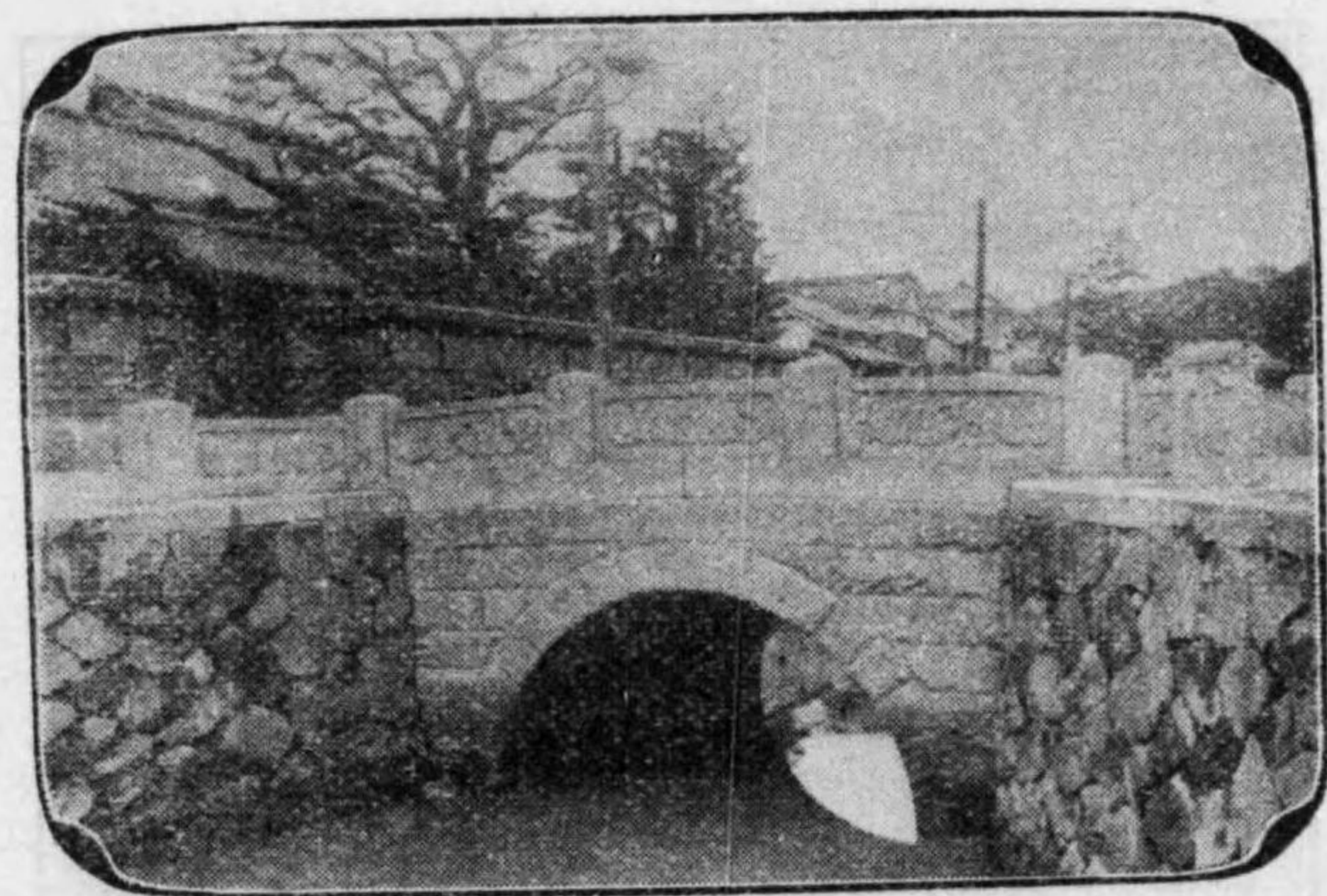
大正十三年に小山翁はこゝで歿せられたが翁の功績を記念せんがため従來の園名名山果樹園を改め、翁の雅號樂山に因んで樂山園と名づけた。なほ岡山縣果物同業組合の手でこゝに翁の銅像が建設されることになつてゐる。

園の頂上、標高百メートルの三角標を中心に、廣い平坦部があつて、こゝは四顧眺望何等目を遮るもの、ない理想的の展望臺ともいふべく、南は藤戸の古戰場脚下に展開し、兒島の連峯起伏せる間に瀬戸内海、四國の遠山隠見し、西は近くは足高山、太田山の小丘阜恰も盆景の如く、遠くは遙照山等吉備の名山を望み、東は眼界最も廣く、岡山平野は一幅の地圖を擴げたるが如く、道路橋梁邑里一々指點すべく、丘陵其の間に點在して、一段の趣致を添へ、兒島灣また一眸の中にあり。小豆島及び東備の遠山淡くその後をめぐり、風景の美實にいふべからざるものがある。園内の桃梨艶を競へる陽春の候美艷累々たる秋晴の節、最も登臨に適する。こゝから東へ峯を越せばすぐ小野小町姿見の井戸から日間薬師へ出られる。



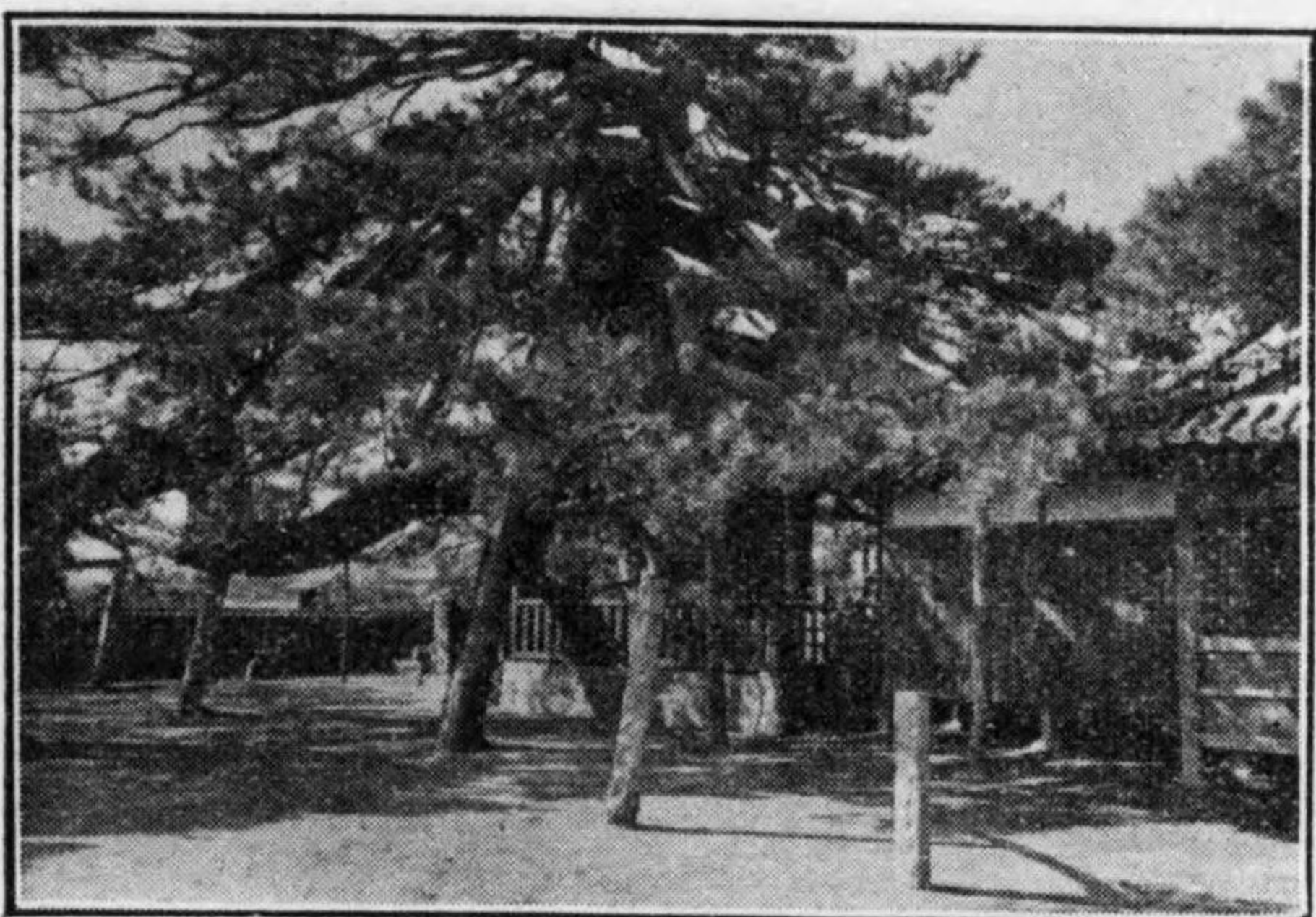
鶴形山隧道

鶴形山隧道 大正十五年五月鶴駕行啓記念事業の一であつて、山南の舊市街と山北の新市街とを連絡せしめ、市の發展に重大な寄與をなすもので、昭和二年三月起工、同年十一月竣工連絡道路を合せて総延長約四二二米六（二百三十一間九分）幅員七米（三間八分五厘）内隧道延長約一〇五米四（五十八間）幅員約四米七（二間六分）隧道内部はすべて混凝土卷の瀟洒たる構造で、晝夜点燈の設備を施し、総工費七萬壹千八拾壹圓、内五萬參百八拾壹圓は寄附に依つたものである。南口洞門は本町の中央に面し、北口洞門を出づれば即ち旭町である。南北の洞門また現代式な意匠に成り、市の一美觀たるを失はぬ。夏季は南口洞門から本町までの間に夜店を張つて納涼の客を呼んでゐる。



今橋

今橋 鶴形山トンネルを出て本町を横ぎり、真直に南に進めば、直に今橋に達する。今橋は昔から倉敷名所の一つであつたが、近時橋臺の一部にくるひを生じ改築を要するに至つた時恰も鶴駕奉迎を目前にひかへてゐたので、大原孫三郎氏が篤志で引請け、設計圖案および彫刻模型は故畫伯兒島虎次郎氏および東京美術學校彫刻科出身兒島矩一氏、倉敷紡績株式會社技師村木卓郎の三氏に囑託し、大原氏自ら工を督して日數四十、役夫二千八百餘、工費壹萬六千餘圓で改造した鐵筋混凝土拱橋で、花崗石の装工を施し、高欄彫刻の群龍は悉く仰いで鶴駕を迎へ、齊しく聖代を頌するの狀があつて市の一偉觀である。大正十五年五月竣工。



阿知ノ老松

**阿知の松** 老松の村社八幡神社の境内にある。幹の周り四米半、高さ十五米、枝葉東西四十五米、南北五十五米以上いづれも支柱で支へてある。樹下に千種有功卿の歌碑がある。老松の地名もこの松から起つたのである。

此の里もかくこそあれとこととはに

立ち榮えゆく阿知の松が枝

當市小野丈平氏所藏の文化十五年刻阿知松圖の版本に、「高さ九間、東西十五間、南北二十一間餘、云々」とある。その文化十五年は今から既に百十六年の昔に當る。

二 舊 蹟

皇太后宮、寺谷、城山、遠州井、代官の墓、岡雲臥岡鶴汀、岡延年の墓、鐘撞堂、其他

**皇太后宮** 大字平田の内、菅生村界に幸田コウダといふ古地がある。この地は舊名を皇太后宮（コウダイコクと訓む）といひ、往古皇太后宮の職地の舊蹟である。

**寺 谷** 足高山足高神社の裏手に寺谷といふ所がある。こゝは昔足高神社の別當寺のあつたところで今なほ礎石なぎが片々残つてゐる。別當寺のことは足高神社の條に記して置いた。

**城 山** 鶴形山と向山と相對するところ、向山寄りに小字城山といふところがある。小野庄五郎景盛の屋敷跡で、小堀遠江守が、こゝに屋敷を建て、後代官の陣屋を置かれたが、慶應二年四月十日の曉天に幕府征長の餘波として、浪士の焼討にあひ、焦土となつた。由來こゝは小丘阜であつたが、倉敷紡績株式會社が工場を此所に建て、山を夷げ堀を埋め、今は全く昔時の佛を見ることは出来なくなつた。

**遠州井** 船倉の教善寺のすぐ上にあつて、俗に「シロウト川」といふ、白糸泉の意であらう。その

水軽く淡く小堀遠州が釜の水に愛用したものだと言傳へてゐる。

此山は水を六月の花と見ん

舍 羅

茶にやつす袂もあさし山清水

支 考

元治元年林孚一、和栗淵等改修し、碑を側に立て、時の代官櫻井氏に揮毫を請ひ「遠州井」の三大字を刻した。

**代官の墓**

長蓮寺は寶曆十二年雪峯禪師再興以後代官并に屬吏の菩提所となり、現に數十基の墓がある中に、この地で死んだ代官花木傳次郎政等（大慈院徳運壽仙大居士）萬年七郎右衛門頼行（頼仙院行眼大勇居士）大草太郎右馬政郷（孝徳院殿天澤良榮居士）古橋新左衛門忠良（泰興院覺翁榮繁勢隆居士）田中庄次郎時懋（時懋院殿日惠宗壽居士）等數氏の墓がある。

**岡雲臥、岡鶴汀、岡延年の墓**

本榮寺の庫裡の右、一段高い清正堂との間の石段を上りつめた右の段に鶴汀（高翔院鶴汀日鶴墓）およびこれと斜に相對して、延年（養霞院仙孺日僊居士）の墓があり、それよりや、下の段に雲臥の墓（九畹岡先生墓）がある。雲臥のことは前に記したからこゝには省く。鶴汀

延年は兄弟で、兄は詩名最も高く、弟は畫を能くし、共に孝を以て官に賞せられた。その外、岡氏の一門にはなほ知名の士が多い。

**鐘撞堂**

本町觀龍寺の東隣にある。寛保二年即ち今（昭和九年）から百九十二年前の創建であるが現在の堂は大原孝四郎氏が新に時鐘を鑄鐘樓を建て、明治三十八年に寄附したもので、市の管理に屬し、晝夜報時を怠らない。

**其**

**他**

右の外、附近の舊蹟で、内務省から史蹟名勝天然記念物に指定されたものに、三須村大字上林字皇塚の備中國分尼寺趾、同村大字三須字作山の作山古墳、加茂村大字新庄下字造山の造山古墳等がある。

### 三 附近の名所

不洗観音、日間山法輪寺、安養寺の國寶、西岡山御野立所  
垂乳根の櫻、連島の潮干狩、霞橋、酒津遊園地

**不洗観音** 安産の靈驗著しく、懐胎すれば安産の御守を戴き、安産の後その御守を返納するが例で、年中賽客絶えず、御守は内地はいふに及ばず、臺灣、朝鮮、滿洲、アメリカまでも弘まつてゐる。所在地は豊洲村大字中帶江で市の東約一里、驛から常に自動車の便がある。その北は即ち帶江銅山。

**日間山法輪寺** 向山の東側は即ち帶江の日間山ヒルヤマで、名刹法輪寺があり、日間薬師、日間の櫻、日間の紅葉、小野小町姿見の井戸は古來有名である。姿見の井戸から、西へ峯を越せば、すぐ樂山園に出る。

**安養寺の國寶** 市の北一里、淺原山に安養寺の古刹がある。境内に毘沙門堂があつて昔は百八体の木像があつたが、今は四十六体と脇立二体とだけになつた。その中で、本尊木造毘沙門天立像一体、脇立木造吉祥天立像一体は國寶になつてゐる。

**西岡山御野立所** 市の北郊西岡に 明治天皇御野立所の跡がある。明治四十三年の大演習第一日に倉



酒 津 ノ 櫻

敷驛からこゝに向はせられ、東西兩軍の遭遇戦を御統監遊ばされた所である。

**垂乳根の櫻** 市の西北一里半、伯備線清音驛の附近清音村輕部神社の境内に名木垂乳根クラチネの櫻がある。樹幹の周り八尺、無数の枝を垂れた大枝垂櫻で開花時の風情例ふるに物なく、遠近杖を曳くものが絶えない。

**連島の潮干狩** 連島沖海岸は縣下第一の潮干狩の好適地で蛤、しゃく、蟹等の獲物がある。西南約十軒（二里半）自動車の便がある。

**霞 橋** 中國第一の長橋、長さ六一六米（三百三十九間二分）有効幅員六米三六（三間半）工費四拾八萬九千圓、大正十五年十一月起工、昭和三年七月開通の最新式鐵橋である。高

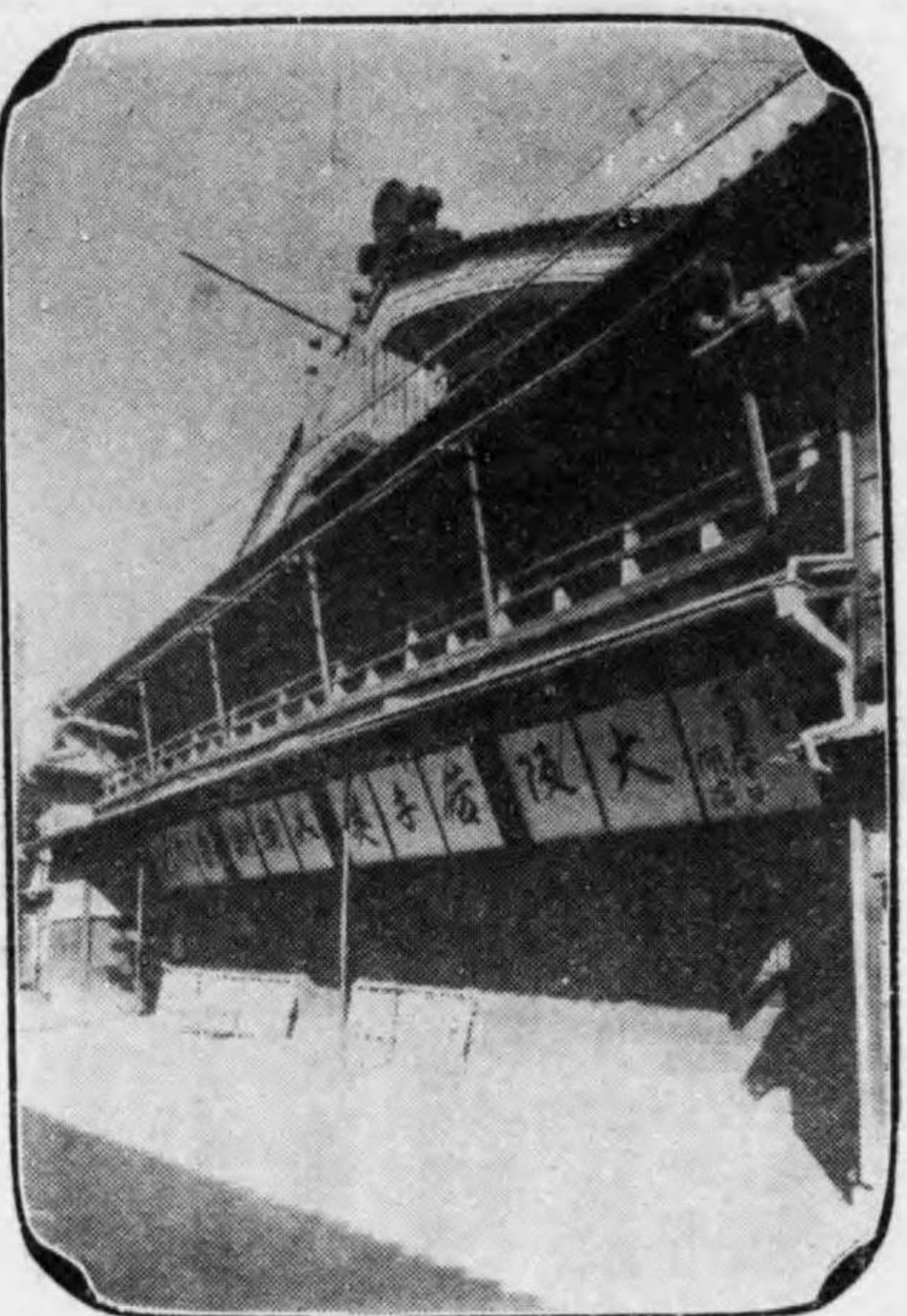
梁川の河口から約三軒餘(三十町)の地點にあつて連島、玉島を結ぶ。附近にゴルフ場がある。

**酒津水門** 後に青江山を負ひ、前は高梁川の清流甲兜山を繞り、風光明媚、高梁川東西用水の雄大なる水門をひかへ、満堤櫻樹數百株、春は花見、夏は納涼舟遊の絶好地である。なほ甲兜山の麓に酒津燒の窯元がある。

### 第七章 娛樂慰安

劇場、活動寫眞常設館、撞球場と麻雀俱樂部  
カフェーと喫茶店、遊廊と檢番、料亭と旅館

新興都市にふさはしい四劇場、二活動寫眞常設館があつて、これら同業者は倉敷睦會を組織して相互の親睦と研究を怠らず、常に斯界の隆盛と向上とを期して居り、その不斷の努力は當市娛樂の中心として殷賑をきはめてゐる。其他



倉敷劇場

撞球場、麻雀俱樂部、カフェー、喫茶店、遊廊、檢番、料亭、旅館等いづれも盛んに客を呼んでゐる。  
**劇場** 四劇場各独自の長所を持つてゐる。

(1) **倉敷劇場** 向市場にある。規模も設備も優れてゐる。



阿 知 館

一三二

(2) 壽座 日の出町にある。

(3) 新開座 昭和五年二月に蓋をあげた新劇場で安江八王寺にある。

(4) 辰巳劇場 川西町にある。昭和七年八月新築。

**活動寫真常設館** 新時代の寵兒として生れた兩寫真館は相提携して大衆キネマファンのため層一層の飛躍を期し、最新優秀映畫の上場に努めてゐる。

(1) 阿知館(日活系) 榮町にあつて驛から僅に百數十メートル。昭和二年八月開館、最新最善の設計に成り、建築様式は明るい氣持の壯麗なもので、關西の斯界に誇るべきものだといはれ、上場の優秀映畫と相俟つて觀客に十分の満足と與へてゐる。



千 秋 座

(2) 千秋座 新阿知町にあつて當市での最も古い誇を持つてゐる。

**撞球場と麻雀俱樂部** 撞球場現在數四。麻雀俱樂部はその最盛時には二十有餘に及んだが現在では減じて五となつた。

**カフェーと喫茶店** カフェーは現代の趨勢と慾求によつて近年夥しく生れ、全市に散在する。現在數カフェー二十五、喫茶店二。

**遊廓と檢番**

(1) 遊廓 川西町地内をその區域とする。青樓こゝに軒を並べ妓女百餘名。好況時には其數遙に増加し往來の旅人また樓門

一三三

をくゞり絃歌紅燈にさんざめく。

(2) 檢番 舊倉敷町當時は倉敷舊檢番と同盟檢番とが永らく併立して居たが、昭和二年三月一日有力者數氏の斡旋で圓滿合併し、現在の株式會社倉敷檢番を設立、經營方針を改善し、逐日隆盛に赴いてゐる。檢番に擁する多數の紅裙は楚々媚妍、歡樂境を華やかに彩る。

**料亭と旅館** 市の發展膨脹に伴ひ逐年其數を加へてゐる。現在數、料亭四十二(内旅館兼業七)旅館十五。

—(を は り)—



昭和九年三月二十五日印刷  
昭和九年三月三十一日發行

編輯兼 倉敷市役所

代表者 平松俊太郎

倉敷市倉敷二一〇番地

印刷者 杉原善三郎

倉敷市倉敷七三四番地

— 刷印原杉・市敷倉 —

- |               |               |
|---------------|---------------|
| ① 倉敷市役所       | ① 倉敷市役所       |
| ② 倉敷市立第一小學校   | ② 倉敷市立第一小學校   |
| ③ 倉敷市立第二小學校   | ③ 倉敷市立第二小學校   |
| ④ 倉敷市立第三小學校   | ④ 倉敷市立第三小學校   |
| ⑤ 倉敷市立第四小學校   | ⑤ 倉敷市立第四小學校   |
| ⑥ 倉敷市立第五小學校   | ⑥ 倉敷市立第五小學校   |
| ⑦ 倉敷市立第六小學校   | ⑦ 倉敷市立第六小學校   |
| ⑧ 倉敷市立第七小學校   | ⑧ 倉敷市立第七小學校   |
| ⑨ 倉敷市立第八小學校   | ⑨ 倉敷市立第八小學校   |
| ⑩ 倉敷市立第九小學校   | ⑩ 倉敷市立第九小學校   |
| ⑪ 倉敷市立第十小學校   | ⑪ 倉敷市立第十小學校   |
| ⑫ 倉敷市立第十一小學校  | ⑫ 倉敷市立第十一小學校  |
| ⑬ 倉敷市立第十二小學校  | ⑬ 倉敷市立第十二小學校  |
| ⑭ 倉敷市立第十三小學校  | ⑭ 倉敷市立第十三小學校  |
| ⑮ 倉敷市立第十四小學校  | ⑮ 倉敷市立第十四小學校  |
| ⑯ 倉敷市立第十五小學校  | ⑯ 倉敷市立第十五小學校  |
| ⑰ 倉敷市立第十六小學校  | ⑰ 倉敷市立第十六小學校  |
| ⑱ 倉敷市立第十七小學校  | ⑱ 倉敷市立第十七小學校  |
| ⑲ 倉敷市立第十八小學校  | ⑲ 倉敷市立第十八小學校  |
| ⑳ 倉敷市立第十九小學校  | ⑳ 倉敷市立第十九小學校  |
| ㉑ 倉敷市立第二十小學校  | ㉑ 倉敷市立第二十小學校  |
| ㉒ 倉敷市立第二十一小學校 | ㉒ 倉敷市立第二十一小學校 |
| ㉓ 倉敷市立第二十二小學校 | ㉓ 倉敷市立第二十二小學校 |
| ㉔ 倉敷市立第二十三小學校 | ㉔ 倉敷市立第二十三小學校 |
| ㉕ 倉敷市立第二十四小學校 | ㉕ 倉敷市立第二十四小學校 |
| ㉖ 倉敷市立第二十五小學校 | ㉖ 倉敷市立第二十五小學校 |
| ㉗ 倉敷市立第二十六小學校 | ㉗ 倉敷市立第二十六小學校 |
| ㉘ 倉敷市立第二十七小學校 | ㉘ 倉敷市立第二十七小學校 |
| ㉙ 倉敷市立第二十八小學校 | ㉙ 倉敷市立第二十八小學校 |
| ㉚ 倉敷市立第二十九小學校 | ㉚ 倉敷市立第二十九小學校 |
| ㉛ 倉敷市立第三十小學校  | ㉛ 倉敷市立第三十小學校  |

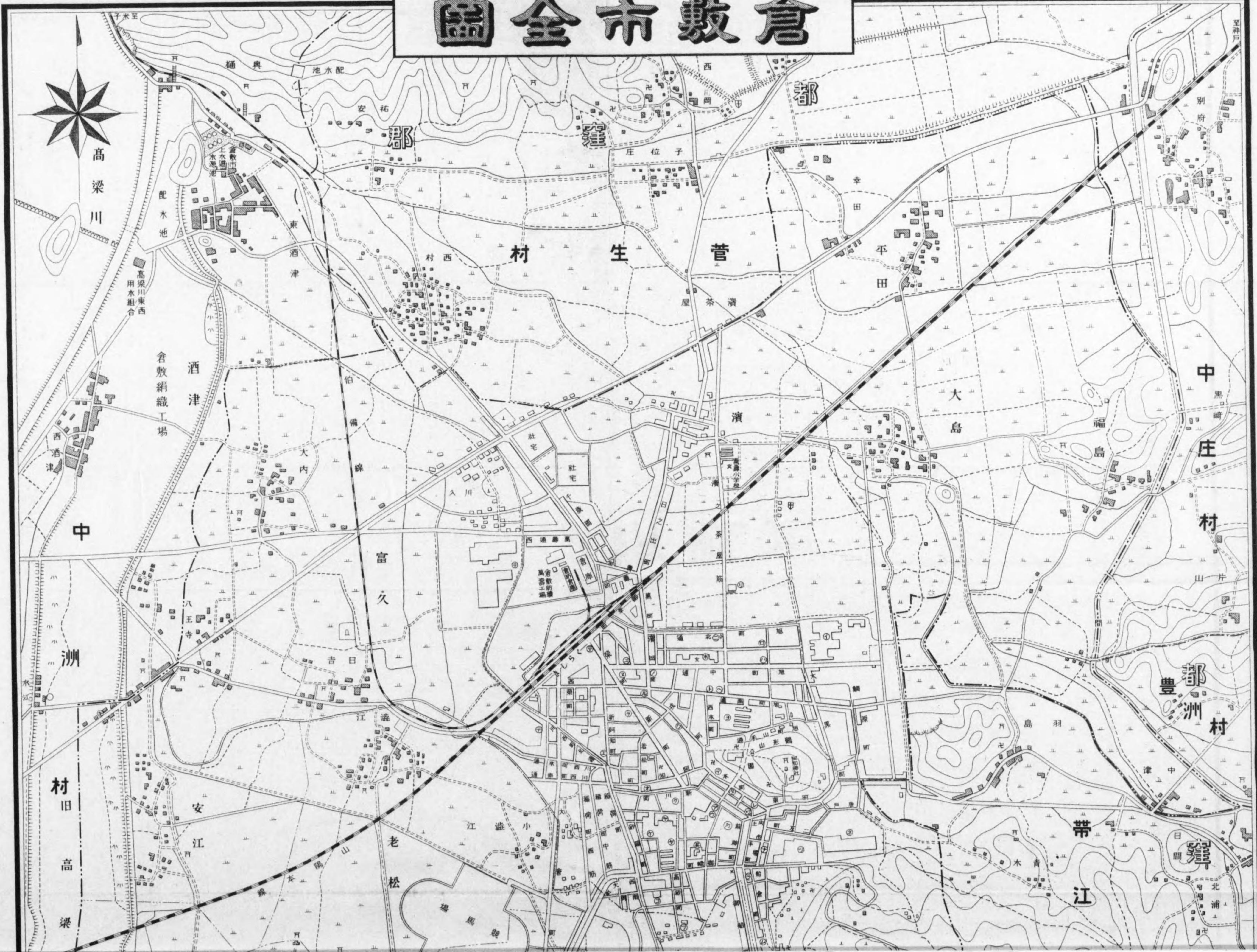


一ノ五五五五二氏一

0003

01

# 倉敷市全圖



高梁川

中洲

村田高梁

富久

菅生村

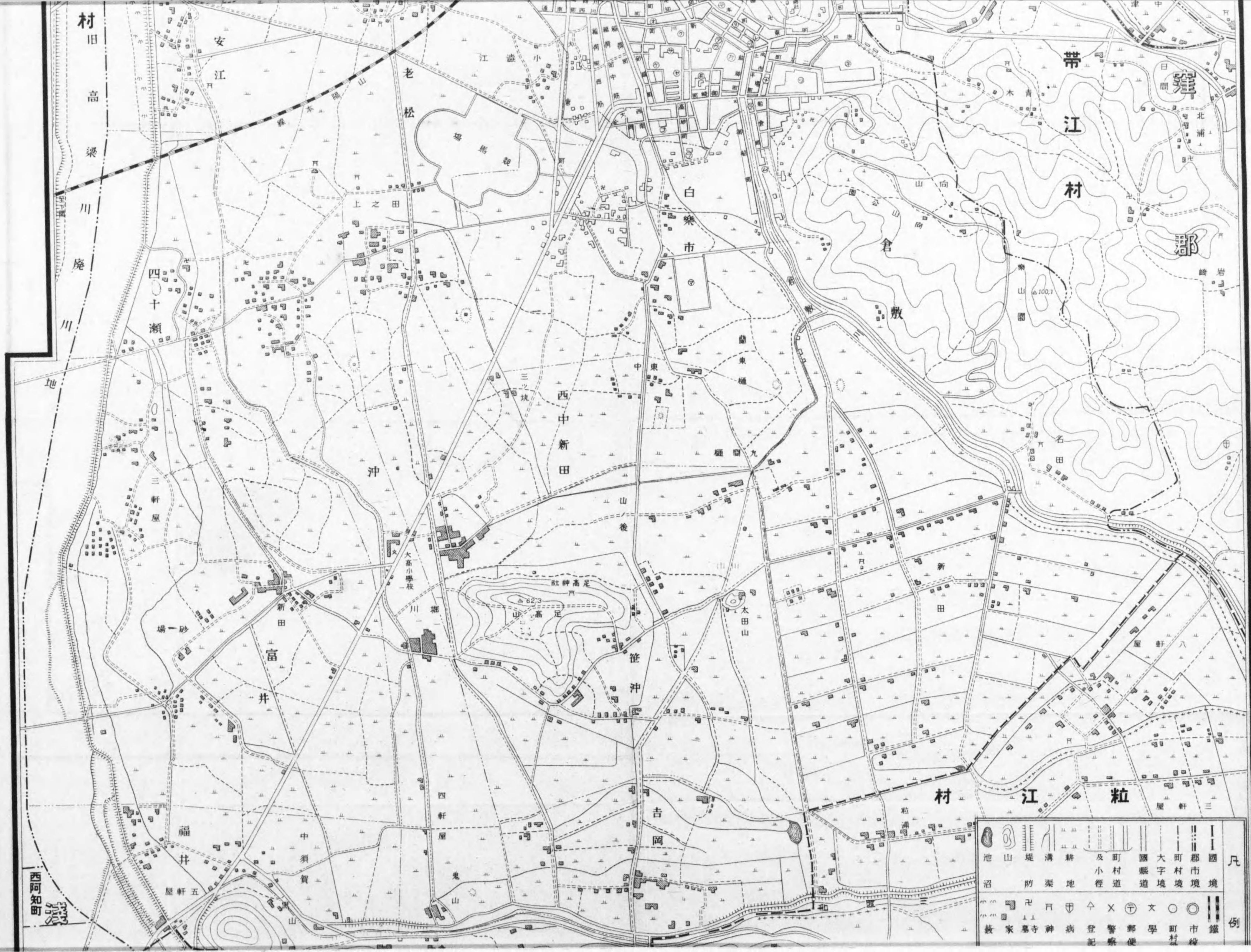
大島

中黒崎庄村

都洲村

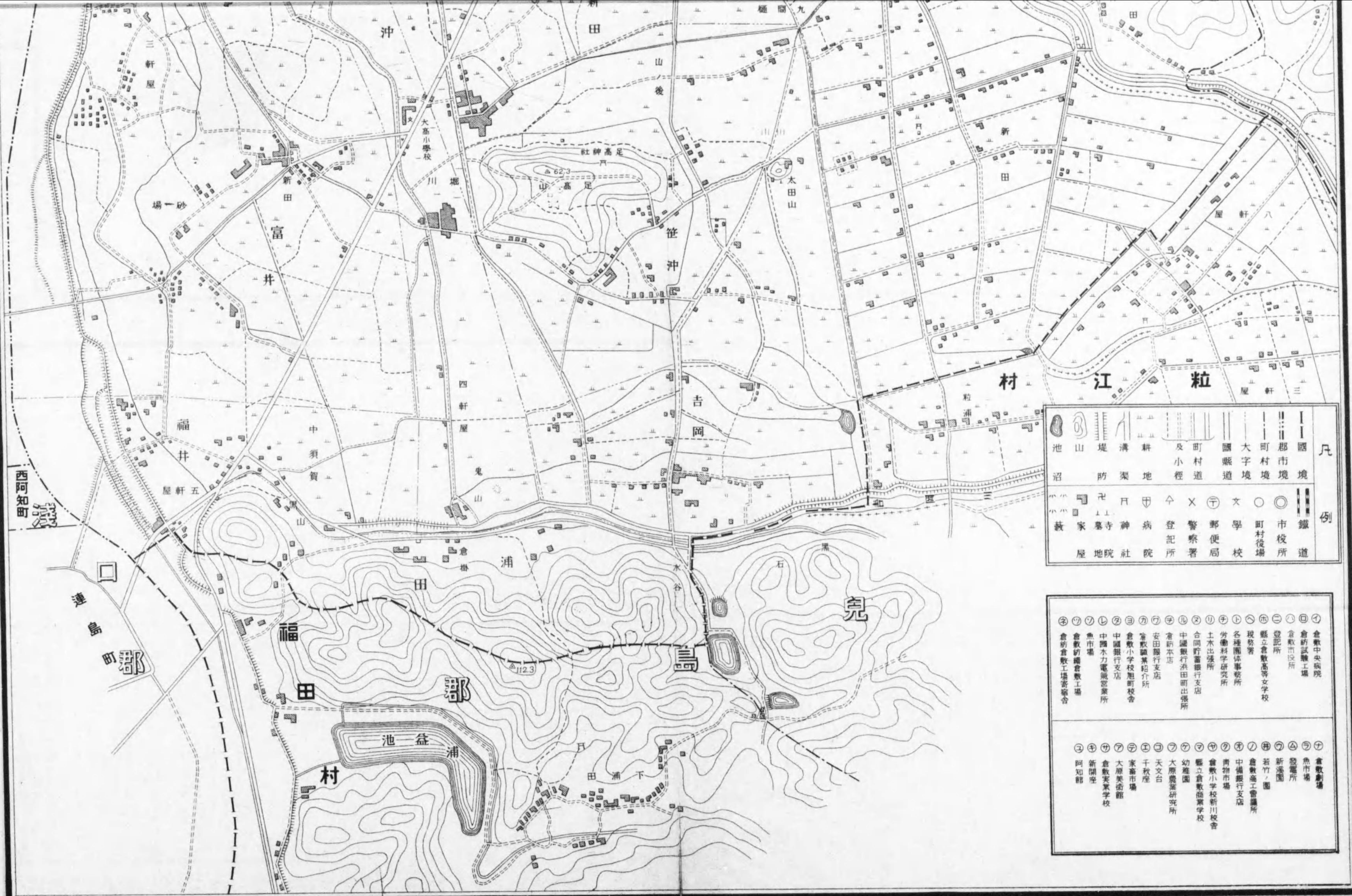
江帶





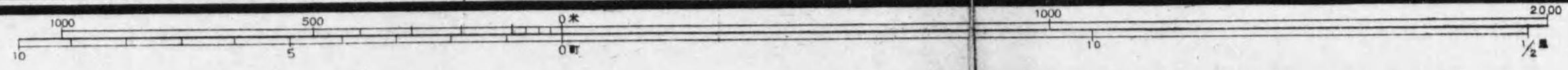
											凡
池	山	堤	溝	耕	及町	國	大	町	郡	國	境
沼		防	渠	地	小	縣	字	村	市	境	境
					徑	道	境	境	境		
											例
社	家	墓	寺	神	病	登	警	郵	學	町	市
敷	家	墓	寺	神	病	登	警	郵	學	町	市
					記	便			村	級	

西阿知町



池沼	山	堤防	溝渠	耕地	町道	町界	大字界	國道	凡	例
學校	家	墓	寺	神	病	登	警	郵	學	町
屋	地	院	社	院	所	署	局	局	校	校

- ① 倉敷中央病院
- ② 倉敷試験工場
- ③ 倉敷市役所
- ④ 登記所
- ⑤ 縣立倉敷高等女學校
- ⑥ 稅務署
- ⑦ 各種團體事務所
- ⑧ 労働科學研究所
- ⑨ 土木出張所
- ⑩ 合同貯蓄銀行支店
- ⑪ 中國銀行赤田出張所
- ⑫ 倉敷本店
- ⑬ 安田銀行支店
- ⑭ 倉敷銀行支店
- ⑮ 倉敷小學校旭町校舎
- ⑯ 中國電力電氣營業所
- ⑰ 倉敷紡績會社工場
- ⑱ 倉敷紡績會社工場
- ⑲ 倉敷劇場
- ⑳ 魚市場
- ㉑ 發賣所
- ㉒ 新築園
- ㉓ 若竹園
- ㉔ 倉敷商工會議所
- ㉕ 中備銀行支店
- ㉖ 南物市場
- ㉗ 倉敷小學校新川校舎
- ㉘ 縣立倉敷商業學校
- ㉙ 幼稚園
- ㉚ 大原農業研究所
- ㉛ 天文台
- ㉜ 千秋座
- ㉝ 家畜市場
- ㉞ 大原美術館
- ㉟ 倉敷美術學校
- ㊱ 新開座
- ㊲ 阿知郡



一 万 二 千 五 百 分 之 一



高梁川

高梁

西林

管

圖

14.4  
994

NO.

PATENTED NO. 119016

**"F-M"**  
**PAMPHLET BINDERS**

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 22.5cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853(菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854(四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855(特)	24. "	x 15. "	x 1 "

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS

**F. MAMIYA & CO.**

OSAKA - TOKYO - FUKUOKA



倉敷市役所

終

